

講義コード	120000401
講義名	解剖生理学 I
開講期	2024年度後期
単位数	2単位
授業形態	講義
担当教員	平林 義章、柴山 久代
ナンバリングコード	19K3Z2102

科目概要	多細胞体である人体は、特殊な機能を持つ細胞群が組織・器官（臓器）を形成している。器官（臓器）はさらに目的に応じて骨・筋・循環器・呼吸器・消化器・泌尿器・生殖器・内分泌器・感覚器・神経系の10系統を形成している。本講義では、細胞・組織レベルから各系統を構成する器官（臓器）の主に構造について学ぶ。
達成目標	「人体の構造と機能」「病気の成り立ち」を学ぶ基礎として、人体を構成する細胞と細胞小器官の構造、組織の種類と分布、個々の系統を構成する器官（臓器）の肉眼的構造と組織学的構造の概要を理解し、説明できる。
履修に必要な予備知識や技能（関連科目等）	生物学の知識
学位授与方針との関連	1. 「社会・環境と健康」「人体の構造・機能および病気の成り立ち」「食べ物と健康」「食品衛生」「調理」など、食べ物と栄養についての基礎的知識と技術を身につける。
授業計画、授業外学習の内容及び必要な時間	
第1回	解剖生理学総論：解剖生理学の学習法、人体の構成（階層性）、学術用語（解剖学用語）、歴史について 細胞の構造：核と細胞質、細胞膜の構造について 系統看護学講座 解剖生理学 人体の構造と機能1（第11版第1刷）p2-30, 36, 解剖生理学のゼミナール（復習と課題）p. 54①②③④⑥⑦およびWebclassの小テストにより予習（60分）と復習（60分）を行う。
第2回	組織の種類と分布：上皮組織、筋組織、支持組織（結合組織）、神経組織 系統看護学講座 解剖生理学 人体の構造と機能1（第11版第1刷）p45-54, 解剖生理学のゼミナール（復習と課題）p. 54⑬⑭⑮⑯⑰およびWebclassの小テストにより予習（60分）と復習（60分）を行う。
第3回	運動器系(1)：骨の形態と組織構造、骨の連結、骨格筋の構造、体幹の骨と筋 系統看護学講座 解剖生理学 人体の構造と機能1（第11版第1刷）p281-306, 解剖生理学のゼミナール（復習と課題）p. 354①⑩およびWebclassの小テストにより予習（60分）と復習（60分）を行う。
第4回	運動器系(2)：上肢の骨格と筋、下肢の骨格と筋、頭頸部の骨格と筋 系統看護学講座 解剖生理学 人体の構造と機能1（第11版第1刷）p306-339, 解剖生理学のゼミナール（復習と課題）p. 354⑱⑲およびWebclassの小テストにより予習（60分）と復習（60分）を行う。
第5回	循環器系(1)：循環器系の構成、心臓の構造、血管の構造、主な動脈と静脈 系統看護学講座 解剖生理学 人体の構造と機能1（第11版第1刷）p149-157, 175-187, 解剖生理学のゼミナール（復習と課題）p208①②③④およびWebclassの小テストにより予習（60分）と復習（60分）を行う。
第6回	循環器系(2)：胎児循環、リンパ管系の構造、リンパ性器官（脾臓、胸腺、リンパ節、扁桃） 系統看護学講座 解剖生理学 人体の構造と機能1（第11版第1刷）p206-208, 447-450, 488-489, 解剖生理学のゼミナール（復習と課題）p208⑫, p457⑥⑦, p499⑨⑩およびWebclassの小テストにより予習（60分）と復習（60分）を行う。
第7回	呼吸器系：呼吸器系の構成、上気道・下気道・肺・胸膜・縦隔の構造 系統看護学講座 解剖生理学 人体の構造と機能1（第11版第1刷）p96-107, 解剖生理学のゼミナール（復習と課題）p165②③④⑤⑥⑦およびWebclassの小テストにより予習（60分）と復習（60分）を行う。
第8回	消化器系(1)：消化器系の構成、口腔・咽頭・食道・胃・小腸・大腸の構造 系統看護学講座 解剖生理学 人体の構造と機能1（第11版第1刷）p56-83, 解剖生理学のゼミナール（復習と課題）p93①②③⑥⑦およびWebclassの小テストにより予習（60分）と復習（60分）を行う。
第9回	消化器系(2)：肝臓・膵臓・胆嚢の構造、腹膜と腹腔の構造 系統看護学講座 解剖生理学 人体の構造と機能1（第11版第1刷）p84-88, 90-93, 解剖生理学のゼミナール（復習と課題）p93⑩⑪⑫⑬⑭⑮およびWebclassの小テストにより予習（60分）と復習（60分）を行う。
第10回	泌尿生殖器系(1)：泌尿器系の構成、腎臓・尿管・膀胱・尿道の構造。生殖器系の発生、男性生殖器系の構成、精巣・精巣上体・精管・精嚢・前立腺・外陰部の構造・男性の生殖機能 系統看護学講座 解剖生理学 人体の構造と機能1（第11版第1刷）p210-217, 222, 225-226, 460-465, 484-485 解剖生理学のゼミナール（復習と課題）p237①②, p499①②③およびWebclassの小テストにより予習（60分）と復習（60分）を行う。

第11回	<p>尿生殖系(2)：女性生殖系の構成・卵巣・卵管・子宮・膣・外陰部・会陰・乳腺・胎盤・臍帯の構造・女性の生殖機能 系統看護学講座 解剖生理学 人体の構造と機能1 (第11版第1刷) p466-475, 488-489, 解剖生理学のゼミナール (復習と課題) p499④⑤⑥およびWebclassの小テストにより予習 (60分) と復習 (60分) を行う。</p>
第12回	<p>神経系(1)：神経系の構成、脳と脊髄の構造、神経路の構成 系統看護学講座 解剖生理学 人体の構造と機能1 (第11版第1刷) p367-382, 392, 395, 解剖生理学のゼミナール (復習と課題) p432①⑥⑦⑧⑬⑭⑰およびWebclassの小テストにより予習 (60分) と復習 (60分) を行う。</p>
第13回	<p>神経系(2)：脳神経・脊髄神経の構成 系統看護学講座 解剖生理学 人体の構造と機能1 (第11版第1刷) p383-391, 解剖生理学のゼミナール (復習と課題) p432⑮⑯およびWebclassの小テストにより予習 (60分) と復習 (60分) を行う。</p>
第14回	<p>感覚器系(1)：視覚器の構造、嗅覚器の構造、味覚器の構造 系統看護学講座 解剖生理学 人体の構造と機能1 (第11版第1刷) p397-403, 413-415, 解剖生理学のゼミナール (復習と課題) p432⑰およびWebclassの小テストにより予習 (60分) と復習 (60分) を行う。</p>
第15回	<p>感覚器系(2)：聴覚平衡覚器の構造、皮膚の構造 系統看護学講座 解剖生理学 人体の構造と機能1 (第11版第1刷) p408-412, 435-438, 解剖生理学のゼミナール (復習と課題) p432⑳, p457①②およびWebclassの小テストにより予習 (60分) と復習 (60分) を行う。</p>
講義進行方法、課題へのフィードバック方法	<p>事前にWebclassで、講義の関係資料および関連する小テストを配布するので、これにより講義の理解を深める。 成績フィードバック期間において成績・課題に関する質問やフィードバックを受け付ける</p>
アクティブラーニング	
講義前・講義後の自主的学修活動への助言	<p>人体の構造と機能には密接な関連性がある。解剖生理学Iでは主に構造について学ぶ。解剖生理学を学ぶ上で最も身近な学習対象が自分自身である。講義の内容は必ずしも教科書と同じ内容とは限らないのでノートを作成すること。また図を多く書くので、色鉛筆などを用意すること。WebClassに資料を添付するので、講義前・講義後の自主学習に利用してほしい。</p>
成績 (達成度) 評価方法・評価基準、割合	<p>Webclassで行う小テスト (50%) およびレポート等の提出物 (50%) により評価する。</p>
教員の実務経験と授業科目との関連	<p>(教員の実務経験と授業科目との関連) 臨床検査技師としての実務経験を有しており、人体解剖等の実務経験を解剖生理学の人体の構造の理解に役立てた教育を実践している。</p>
テキスト	

書名	著者	出版社	ISBN	備考
『系統看護学講座 解剖生理学』	坂井建雄、岡田隆夫	医学書院	978-4-260-03171-4	2018

参考図書など

書名	著者	出版社	ISBN	備考
『日本人体解剖学 1.2巻』	金子 丑之助 原著	南山堂	978-4-525-10089-6	2000
『分担解剖学 1.2.3巻』	森 於菟 他	金原出版	978-4-307-00341-4	1982
『Netter解剖学アトラス (電子書籍付)』	相磯貞和 訳	南江堂	978-4-524-25559-7	2016
『栄養科学イラストレイテッド演習版 解剖生理学ノート』	志村二三夫、岡純、山田和彦/編	羊土社	978-4-7581-0890-4	2010
『管理栄養士のためのイラスト解剖生理学』	開道貴信	講談社	978-4-06-518042-6	2021
『Essential Anatomy (電子書籍)』	3D4Medical.com			

参考URL

NO	表示名	URL	説明
1.			
2.			
3.			
4.			

講義コード	120000502
講義名	解剖生理学Ⅱ
開講期	2024年度前期
単位数	2単位
授業形態	講義
担当教員	平林 義章
ナンバリングコード	19K3Z3102

科目概要	多細胞体である人体は、特殊な機能を持つ細胞群が組織・器官（臓器）を形成している。器官（臓器）はさらに目的に応じて骨・筋・循環器・呼吸器・消化器・泌尿器・生殖器・内分泌器・感覚器・神経系の10系統を形成している。本講義では、細胞・組織レベルから、各系統を構成する器官（臓器）の主に機能について学ぶ。
達成目標	「人体の構造と機能」「病気の成り立ち」を学ぶ基礎として、人体を構成する細胞と細胞小器官の働き、個々の系統を構成する器官（臓器）の働きと相互作用について理解し、説明できるようにする。
履修に必要な予備知識や技能（関連科目等）	生物学、生化学の知識。解剖生理学Ⅰで学習した知識。
学位授与方針との関連	1. 「社会・環境と健康」「人体の構造・機能および病気の成り立ち」「食べ物と健康」「食品衛生」「調理」など、食べ物と栄養についての基礎的知識と技術を身につける。
授業計画、授業外学習の内容及び必要な時間	
第1回	細胞膜と細胞小器官の機能 血液の生理：血液の組成、血液の機能、血液型、血液凝固と線溶 系統看護学講座 解剖生理学 人体の構造と機能1（第11版第1刷）p27-30, 36-42, 126-147, 441-447 解剖生理学のゼミナール（復習と課題）p54⑦⑩⑪, p148⑮⑯⑰⑱, p457⑤およびWebclassの小テストにより予習（60分）と復習（60分）を行う。
第2回	循環の生理（1）：心筋の生理学的特性、心電図、心臓のポンプ機能、心機能調節 系統看護学講座 解剖生理学 人体の構造と機能1（第11版第1刷）p157-175, p348-349, 解剖生理学のゼミナール（復習と課題）p208①⑤⑥⑦, p355⑳およびWebclassの小テストにより予習（60分）と復習（60分）を行う。
第3回	循環の生理（2）：血管の働き、血圧、循環調節、リンパ管系の働き 系統看護学講座 解剖生理学 人体の構造と機能1（第11版第1刷）p187-206, 解剖生理学のゼミナール（復習と課題）p208⑧⑨⑩⑪およびWebclassの小テストにより予習（60分）と復習（60分）を行う。
第4回	呼吸の生理：換気、ガス交換、血液ガス、肺換気量の調節 系統看護学講座 解剖生理学 人体の構造と機能1（第11版第1刷）p108-126, 解剖生理学のゼミナール（復習と課題）p148⑧⑨⑩⑪⑫⑬およびWebclassの小テストにより予習（60分）と復習（60分）を行う。
第5回	消化器の生理：消化管の運動とその調節、消化、吸収、排便、肝臓の機能、膵臓の機能 系統看護学講座 解剖生理学 人体の構造と機能1（第11版第1刷）p56-90, 解剖生理学のゼミナール（復習と課題）p93④⑤⑥⑧⑨⑫⑬およびWebclassの小テストにより予習（60分）と復習（60分）を行う。
第6回	内分泌器の生理（1）：ホルモンの一般的性状、視床下部のホルモン、下垂体のホルモン、甲状腺のホルモン、副甲状腺のホルモン 系統看護学講座 解剖生理学 人体の構造と機能1（第11版第1刷）p249-263, 273-280, 解剖生理学のゼミナール（復習と課題）p280⑤⑥⑨⑩およびWebclassの小テストにより予習（60分）と復習（60分）を行う。
第7回	内分泌器の生理（2）：副腎のホルモン、膵臓のホルモン、性腺のホルモン、松果体のホルモン、その他のホルモン 系統看護学講座 解剖生理学 人体の構造と機能1（第11版第1刷）p263-273, 275-280, 解剖生理学のゼミナール（復習と課題）p280⑧⑩⑫およびWebclassの小テストにより予習（60分）と復習（60分）を行う。
第8回	尿の生成と排泄：糸球体濾過、尿細管の再吸収と分泌、排尿 系統看護学講座 解剖生理学 人体の構造と機能1（第11版第1刷）p214-225, 227-230, 解剖生理学のゼミナール（復習と課題）p237③④⑤⑥およびWebclassの小テストにより予習（60分）と復習（60分）を行う。
第9回	体液とその調節：体液の区分と水バランス、体液のイオン組成、体液調節、酸塩基平衡 系統看護学講座 解剖生理学 人体の構造と機能1（第11版第1刷）p38-40, 203, 230-237, 解剖生理学のゼミナール（復習と課題）p54⑤, p237⑧⑨⑩およびWebclassの小テストにより予習（60分）と復習（60分）を行う。

第10回	筋の生理：筋収縮のしくみ、筋細胞膜を興奮させるしくみ、骨格筋の収縮の仕方、平滑筋の収縮の仕方、エネルギー代謝 系統看護学講座 解剖生理学 人体の構造と機能1（第11版第1刷）p339-355, 解剖生理学のゼミナール（復習と課題）p355①②③④およびWebclassの小テストにより予習（60分）と復習（60分）を行う。			
第11回	神経の生理（1）：神経の基本的機能、脊髄と脳幹の機能、小脳の機能、大脳の機能、大脳基底核の機能 系統看護学講座 解剖生理学 人体の構造と機能1（第11版第1刷）p358-382, 解剖生理学のゼミナール（復習と課題）p432②③④⑤⑥⑨⑩⑪⑫およびWebclassの小テストにより予習（60分）と復習（60分）を行う。			
第12回	神経の生理（2）：中枢神経の高次機能、自律神経の機能、内臓反射 系統看護学講座 解剖生理学 人体の構造と機能1（第11版第1刷）p241-249, 420-431, 解剖生理学のゼミナール（復習と課題）p280②③, p432⑫⑬およびWebclassの小テストにより予習（60分）と復習（60分）を行う。			
第13回	感覚器の生理（1）：体性感覚、内臓感覚、視覚 系統看護学講座 解剖生理学 人体の構造と機能1（第11版第1刷）p393-397, 403-407, 解剖生理学のゼミナール（復習と課題）p432⑯およびWebclassの小テストにより予習（60分）と復習（60分）を行う。			
第14回	感覚器の生理（2）：聴覚、平衡覚、嗅覚、味覚 系統看護学講座 解剖生理学 人体の構造と機能1（第11版第1刷）p412-415, 解剖生理学のゼミナール（復習と課題）p432⑳およびWebclassの小テストにより予習（60分）と復習（60分）を行う。			
第15回	体温とその調節：熱産生と熱放散、体温調節機構、発熱、高体温と低体温 系統看護学講座 解剖生理学 人体の構造と機能1（第11版第1刷）p451-457, 解剖生理学のゼミナール（復習と課題）p491⑧⑨⑩⑪およびWebclassの小テストにより予習（60分）と復習（60分）を行う。			
講義進行方法、課題へのフィードバック方法	事前にWebclassで、講義の関係資料および関連する小テストを配布するので、これにより講義の理解を深める。 本年度は、対面授業の他、PowerPointによる講義、WebClassによる課題提出などを組み合わせたオンデマンド型の双方向型授業を実施。 成績フィードバック期間において成績・課題に関する質問やフィードバックを受け付ける			
アクティブラーニング				
講義前・講義後の自主的学修活動への助言	人体の構造と機能には密接な関連性がある。解剖生理学IIでは主に機能について学ぶ。解剖生理学を学ぶ上で最も身近な学習対象が自分自身である。講義の内容は必ずしも教科書と同じ内容とは限らないのでノートを作成すること。また図を多く書くので、色鉛筆などを用意すること。WebClass等に参考資料をあげるので講義前・講義後の自主学習の参考にすること。			
成績（達成度）評価方法・評価基準、割合	定期試験は行わない。Webclassで行う小テスト（50%）およびレポート等の提出物（50%）により評価する。			
教員の実務経験と授業科目との関連	（教員の实務経験と授業科目との関連） 臨床検査技師としての実務経験を有しており、人体解剖等の実務経験を解剖生理学の人体の機能の理解に役立てた教育を実践している。			
テキスト				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
『系統看護学講座 解剖生理学』	坂井健雄、岡田隆夫	医学書院	978-4-260-03171-4	2018
参考図書など				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
『管理栄養士のためのイラスト解剖生理学』	開道貴信	講談社	978-4-06-518042-6	2021
『やさしい生理学』	彼末一之、能勢 博	南江堂	978-4-524-25417-0	2017
『わかりやすい人体の構造と機能』	塩田浩平	中山書店	978-4-521-73762-1	2013
『栄養科学イラストレイテッド演習版 解剖生理学ノート』	志村二三夫、岡純、山田和彦/編	羊土社	978-4-7581-0890-4	2010
『人体機能生理学』	杉 晴夫	南江堂	978-4-524-25364-7	2009
参考URL				
NO	表示名	URL	説明	
1.				
2.				
3.				
4.				
5.				

講義コード	120000701
講義名	解剖生理学実験Ⅱ
開講期	2024年度後期
単位数	1単位
授業形態	実験
担当教員	平林 義章
ナンバリングコード	19K3Z4101

科目概要	解剖生理学Ⅰ・Ⅱの講義で学んだ知識を、実験を通して再確認する。体指数・肥満度の測定、心機能測定、肺機能測定、体温測定、血液検査、感覚器検査など、人体の機能（生理学）検査を中心に行い、種々の生命現象について理解を深めることを主眼としている。なお、実験の順番は変更する可能性がある。
達成目標	「人体の構造と機能」「病気の成り立ち」を学ぶ基礎として、実験で得られた結果に基づき、各臓器や器官系の機能を総合的に理解し、その生命現象を簡潔に説明できるようにする。
履修に必要な予備知識や技能（関連科目等）	生物学の知識、解剖生理学ⅠおよびⅡの知識、基本的な実験機器の取扱い方
学位授与方針との関連	1. 「社会・環境と健康」「人体の構造・機能および病気の成り立ち」「食べ物と健康」「食品衛生」「調理」など、食べ物と栄養についての基礎的知識と技術を身につける。 4. 主体的に課題に取り組み、自ら考える姿勢を持ち、修得した知識や技術を活用して問題を解決し、発信する能力を身につける。
授業計画、授業外学習の内容及び必要な時間	
第1回	循環器系および体温調節の実験（実験講義）：1)心臓の位置、2)心音の聴取、3)心電図測定：双極肢誘導と増幅単極肢誘導、4)脈拍測定：安静時脈拍および、運動負荷脈拍と運動強度の測定、5)血圧測定：体位変換による上腕の足首の血圧差について、運動負荷による血圧の変化、6)体温測定：口腔温と腋窩温の差異について、運動負荷による体温の変化についての実験講義を行う。事前に配布した実験のプリント（解説および設問）を用いて予習（60分）を行い、返却されたレポートで復習（60分）を行う。
第2回	循環器系および体温調節の実験（実験1）：1,2,3班は1),2),3),4)の実験を行う。4,5,6班は5),6)の実験を行う。事前に配布した実験のプリント（解説および設問）を用いて予習（60分）を行い、返却されたレポートで復習（60分）を行う。
第3回	循環器系および体温調節の実験（実験2）：1,2,3班は5),6)の実験を行う。4,5,6班は1),2),3),4)の実験を行う。事前に配布した実験のプリント（解説および設問）を用いて予習（60分）を行い、返却されたレポートで復習（60分）を行う。
第4回	耐糖試験および唾液アミラーゼ活性測定（実験講義）：1)75gグルコース糖付加試験、2)ヨウ素デンプン反応による唾液アミラーゼ活性測定の実験の実験講義を行う。事前に配布した実験のプリント（解説および設問）を用いて予習（60分）を行い、返却されたレポートで復習（60分）を行う。
第5回	耐糖試験および唾液アミラーゼ活性測定（実験1）：1,2,3班は1)の実験を行う。4,5,6班は2)の実験を行う。事前に配布した実験のプリント（解説および設問）を用いて予習（60分）を行い、返却されたレポートで復習（60分）を行う。
第6回	耐糖試験および唾液アミラーゼ活性測定（実験2）：1,2,3班は2)の実験を行う。4,5,6班は1)の実験を行う。事前に配布した実験のプリント（解説および設問）を用いて予習（60分）を行い、返却されたレポートで復習（60分）を行う。
第7回	肺機能測定、体指数と肥満度の測定および感覚器検査（実験講義）：1)スパイロメーターによる肺活量、努力肺活量、1秒率、最大換気量の測定、2)体指数（BMI、ローレル指数、ベルベック指数など）の測定と肥満の判定、3)皮膚感覚（感覚点の密度と閾値）の測定、4)深部感覚（重量感覚）の測定、5)二点弁別皮膚感覚の測定、6)味覚の閾値の測定の実験講義を行う。事前に配布した実験のプリント（解説および設問）を用いて予習（60分）を行い、返却されたレポートで復習（60分）を行う。
第8回	肺機能、体指数と肥満度の測定および感覚器検査（実験1）：1,2,3班は1),2)の実験を行う。4,5,6班は3),4),5),6)の実験を行う。事前に配布した実験のプリント（解説および設問）を用いて予習（60分）を行い、返却されたレポートで復習（60分）を行う。
第9回	肺機能、体指数と肥満度の測定および感覚器測定（実験2）：1,2,3班は3),4),5),6)の実験を行う。4,5,6班は1),2)の実験を行う。事前に配布した実験のプリント（解説および設問）を用いて予習（60分）を行い、返却されたレポートで復習（60分）を行う。

第10回	ラットの解剖（実験講義）：1) 実験動物の取扱いと関連法規について、2) ラットの解剖の進め方、3) ラットの臓器・器官とヒトの臓器・器官との比較（比較解剖学）についての実験講義を行う。事前に配布した実験のプリント（解説および設問）を用いて予習（60分）を行い、返却されたレポートで復習（60分）を行う。			
第11回	ラットの解剖（実験）：1～6班：実験講義に従ってラットの解剖を行い、各臓器・器官の重量・長さ等を計測する。ラットの臓器・器官の実測値から比体重・比身長を算出し、ヒトの臓器・器官の比体重・比身長と比較を行う。事前に配布した実験のプリント（解説および設問）を用いて予習（60分）を行い、返却されたレポートで復習（60分）を行う。			
第12回	血液検査（実験講義）ヒツジ血液、ヒツジ血漿、ヒト血液を用いた、1) 赤血球数、2) 白血球数、3) ヘマトクリット値、4) 白血球百分率、5) 赤血球抵抗（低張法と高張法）、6) 血液凝固（カルシウム再加試験）、7) 線維素溶解の実験講義を行う。事前に配布した実験のプリント（解説および設問）を用いて予習（60分）を行い、返却されたレポートで復習（60分）を行う。			
第13回	血液検査（実験1）：1, 2, 3班は1), 2), 3), 4)の実験を行う。4, 5, 6班は5), 6), 7)の実験を行う。事前に配布した実験のプリント（解説および設問）を用いて予習（60分）を行い、返却されたレポートで復習（60分）を行う。			
第14回	血液検査（実験2）：1, 2, 3班は5), 6), 7)の実験を行う。4, 5, 6班は1), 2), 3), 4)の実験を行う。事前に配布した実験のプリント（解説および設問）を用いて予習（60分）を行い、返却されたレポートで復習（60分）を行う。			
第15回	データの解析：今まで行ってきた実験の解説と、仮想データを用いてそのデータが正常か異常かを判定し、病態について検索を行う。事前に配布した実験のプリント（解説および設問）を用いて予習（60分）を行い、返却されたレポートで復習（60分）を行う。			
講義進行方法、課題へのフィードバック方法	実験開始前にすべての実験のプリント（解説および実験方法）と実験ノート（実験結果を書き込むプリント）をWebClassより配布するので、この資料により事前学習を行う。実験当日にその日の実験手技の手順と注意点を解説する。実験は班ごとに行い、グループディスカッションをしながら結果の考察をまとめ実験終了時に各自レポートを提出する。後日、修正・解説したレポートを返却する。なお、実験材料の納入等の関係により、実習予定が変更になることがある。			
アクティブラーニング	ディスカッション、ディベート／実習、フィールドワーク／グループワーク			
講義前・講義後の自主的学修活動への助言	実験内容を示したプリント、実験ノートは、WebClassを通じて事前に配布する。第1週目に実験講義を行う。第2週目、第3週目に実験を行うので、当日までに基礎知識を整理し、当日速やかに実験ができるようにしておくこと。実験項目ごとに課題を出すので、レポートにまとめて提出する。			
成績（達成度）評価方法・評価基準、割合	提出レポート（100%）により評価する。実験結果をわかりやすいようにグラフ・表などにまとめてあるか、考察（どのようにしてその様な結果になったか）が適切に書かれているかどうかを重点に評価する。			
教員の実務経験と授業科目との関連	（教員の実務経験と授業科目との関連） 臨床検査技師としての実務経験を有しており、解剖生理学実験IIで行う心電図、肺機能測定、血液検査などの実験を行う折、実験の指導、検査結果の考察と理解に役立てた教育を実践している。			
テキスト				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
『特になし』				
参考図書など				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
『系統看護学講座 解剖生理学』	坂井健雄、岡田隆夫	医学書院	978-4-260-03171-4	2018
参考URL				
NO	表示名	URL	説明	
1.				
2.				
3.				
4.				
5.				

講義コード	120004601
講義名	給食経営管理学
開講期	2024年度後期
単位数	2単位
授業形態	講義
担当教員	石川 豊美
ナンバリングコード	19K4Z4106

科目概要	給食運営や関連サービスを総合的に判断し、栄養面・安全衛生面・経済面など全般のマネジメントを行う能力を養うことを目的とする。フードシステム、マーケティング、フードサービスの原理や応用を理解するとともに組織管理などのマネジメントの基本的な考え方や方法を学習し、給食の経営管理を修得する。
達成目標	給食の経営管理に必要なマネジメントの技術を修得し、各施設に応じた給食実務、経営管理、給食計画を応用展開できる能力を身につける。
履修に必要な予備知識や技能（関連科目等）	経営管理に必要な給食経営資源を的確に把握するためにも、他の教科と深い関連があるので、基礎知識を身につけてほしい。また、給食経営管理実習および臨地実習において、理解力と実践力が評価されるので予習・復習を含めた積極的な受講を期待する。応用栄養学・栄養教育・衛生学・社会科学等の関連分野を統合化し、広範囲な視野を養うよう努力してほしい。
学位授与方針との関連	2. 「基礎および応用栄養学」「栄養教育」「臨床栄養」「公衆栄養」「給食経営管理」など、栄養に関する専門知識と応用技術を身につける。
授業計画、授業外学習の内容及び必要な時間	
第1回	マネジメントの基本 経営管理の意義目的、組織、経営資源、経営戦略 給食の定義・健康増進法を再確認し、外食産業市場における給食の規模、特定給食施設数の推移や構成割合、管理栄養士・栄養士の配置数などについて現状を把握する。 キーワード：給食・特定給食施設・管理栄養士・栄養士配置、 キーワードの予習に60分、管理栄養士・栄養士の配置規定の復習に60分。
第2回	原価管理（1） 原価管理の意義・目的、原価の構成 計画的に原価管理を進めていくために必要な原価管理の意義・目的、原価の構成について理解する。 キーワード：原価、原価の三要素、直接費、間接費 キーワードの予習に60分、原価の要素の復習に60分。
第3回	原価管理（2） 財務諸表、評価 代表的な財務諸表と原価の分析評価法を解説する。 キーワード：貸借対照表、損益計算書、キャッシュフロー計算書、損益分岐点 キーワードの予習に60分、損益分岐点分析の復習に60分。
第4回	人事・労務管理 人事・労務管理の意義・目的、範囲、労働基準法と労働災害について解説する。さらに人材育成、人事考課について特徴を整理する。 キーワード：労働三法、労働災害、OJT、Off-JT、人事考課 キーワードの予習に60分、授業後労働事例の原因と対策を考えるのに60分。
第5回	危機管理 危機管理の意義・目的、災害・事故の種類と影響、危機管理対策。地震のような災害発生時にも給食を継続するためには日頃からの準備が必要である。災害時に臨機応変に対応できるためのスキルについて解説する。 キーワード：危機管理、インシデント、アクシデント、ハインリッヒの法則、 キーワードの予習に60分、授業後、備蓄食材を使用した献立等の立案に60分。
第6回	給食におけるマーケティング マーケティングの定義、機能、戦略 喫食者を中心にして満足度の高い食事を提供するためにどうすればよいのかについて考える。 キーワード：ニーズとウォンツ、市場調査、マーケティングミックス キーワードの予習に60分、メニュー、食材のそれぞれの観点からまとめるのに60分。
第7回	給食における顧客サービス 顧客管理の意義・目的、顧客満足度の把握と評価 顧客との良好な関係を維持するため必要な顧客管理の意義・目的や顧客満足度について解説する。 キーワード：顧客満足度、従業員満足度、潜在クレーム、顕在クレーム キーワードの予習に60分、プリントのまとめに60分。
第8回	生産管理 給食における生産システムと生産計画・工程管理 各種生産システムの特徴を理解し、常に一定の品質の食事を提供するためには献立や調理作業をどのように標準化すればよいのかについて考える。 キーワード：コンベンショナルシステム、レディフードシステム、セントラルキッチンシステム キーワードの予習に60分、各生産システムの特徴のまとめに60分。
第9回	給食における品質管理 品質の概念、品質基準、標準化、品質管理活動の評価 給食における品質の概念、品質基準、標準化、品質管理活動の流れについて理解する。 キーワード：設計品質、適合品質、総合品質 キーワードの予習に60分、品質の定義のまとめに60分。

第10回	<p>食事サービス管理 食事サービス、適温管理、利用者サービス 食事環境も含め、利用者の満足度を高めるためのサービスについて考える。 キーワード：適温管理、食数管理、食事環境整備 キーワードの予習に60分、授業後、各供食システムの要点のまとめに60分。</p>			
第11回	<p>給食運営の委託 委託の目的、形態および方法、外部委託の状況について 委託と受託の違いを理解する。施設ごとに根拠法が異なり、委託できる業務と委託できない業務がある。キーワード：管理費契約、食単価契約 キーワードの予習に60分、授業後に各根拠法の確認、整理に60分。</p>			
第12回	<p>各種給食施設における給食の位置付けと給食経営（1） 病院、院外調理、配食サービス 医療法、健康保険法の入院時食事療養制度等の根拠法の本文を確認し、制度について理解する。 キーワード：医療法、入院時食事療養制度 キーワードの予習に60分、栄養管理の基準、診療報酬、食事療養費等のまとめに60分</p>			
第13回	<p>各種給食施設における給食の位置付けと給食経営（2） 学校 学校給食法・学校給食摂取基準について解説する。 キーワード：学校給食法、学校給食摂取基準 キーワードの予習に60分、学校給食法・学校給食摂取基準、学校給食衛生管理の基準の復習に60分。</p>			
第14回	<p>各種給食施設における給食の位置付けと給食経営（3） 福祉施設（児童・高齢者・障害者） 施設別の根拠法を確認し、それぞれの施設の運営上の特徴について解説する。 キーワード：児童福祉法、老人福祉法、介護保険法、障害者総合支援法 キーワードの予習に60分、施設別に栄養士の配置基準・栄養管理の基準等についてまとめるのに60分。</p>			
第15回	<p>各種給食施設における給食の位置付けと給食経営（4） 事業所 労働安全衛生規則、事業所付属寄居宿舎規定を確認するとともに、企業に実施が義務付けられている特定健診・特定保健指導についても内容を把握しておいてほしい。 キーワード：特定健診・特定保健指導、健康経営 キーワードの予習に60分、THPについてまとめるのに60分。</p>			
講義進行方法、課題へのフィードバック方法	<p>4講ごとに、講義内容の理解度チェックのための確認テストを行う。フードシステム、マーケティング、フードサービスの原理や応用を理解するとともに組織管理などのマネジメントの基本的な考え方や方法を学習し、給食の経営管理を修得する。成績フィードバック期間において成績・課題に関する質問やフィードバックを受け付ける。</p>			
アクティブラーニング				
講義前・講義後の自主的学修活動への助言	<p>特定給食施設の種類は多く、それぞれ根拠法が異なり、利用者のニーズも異なる。各種施設の特徴について情報を収集し、理解の一助としてほしい。</p>			
成績（達成度）評価方法・評価基準、割合	<p>4回の確認テストと課題、定期試験の得点を総合して評価する。4講ごとに、講義内容の理解度チェックのための確認テストを行う。定期試験では論述問題を中心に出題し、小項目がつながり、それぞれのシステムとして理解できているかどうかを確認する。定期試験80%、確認テスト20%</p>			
教員の実務経験と授業科目との関連	<p>（教員の实務経験と授業科目との関連） 事業所給食に関する実務経験を有しており、その実務経験を本授業科目の給食の運営および経営管理の内容に生かした実践的な教育を実施している。</p>			
テキスト				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
実践給食マネジメント論	高城孝助他	第一出版	978-4-8041-1437-8	2021
カレント給食経営管理論	松井元子・富田圭子	建帛社	978-4-7679-0696-6	2021
参考図書など				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
給食経営管理論	三好恵子他	第一出版	978-4-8041-1468-2	2023
管理栄養士・栄養士必携		第一出版		2024
給食経営管理用語辞典	日本給食経営管理学会	第一出版	978-4-8041-1420-0	2020
参考URL				
NO	表示名	URL	説明	
1.				
2.				

講義コード	120004701
講義名	給食実務論
開講期	2024年度前期
単位数	2単位
授業形態	講義
担当教員	石川 豊美
ナンバリングコード	19K4Z3103

科目概要	近年管理栄養士を取り巻く社会環境は大きく変化し、保健・医療・福祉等における食生活の課題に対応できる給食施設が求められている。管理栄養士の実務の基本である給食管理・運営に必要なマネジメントの基礎能力を養い、喫食者のニーズに対応した食事提供ができるよう、給食実務の基本全般について学習する。
達成目標	特定給食施設において、経営・栄養・衛生・作業・施設管理等円滑な給食運営を行うために必要な実務内容について知識と技術を習得し、実践できる能力を身につける。
履修に必要な予備知識や技能（関連科目等）	ライフステージ栄養学・栄養教育・衛生学・社会科学等の関連分野を統合化し、広範囲な視野を養うよう努力してほしい。
学位授与方針との関連	2. 「基礎および応用栄養学」「栄養教育」「臨床栄養」「公衆栄養」「給食経営管理」など、栄養に関する専門知識と応用技術を身につける。
授業計画、授業外学習の内容及び必要な時間	
第1回	給食の概念 特定給食施設の意義・役割・種類・特徴について理解する。 キーワード：給食・特定給食施設・管理栄養士・栄養士配置基準 キーワードの予習に60分、健康増進法および健康増進法施行規則の復習に60分。
第2回	給食の運営とマネジメント 給食経営の資源、組織の原則、組織の形態等について理解する。 キーワード：経営資源（5M） キーワードの予習に60分、プリントの復習に60分。
第3回	栄養・食事管理 栄養計画の意義・目的、アセスメント、給与栄養目標量 栄養計画の意義・目的、アセスメント、栄養補給法、献立作成基準について理解する。 キーワード：栄養アセスメント、献立作成基準、栄養補給法 キーワードの予習に60分、栄養アセスメント項目・献立作成基準の復習に60分。
第4回	献立管理（1） 食品群別荷重平均成分表、食品構成 「日本人の食事摂取基準（2020年版）」を集団に用いる方法について理解し、集団の給与栄養目標量を設定する。さらに食品構成を作成するために必要な荷重平均食品成分表の作成方法を理解する。 キーワード：給与栄養目標量、荷重平均食品成分表 キーワードの予習に60分、荷重平均食品成分表の演習問題に60分。
第5回	献立管理（2） 食品構成 給与栄養目標量を献立にするためのステップとしての食品構成の作成について理解する。献立の役割について理解し、食品構成を活用して期間献立を作成できるようにする。 キーワード：食品構成、期間献立 キーワードの予習に60分、食品構成表の演習問題に60分。
第6回	献立管理（3） 食事計画、栄養補給法 献立とレシピの違いについて理解し、レシピの作成に必要なスキルについて確認する。 キーワード：献立・レシピ・重量変化・調味濃度 キーワードの予習に60分、期間献立の立案に60分。
第7回	献立管理（4） 献立計画 モデル献立を用いて立案された献立を調理・供食するために必要な帳票類について理解する。 キーワード：レシピ・作業工程表 キーワードの予習に60分、レシピ、作業工程表の作成に60分
第8回	食材管理（1） 食材管理の目的、食材の分類、食材の購入管理 食材管理の目的、食材の分類、献立に基づいた大量の食材料の選定について理解する。 キーワード：F・I・I、相見積もり、随意契約、競争入札、単価契約 キーワードの予習に60分、契約方法のまとめに60分。
第9回	食材管理（2） 発注、検収、保管、在庫管理、評価 発注、検収、保管、在庫管理、評価までの一連の流れについて理解する。 キーワード：発注・発注係数・検収・期間食材料費 キーワードの予習に60分、発注量の算出に関する課題プリントに60分。

第10回	安全・衛生管理（1） HACCP 給食施設における食中毒の発生状況について現状を把握し、食中毒予防のためのHACCPについて理解する。 キーワード：HACCP、二次汚染 キーワードの予習に60分、食中毒の原因・特徴・予防の復習に60分。			
第11回	安全・衛生管理（2） 大量調理施設衛生管理マニュアル 大量調理施設衛生管理マニュアルの制定の経緯と内容について理解する。 キーワード：大量調理施設衛生管理マニュアル キーワードの予習に60分、大量調理施設衛生管理マニュアルの暗記に60分。			
第12回	調理工程計画（1） 大量調理の特徴 大量調理と少量調理との相違点を認識し、大量調理の特徴や留意点について理解する。 キーワード：付着水、廃棄率、重量変化、調味濃度、標準化 キーワードの予習に60分、大量調理の特徴の復習に60分。			
第13回	調理工程計画（2） 調理工程計画の実際 レシピから作業工程計画を計画するための留意点について解説する。 キーワード：水、廃棄率、重量変化、調味濃度、標準化 キーワードの予習に60分、課題レシピの作成に60分。			
第14回	施設・設備管理（1） 施設・設備管理の概要、調理室の形態、内装、関連設備 給食の運営に大きな影響を及ぼす施設・設備の概要、調理室の形態、内装、関連設備について理解する。 キーワード：作業動線、ドライシステム キーワードの予習に60分、大量調理施設衛生管理マニュアルとの関連についてまとめるのに60分。			
第15回	施設・設備管理（2） 調理室内の機械・器具、食器、調理用具類 調理室で使用する各種機器の特徴と保守点検、施設に応じた食器類について理解する。 キーワード：作業動線、レイアウト、保守点検、自助具 キーワードの予習に60分、調理室の図面を理解し、作業動線等についてまとめるのに60分。			
講義進行方法、課題へのフィードバック方法	特定多数人に対して栄養・食事管理に必要な知識と、給食業務を円滑に進めるための基本的な知識と技術（方法）について講義する。毎回授業の初めに前回の講義内容のポイントについて小テストを行う。さらに給食の運営に必要な実務知識を習得するため、講義だけでなく演習を多く取り入れる。演習は講義だけでは理解不十分な点を補完するものであるため、主体的に取り組み、理解を深めてほしい。 成績フィードバック期間において成績・課題に関する質問やフィードバックを受け付ける。			
アクティブラーニング				
講義前・講義後の自主的学修活動への助言	給食は限られた条件（人員、時間、設備、予算等）で栄養管理されかつ安心・安全な食事を特定多数の人を対象に調理・提供しなければならない。今まで学んできた少量調理との違いを整理し、大量調理の特徴を把握する。 また、衛生管理においては「大量調理施設衛生管理マニュアル」を理解し、大量調理ならではの調理手順・食材の扱い方・温度管理の方法などを身につけ、後期の給食経営管理実習で実践できるようにしておくことが望まれる。			
成績（達成度）評価方法・評価基準、割合	毎回の小テストと課題、定期試験の得点を総合して評価する。毎回授業の初めに、前回の講義内容の理解度チェックのための小テストを行う。食品構成や期間献立の立案等の演習課題は必ず期限内に提出すること。定期試験60%、小テスト20%、課題20%。			
教員の実務経験と授業科目との関連	（教員の実務経験と授業科目との関連） 事業所給食に関する実務経験を有しており、その実務経験を本授業科目の給食の運営および経営管理の内容に生かした実践的な教育を実施している。			
テキスト				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
給食経営管理論	三好恵子他	第一出版	978-4-8041-1468-2	2023
日本人の食事摂取基準2020版の実践・運用	『日本人の食事摂取基準2020版の実践・運用』	第一出版	978-4-8041-1415-6	2020
参考図書など				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
管栄養士栄養士必携	公益社団法人日本栄養士会	第一出版		2024
給食経営管理用語辞典	日本給食経営管理学会	第一出版	978-4-8041-1420-0	2020
参考URL				
NO	表示名	URL	説明	
1.				
2.				
3.				

講義コード	120004901
講義名	給食経営管理実習 I
開講期	2024年度後期
単位数	1単位
授業形態	実習
担当教員	石川 豊美
ナンバリングコード	19K4Z4107

科目概要	給食実務論、給食経営管理学で得た基本的な知識や技術を基礎に、給食管理運営業務について実習室を使用し、管理者として実践できるように体得することを目的とする。施設の組織体を想定し、グループ編成による役割分担で、健康人を対象とした給食運営の実習を行い、計画から評価まで一連を通して給食マネジメントを実践する。
達成目標	栄養・食事管理に基づいた給食の提供を大量調理施設衛生管理マニュアルに沿って実践し、一連の実習を通して、経済・流通・安全・組織を会得し、給食施設における管理栄養士の役割と業務内容を理解し、体得できる。
履修に必要な予備知識や技能（関連科目等）	応用栄養学・栄養教育・衛生学・社会科学等の関連分野を統合化し、広範囲な視野を養うよう努力してほしい。
学位授与方針との関連	2. 「基礎および応用栄養学」「栄養教育」「臨床栄養」「公衆栄養」「給食経営管理」など、栄養に関する専門知識と応用技術を身につける。
授業計画、授業外学習の内容及び必要な時間	
第1回	オリエンテーション(実習の目的・方法・日程・グループ編成他) 栄養計画演習(1) 給与栄養目標量の決定・食品構成の作成・HACCP(大量調理衛生管理マニュアル)について 食品構成表の作成の予習に60分、大量調理衛生管理マニュアルの復習に60分。
第2回	実習室内厨房機器の説明および大量調理基礎実習 実習室内厨房機器のマニュアルの予習に60分、大量調理の手順の復習に60分
第3回	栄養計画・実習計画演習(2) 品質管理及び作業管理に必要な各種測定機器および備品類(食器含む)の説明 作業指示書・作業工程表の作成 各種測定機器のマニュアルの予習に60分、帳票の復習に60分
第4回	栄養計画・実習計画演習(3) 実習室準備 実習計画の検討(品質基準の設定および食材予算の検討) 使用食材の価格調査に60分、品質基準の復習に60分、
第5回	供食サービス実習(1)への準備 実習計画を仕上げ、発注、調理担当班との打ち合わせを行い実習当日の作業分担と作業内容の確認をする。 実習中のHACCPのモニタリングポイントを確認する。 HACCPのモニタリングポイントの予習に60分、実習計画の復習に60分
第6回	供食サービス実習(1) 1班:管理栄養士班 2班:調理師班 実習計画に基づき、調理・供食を行う。大量調理は1人ではできない作業であることを自覚し、協調性を持って作業にあたる。 3班:演習班 指定献立の実習計画の仕上げ 作業分担および厨房機器のマニュアルの確認に60分、実習記録のまとめに60分
第7回	供食サービス実習(2)への準備 実習計画を仕上げ、発注、調理担当班との打ち合わせを行い実習当日の作業分担と作業内容の確認をする。 実習中のHACCPのモニタリングポイントを確認する。 供食サービス実習(1)のまとめ HACCPのモニタリングポイントの予習に60分、実習計画の復習に60分
第8回	供食サービス実習(2) 2班:管理栄養士班 3班:調理師班 実習計画に基づき、調理・供食を行う。各自の役割を自覚し行動する。 1班:演習班 実習後の反省・まとめおよび関係帳票の記入 作業分担および厨房機器のマニュアルの確認に60分、実習記録のまとめに60分
第9回	供食サービス実習(3)への準備 実習計画を仕上げ、発注、調理担当班との打ち合わせを行い実習当日の作業分担と作業内容の確認をする。 実習中のHACCPのモニタリングポイントを確認する。 供食サービス実習(2)のまとめ HACCPのモニタリングポイントの予習に60分、実習計画の復習に60分

第10回	<p>供食サービス実習（3） 3班：管理栄養士班 1班：調理師班 実習計画に基づき、調理・供食を行う。各自の役割を自覚し行動する。 2班：演習班 実習後の反省・まとめおよび関係帳票の記入 作業分担および厨房機器のマニュアルの確認に60分、実習記録のまとめに60分</p>			
第11回	<p>実習のまとめ（1） 供食サービス実習（3）のまとめ 実習記録から摂食量を求め、実施献立表を作成し、予定献立表と比較・検討する。 実施献立表の予習に60分、実施献立表の作成に60分</p>			
第12回	<p>実習のまとめ（2） 各班から提出された実施献立表から栄養出納表を作成し、栄養管理の評価について理解を深める。 評価会に向けまとめた内容を制限時間内で発表できるように工夫する。 栄養出納表の予習に60分、評価会のまとめに60分</p>			
第13回	<p>実習のまとめ（2） 関係帳票の記入、仕上げを行い、実習後の問題点、改善点を発見し、反省点を含めてまとめる。 評価会に向けまとめた内容を制限時間内で発表できるように工夫する。 帳票の作成方法の予習に60分、問題点の整理に60分。</p>			
第14回	<p>評価会 班ごとに実習内容の反省点、問題点、改善点等について報告し、情報の共有化を図る。 実習の反省会記録の確認に60分、評価会のまとめに60分。</p>			
第15回	<p>施設別経営計画検討 対象者の把握・栄養計画 対象者ごとの特徴の予習に60分、献立の修正に60分。</p>			
講義進行方法、課題へのフィードバック方法	<p>実習はグループ分け（3班）をし、管理栄養士班、調理員班、演習班に分かれ、ローテーションで行う。それぞれ役割分担に従い、リーダーシップを発揮し、協調性を持って取り組んでほしい。 実習で使用する帳票類は、適宜プリントを配布する。 実習時間内に班で情報の共有化を図り、そのうえで協力して帳票の作成を行い、評価会終了後にすべての帳票類をファイルに綴じ込み指示された期限までに提出する。 成績フィードバック期間において成績・課題に関する質問やフィードバックを受け付ける</p>			
アクティブラーニング	<p>実習、フィールドワーク</p>			
講義前・講義後の自主的学修活動への助言	<p>大量調理の実習は事前の入念な準備が必要である。実習に当たっては自分に与えられた役割を十分理解し、担当する業務については予習しておくことが大切である。 実習中の記録は各自がとるのではなく、全員で決められた用紙に記入するようにし、情報の共有化を図るようにする。 平素より規則正しい生活習慣を心がけ、体調管理に努めることが求められる。</p>			
成績（達成度）評価方法・評価基準、割合	<p>授業への取り組み姿勢・実習中の貢献度・評価会報告内容のまとめ方等から、実習内容の理解度や学修度を評価する。提出物については期限を厳守する。遅れた場合は減点の対象となる。 実習態度60%、レポート30%、その他10%</p>			
教員の実務経験と授業科目との関連	<p>（教員の実務経験と授業科目との関連） 事業所給食に関する実務経験を有しており、その実務経験を本授業科目の給食の運営および経営管理の内容に生かした実践的な教育を実施している。</p>			
テキスト				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
トレーナーガイド PDCAによる給食マネジメント実習 第2版	松月弘恵他	医歯薬出版	978-4-263-70728-9	2018
改訂新版 大量調理	殿塚婦美子	学建書院	978-4-7624-2872-2	2020
参考図書など				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
改訂 対象者別給食献立	殿塚婦美子・長田早苗	建帛社	978-4-7679-0730-7	2021
調理のためのベーシックデータ	松本仲子	女子栄養大学出版部	978-4-7895-0325-9	2022
給食経営管理論	三好恵子ほか	第一出版	978-4-8041-1468-2	2023
参考URL				
NO	表示名	URL	説明	
1.				
2.				

講義コード	120002601
講義名	ライフステージ栄養学 I
開講期	2024年度後期
単位数	2単位
授業形態	講義
担当教員	高橋 圭
ナンバリングコード	19K4Z2102

科目概要	ライフステージ栄養学ではⅠ～Ⅲに分けて、ライフステージ(妊娠・授乳期、乳児期、幼児期、学童期、思春期、成人期、更年期、高齢期)および運動・環境に合わせた栄養ケアを学ぶ。それぞれの身体的・栄養学的特性を知り、栄養ケアプロセスのあり方について理解する。 ライフステージ栄養学Ⅰでは栄養ケアプロセスの概要(栄養管理の流れ)、栄養評価の方法(臨床診査、臨床検査、身体計測、食事調査方法と注意点、栄養出納とエネルギーの算出、食事摂取基準の科学的根拠、成長・発達・加齢)について習得する。
達成目標	人々の健康の維持・増進を担うために必要である栄養関連指標の特徴を理解し、正確な栄養評価を行うことができる。また、食事摂取基準の概要と科学的根拠を理解し、健康増進・疾病予防のためのエネルギーおよび栄養素の摂取量を設定する実践的な能力を身につけている。 ライフステージ栄養学Ⅱ・Ⅲでの各ライフステージ別の内容を理解するために、成長・発達および加齢についての基本的な流れがイメージできる。
履修に必要な予備知識や技能(関連科目等)	調理学、基礎栄養学、食品学などの科目と関連する。また、今後学修する臨床栄養学や病気の成り立ち、公衆栄養学などの分野にも関連する。 体重の評価(BMIや標準体重など)を行うための基本的な計算能力、教科書や資料を読むための基本的な読解力・日本語力、口頭での説明や板書をメモする能力などは必要。
学位授与方針との関連	2. 「基礎および応用栄養学」「栄養教育」「臨床栄養」「公衆栄養」「給食経営管理」など、栄養に関する専門知識と応用技術を身につける。
授業計画、授業外学習の内容及び必要な時間	
第1回	ガイダンス ライフステージ栄養学Ⅰ～Ⅲの概要、栄養で出来ること・出来ないこと キーワード：ライフステージ、応用栄養学、ストレス、特殊環境、QOL [事前にシラバスおよびガイダンス資料の確認をする(60分)。授業後にノートのまとめおよびスライドを見直す(60分)]
第2回	栄養ケアプロセス キーワード：栄養スクリーニング、栄養アセスメント、栄養診断、栄養介入、モニタリング [事前に該当部分のスライドを見て分からない部分をチェックする(60分)。授業後にスライドを見直ししながら、ワークプリントや重要点のノートまとめを行う。また、栄養ケアプロセスにおける各段階の用語の理解と覚える(60分)。]
第3回	栄養アセスメント(1) 臨床診査 キーワード：病歴、既往歴、視診、触診、打診、聴診、バイタルサイン [事前に該当部分のスライドを見て分からない部分をチェックする(60分)。授業後にスライドを見直ししながら、ワークプリントや重要点のノートまとめを行う(60分)。]
第4回	栄養アセスメント(2) 臨床検査 キーワード：糖代謝系、脂質代謝系、肝臓系、腎臓系、急速代謝回転たんぱく質、静的アセスメント・動的アセスメント [事前に該当部分のスライドを見て分からない部分をチェックする(60分)。授業後にスライドを見直ししながら、ワークプリントや重要点のノートまとめを行う。また、検査項目の見直しをする(60分)。]
第5回	栄養アセスメント(3) 身体計測 キーワード：体格指数(BMI)、標準体重、体重減少率、通常時体重比、体脂肪率 [事前に該当部分のスライドを見て分からない部分をチェックする(60分)。授業後にスライドを見直ししながら、ワークプリントや重要点のノートまとめを行う。また、各計算が出来るように練習する(75分)。]
第6回	栄養アセスメント(4) 食事調査、測定誤差 キーワード：秤量記録法、陰膳法、24時間思い出し法、過大申告・過小申告、日間変動 [事前に該当部分のスライドを見て分からない部分をチェックする(60分)。授業後にスライドを見直ししながら、ワークプリントや重要点のノートまとめを行う。また、自身の食事内容を24時間思い出し法でチェックする(75分)。]
第7回	栄養アセスメント(5) 栄養出納、エネルギー量の推定 キーワード：窒素出納、エネルギー出納、ハリス・ベネディクトの式、身体活動量 [事前に該当部分のスライドを見て分からない部分をチェックする(60分)。授業後にスライドを見直ししながら、ワークプリントや重要点のノートまとめを行う(60分)。]
第8回	日本人の食事摂取基準(1) 策定方針、エネルギーの指標、栄養素の5つの指標 キーワード：健康の維持・増進、推定エネルギー必要量、推定平均必要量、推奨量、目安量、耐容上限量、目標量 [事前に該当部分のスライドを見て分からない部分をチェックする(60分)。授業後にスライドを見直ししながら、ワークプリントや重要点のノートまとめを行う。また、各指標の目的・内容を説明できるようにする(70分)。]
第9回	日本人の食事摂取基準(2) 策定の基本事項・留意事項 キーワード：レビューの方法、参照体位、中央値と平均値の違い、摂取源、摂取期間、外挿法 [事前に該当部分のスライドを見て分からない部分をチェックする(60分)。授業後にスライドを見直ししながら、ワークプリントや重要点のノートまとめを行う(60分)。]

第10回	日本人の食事摂取基準(3) 活用に関する基本的事項 キーワード：PDCAサイクル、食事調査の測定誤差、活用の留意点・指標の使い方 【事前に該当部分のスライドを見て分からない部分をチェックする(60分)。授業後にスライドを見直ししながら、ワークプリントや重要点のノートまとめを行う(60分)。】			
第11回	日本人の食事摂取基準(4) エネルギー キーワード：エネルギー収支バランス、BMI、基礎代謝基準値、身体活動レベル 【事前に該当部分のスライドを見て分からない部分をチェックする(60分)。授業後にスライドを見直ししながら、ワークプリントや重要点のノートまとめを行う(60分)。】			
第12回	日本人の食事摂取基準(5) たんぱく質、脂質、炭水化物、エネルギー産生栄養素バランス キーワード：たんぱく質維持必要量、基準が設定されている脂肪酸の種類、エネルギー比率 【事前に該当部分のスライドを見て分からない部分をチェックする(60分)。授業後にスライドを見直ししながら、ワークプリントや重要点のノートまとめを行う。また、エネルギー比率の計算が出来るように練習する(65分)。】			
第13回	日本人の食事摂取基準(6) ビタミン キーワード：脂溶性ビタミン4種類、水溶性ビタミン9種類 【事前に該当部分のスライドを見て分からない部分をチェックする(60分)。授業後にスライドを見直ししながら、ワークプリントや重要点のノートまとめを行う(60分)。】			
第14回	日本人の食事摂取基準(7) ミネラル キーワード：多量ミネラル、微量ミネラル 【事前に該当部分のスライドを見て分からない部分をチェックする(60分)。授業後にスライドを見直ししながら、ワークプリントや重要点のノートまとめを行う(60分)。】			
第15回	成長・発達、加齢 スキャモンの成長曲線 キーワード：一般型、神経型、リンパ型、生殖型 【事前に該当部分のスライドを見て分からない部分をチェックする(60分)。授業後にスライドを見直ししながら、ワークプリントや重要点のノートまとめを行う(60分)。試験勉強(120分)】			
講義進行方法、課題へのフィードバック方法	<ul style="list-style-type: none"> ・講義形式で行い、WebClassなどを使用します。スライドを中心に進めていき、板書は補足程度となります。口頭でポイントや追加の説明を行うため、各自でノートなどに記録してください。スライドはWebClassにアップします。 ・毎回、前回授業の復習を行います。質問等があればその部分を重点的にもう一度説明します(フィードバック)。 ・ワークプリントは授業内容を整理するために、各自必要に応じて利用してください。 ・本科目の内容はもちろんです。なるべく他科目とも関連付けられるように説明をしていくつもりです。 ・定期試験のフィードバックを早期に希望する人は、定期試験後に研究室まで来てください。 			
アクティブラーニング				
講義前・講義後の自主的学修活動への助言	<p><講義前>シラバスを読み、内容の概略を予習しておいてください。事前に授業スライドはWebClassにアップします。 <講義後>なるべく早いうちに教科書やノートを確認しておくことと理解が深まります。また、各項目でワークプリントをWebClassにアップするので、スライドを見直ししながら指示された内容をまとめてください。理解しにくい部分などがあれば、質問してください。 また、講義の前後に関わらずテレビ(特にNHK)などで行われている身体や病気に関する番組も参考になります。</p>			
成績(達成度)評価方法・評価基準、割合	<p>定期試験のみで評価を行う(100%)。 * 欠席回数分の欠席レポートを提出していることが条件。 * 定期試験55点以上の者を対象に加点レポート提出で上限8点の加点を行う(レポート1本につき1~2点。欠席・遅刻回数により上限点数減少)。 * 加点・欠席レポート内容はWebClassを参照。</p>			
教員の実務経験と授業科目との関連	(教員の实務経験と授業科目との関連) 病院における栄養管理業務の実務経験を有しており、その実務経験を本授業科目において管理栄養士としての役割、栄養評価・栄養診断を行うための検査・測定・調査項目の特徴について、卒後の栄養管理業務にも対応した実践的な教育を実施している。			
テキスト				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
『応用栄養学 第3版』	江上いすず, 多賀昌樹編	朝倉書店	978-4-254-61659-0	2021年
参考図書など				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
『適宜指示する。』				
参考URL				
NO	表示名	URL	説明	
1.	「日本人の食事摂取基準(2025年版)」策定検討会報告書(厚生労働省HP)の予定、授業中に別途指示する。			
2.				
3.				
4.				
5.				

講義コード	120002701
講義名	ライフステージ栄養学Ⅱ
開講期	2024年度前期
単位数	2単位
授業形態	講義
担当教員	高橋 圭
ナンバリングコード	19K4Z3102

科目概要	ライフステージ栄養学ではⅠ～Ⅲを通し、ライフステージ(妊娠・授乳期、乳児期、幼児期、学童期、思春期、成人期、更年期、高齢期)および運動・環境に合わせた栄養ケアプロセスを学ぶ。それぞれの身体的・栄養学的特性を知り、栄養ケアプロセスのあり方について理解する。 ライフステージ栄養学Ⅱでは、妊娠・授乳期、新生児期、幼児期、乳児期、学童期、思春期について取り上げ、各時期における生理的特徴、栄養アセスメント、栄養と病態、栄養補給法について習得する。
達成目標	妊娠・授乳期ならびに乳幼児期～思春期の身体的な変化や代謝の変化など、各ライフステージに応じた栄養状態の特徴について理解し、栄養ケアの方法を身につける。また、乳汁栄養や離乳食、アレルギーなどについても理解し、適切なアドバイスができる。
履修に必要な予備知識や技能(関連科目等)	ライフステージ栄養学Ⅰの知識を前提とし、調理学、基礎栄養学、食品学、解剖生理学、生化学、臨床栄養学などの科目と関連する。 栄養評価を行うための基本的な計算能力、教科書や資料を読むための基本的な読解力・日本語力、口頭での説明や板書をメモする能力などは必要。
学位授与方針との関連	2. 「基礎および応用栄養学」「栄養教育」「臨床栄養」「公衆栄養」「給食経営管理」など、栄養に関する専門知識と応用技術を身につける。
授業計画、授業外学習の内容及び必要な時間	
第1回	妊娠期(1) 月経、妊娠の成立、ホルモン キーワード：BMI、月経、ホルモン 【事前に該当部分のスライドを見て分からない部分をチェックする(60分)。授業後にスライドを見直ししながら、ワークプリントや重要点のノートまとめを行う(60分)。】
第2回	妊娠期(2) 胎児と付属物、母体の変化 キーワード：性ホルモン、胎盤、羊水、血液状態の変化 【事前に該当部分のスライドを見て分からない部分をチェックする(60分)。授業後にスライドを見直ししながら、ワークプリントや重要点のノートまとめを行う(60分)。】
第3回	妊娠期(3) アセスメント、体重変化、食事摂取基準(付加量) キーワード：代謝の変化、高齢出産、目標とする体重増加量、付加量 【事前に該当部分のスライドを見て分からない部分をチェックする(60分)。授業後にスライドを見直ししながら、ワークプリントや重要点のノートまとめを行う(60分)。また、食事摂取基準の指標の定義を覚え直す(15分)。】
第4回	妊娠期(4) 疾患と栄養 キーワード：つわり、妊娠糖尿病、妊娠高血圧症候群、体重管理 【事前に該当部分のスライドを見て分からない部分をチェックする(60分)。授業後にスライドを見直ししながら、ワークプリントや重要点のノートまとめを行う(60分)。また糖尿病の仕組み・基準値を見直す(10分)。】
第5回	産褥期・授乳期(1) ホルモン、食事摂取基準 キーワード：授乳関連ホルモン、付加量 【事前に該当部分のスライドを見て分からない部分をチェックする(60分)。授業後にスライドを見直ししながら、ワークプリントや重要点のノートまとめを行う(60分)。】
第6回	乳児期(1) 発育・発達、生理的特徴、新生児反射 キーワード：授乳量付加量、乳児の発育(身長、体重、運動)、哺乳反射 【事前に該当部分のスライドを見て分からない部分をチェックする(60分)。授業後にスライドを見直ししながら、ワークプリントや重要点のノートまとめを行う(60分)。】
第7回	乳児期(2) 乳汁栄養(母乳栄養、人工乳栄養) キーワード：母乳栄養、母乳の利点、初乳、感染防御因子、成熟乳、乳児用調製乳 【事前に該当部分のスライドを見て分からない部分をチェックする(60分)。授業後にスライドを見直ししながら、ワークプリントや重要点のノートまとめを行う(60分)。また、ドラッグストアなどで乳児用調製乳の種類等を確認する(20分)。】
第8回	乳児期(3) 離乳食、食事摂取基準 キーワード：離乳の開始、離乳の進行、離乳の完了 【事前に該当部分のスライドを見て分からない部分をチェックする(60分)。授業後にスライドを見直ししながら、ワークプリントや重要点のノートまとめを行う(60分)。また、ドラッグストアなどで市販の離乳食の種類等を確認する(20分)。】
第9回	乳児期(4) 栄養と疾患(生理的黄疸、乳児性下痢症、先天性異常) キーワード：哺乳量、乳児下痢症、先天性異常、貧血 【事前に該当部分のスライドを見て分からない部分をチェックする(60分)。授業後にスライドを見直ししながら、ワークプリントや重要点のノートまとめを行う(60分)。】

第10回	幼児期(1) 成長・発達、食事摂取基準 キーワード：成長、目標量、間食 [事前に該当部分のスライドを見て分からない部分をチェックする(60分)。授業後にスライドを見直ししながら、ワークプリントや重要点のノートまとめを行う(60分)。]			
第11回	幼児期(2) 疾患(やせ、肥満) 学童期(1) 成長・発達、食事摂取基準、食育基本法 キーワード：ローレル指数、カウプ指数、肥満、スキヤモンの成長曲線 [事前に該当部分のスライドを見て分からない部分をチェックする(60分)。授業後にスライドを見直ししながら、ワークプリントや重要点のノートまとめを行う(60分)。]			
第12回	学童期(2) 学校給食、栄養教諭 キーワード：身体活動レベル、食育基本法 [事前に該当部分のスライドを見て分からない部分をチェックする(60分)。授業後にスライドを見直ししながら、ワークプリントや重要点のノートまとめを行う(60分)。また、小学校での給食について振り返る(15分)。]			
第13回	アレルギー(1) 免疫学的機序、症状、診断、アレルゲン、食品表示 キーワード：I g E抗体、感作、アナフィラキシー、食物依存性運動誘発アナフィラキシー [事前に該当部分のスライドを見て分からない部分をチェックする(60分)。授業後にスライドを見直ししながら、ワークプリントや重要点のノートまとめを行う(60分)。また、市販食品の食品表示のアレルギー表示を比べる(15分)。]			
第14回	アレルギー(2) 食事療法、耐性獲得、各アレルゲンの性質、給食での対応 キーワード：最小限の除去、交差反応性、耐性獲得、低アレルゲン化、代替食 [事前に該当部分のスライドを見て分からない部分をチェックする(60分)。授業後にスライドを見直ししながら、ワークプリントや重要点のノートまとめを行う(60分)。]			
第15回	思春期 発育急進現象、第二次性徴、摂食障害 キーワード：思春期スパート、スキヤモンの成長曲線 [事前に該当部分のスライドを見て分からない部分をチェックする(60分)。授業後にスライドを見直ししながら、ワークプリントや重要点のノートまとめを行う(60分)、試験勉強(120分)。]			
講義進行方法、課題へのフィードバック方法	<ul style="list-style-type: none"> ・講義形式で行い、WebClassなどを使用します。スライドを中心に進めていき、板書は補足程度となります。口頭でポイントや追加の説明を行うため、各自でノートなどに記録してください。スライドはWebClassにアップします。 ・毎回、前回授業の復習を行います。質問等があればその部分を重点的にもう一度説明します(フィードバック)。 ・ワークプリントは授業内容を整理するために、各自必要に応じて利用してください。 ・本科目の内容はもちろんですが、なるべく他科目とも関連付けられるように説明をしていくつもりです。 ・定期試験のフィードバックを早期に希望する人は、定期試験後に研究室まで来てください。 			
アクティブラーニング				
講義前・講義後の自主的学修活動への助言	<講義前>シラバスを読み、内容の概略を予習しておいてください。事前に授業スライドはWebClassにアップします。 <講義後>なるべく早いうちに教科書やノートを確認しておくことと理解が深まります。また、各項目でワークプリントをWebClassにアップするので、スライドを見直ししながら指示された内容をまとめてください。理解しにくい部分などがあれば、質問してください。 また、講義の前後に関わらずテレビ(特にNHK)などで行われている身体や病気に関する番組も参考になります。			
成績(達成度)評価方法・評価基準、割合	定期試験のみで評価を行う(100%)。 * 欠席回数分の欠席レポートを提出していることが条件。 * 定期試験55点以上の者を対象に加点レポート提出で上限8点の加点を行う(レポート1本につき1~2点。欠席・遅刻回数により上限点数減少)。 * 加点・欠席レポート内容はWebClassを参照。			
教員の実務経験と授業科目との関連	(教員の实務経験と授業科目との関連) 病院における栄養管理業務の実務経験を有しており、その実務経験を本授業科目において妊娠期・乳児期・幼児期各時期での栄養管理方法や対応方法、アレルギー対応方法など卒後の栄養管理業務にも対応した実践的な教育を実施している。			
テキスト				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
『応用栄養学 第3版』	江上いすず, 多賀昌樹編	朝倉書店	978-4-254-61659-0	2021年
『日本人の食事摂取基準 2020年版』	伊藤貞嘉, 佐々木敏	第一出版	978-4-8041-1408-8	2020年
参考図書など				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
『適宜指示する。』				
参考URL				
NO	表示名	URL	説明	
1.	離乳授乳の支援ガイド(2019年改定版)	https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_04250.html	厚生労働省HP	
2.	第4次食育推進基本計画	https://www.maff.go.jp/j/press/syouan/hyoji/210331_35.html	農林水産省HP	
3.	アレルギー表示に関する情報	https://www.caa.go.jp/policies/policy/food_labeling/food_sanitation/allergy/	消費者庁HP	
4.				
5.				

講義コード	120003002
講義名	ライフステージ栄養学実習
開講期	2024年度前期
単位数	1単位
授業形態	実習
担当教員	高橋 圭
ナンバリングコード	19K4Z5101

科目概要	ライフステージ栄養学Ⅰ～Ⅲで学んだ知識を基に、妊娠期、乳幼児期、高齢期などライフステージ別の栄養管理について、実習を通して学ぶ。自身で考えた症例を用いて栄養のアセスメント(SOAP記録)を行い、食事摂取の基準作成、食事計画、献立作成、そして調理実習を行い、栄養リスク管理の実践について実習する。
達成目標	各ライフステージの栄養上の特性と留意点を十分把握し、個々の事例に基づいた栄養アセスメントの方法を理解する。さらに、それぞれの対象の特性に合わせた食事計画、献立作成、調理実習などを通して栄養ケアのあり方を身につけ、対象者への食事アドバイス・指導ができる。 また、介護報酬様式に合わせ栄養摂取食嚥下アセスメントの記載や褥瘡の評価ができる。
履修に必要な予備知識や技能（関連科目等）	ライフステージ栄養学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの知識を前提とし、調理学、臨床栄養学、食品学、解剖生理学、病気の成り立ち、病態栄養学、給食経営管理論、栄養教育論などの科目と関連する。また、テレビ(特にNHK)などで行われている料理番組や健康番組の内容なども献立作成や栄養管理の評価に必要な知識となる。 栄養評価を行うための基本的な計算能力、献立作成能力、調理技術、班員と連携して作業や課題を行うためのコミュニケーション能力とリーダーシップが必要。
学位授与方針との関連	2. 「基礎および応用栄養学」「栄養教育」「臨床栄養」「公衆栄養」「給食経営管理」など、栄養に関する専門知識と応用技術を身につける。
授業計画、授業外学習の内容及び必要な時間	
第1回	ライフステージ栄養学実習の概要 摂取基準の具体的な使用方法 キーワード：実習概要、諸注意、食事摂取基準(推定平均必要量、推奨量、目標量)、栄養量の設定 【事前に食事摂取基準の使い方、栄養評価・管理の方法を学び直しておく(60分)。食事摂取基準について授業とは別の年代でも使えるか復習しておく(60分)】
第2回	献立作成の概要 品数・彩りの注意点、栄養計算ソフトの使い方 キーワード：献立作成、主食・主菜・副菜、彩り 【献立の立て方について学び直しておく(60分)。栄養計算ソフトの使い方について復習しておく(60分)。】
第3回	乳児期の栄養(1) 各種調製乳とベビーフードの食味試験、調乳、離乳食の特性と留意点 キーワード：調乳、粉ミルク、液体ミルク、フォローアップミルク、特殊ミルク(アレルギー、乳糖不耐症)、ベビーフード 【事前に調乳の作成方法、調乳の種類、ベビーフードの種類などについて学び直しておく(60分)。授業後に乳児用調製乳およびベビーフードの食味まとめ(レポート)(60分)。】
第4回	乳児期の栄養(2) 離乳食の調理実習 キーワード：離乳食、固さの調整、味付け 【事前に自身が調理する献立および調理方法を確認する(60分)。また担当班は当日の事前準備(30分)。授業後に献立・栄養計算・食品構成の修正およびまとめ(レポート)を行う(90分)。】
第5回	幼児期の栄養(1) 対象者の設定、栄養評価・栄養ケアプランの作成 キーワード：間食、偏食、栄養ケアプラン 【事前に幼児期の栄養管理、注意点を学び直しておく(60分)。授業後に栄養ケア計画作成の残りをを行う(60分)。】
第6回	幼児期の栄養(2) 対象者に合わせた献立の作成、栄養価計算 キーワード：献立作成、栄養価計算、ランチプレート、発注書作成 【事前に対象者の情報と栄養ケア計画の内容を見直しておく(60分)。授業後に班で調理実習用献立の決定および発注書の作成(60分)、予定献立・栄養量・食品構成の確認(班レポート)を行う(30分)。】
第7回	幼児期の栄養(3) 調理実習 キーワード：調理時間、味付け、見た目、分量、おいしさ、対象へのふさわしさ 【事前に自身が調理する献立および調理方法を確認する(60分)。また担当班は当日の事前準備(30分)。授業後に献立・栄養計算・食品構成の修正およびまとめ(レポート)を行う(90分)。】
第8回	思春期・高齢期・運動実施者の栄養(1) 対象者の設定、栄養評価・栄養ケアプランの作成 キーワード：高齢期、間食、低栄養、成長期、ダイエット、スポーツ、栄養ケアプラン 【事前に選択した対象に対する栄養管理・注意点を学び直しておく(60分)。授業後に栄養ケア計画作成の残りをを行う(60分)。】
第9回	思春期・高齢期・運動実施者の栄養(2) 対象者に合わせた献立の作成、栄養価計算 キーワード：献立作成、栄養価計算 【事前に対象者の情報と栄養ケア計画の内容を見直しておく(30分)。授業後に班で献立の決定(30分)。献立・栄養量・食品構成の確認(班レポート)を行う(30分)。】

第10回	幼児期の栄養(4) 思春期・高齢期・運動実施者の栄養(3) プレゼンテーション キーワード：ライフステージ別ケアプランの確認、対象者別の改善点 [事前に班でプレゼン資料の作成を行う(60分)、授業後に本科目で実施した内容について復習を行う(60分)。]			
第11回	高齢期の栄養(1) 栄養管理のための計算①、褥瘡管理 キーワード：塩分濃度、エネルギー比率、DESIGN-R(2020年版) [基本的な献立作成に必要な栄養計算やDESIGN-R(2020年版)について学び直しておく(60分)。栄養計算方法やDESIGN-Rについて復習する(60分)。]			
第12回	高齢期の栄養(2) 栄養摂取嚥下アセスメント キーワード：栄養評価、嚥下調整食学会分類、栄養摂取嚥下アセスメントシート [栄養アセスメント方法、介護報酬および嚥下の学会分類について学び直しておく(60分)。介護報酬様式・摂取嚥下アセスメントについて復習する(60分)。]			
第13回	高齢期の栄養(3) 間食のレシピ作成 キーワード：高齢者、間食、嚥下 [高齢者の嚥下状況や嚥下対応方法について事前に見直しておく(60分)。授業後に班で調理実習用レシピの決定および発注書の作成をする(60分)。]			
第14回	高齢期の栄養(4) 調理実習 キーワード：調理時間、味付け、見た目、分量、おいしさ、対象へのふさわしさ [事前に自身が調理するレシピおよび調理方法を確認する(60分)。また担当班は当日の事前準備(30分)。授業後にレシピの修正およびまとめ(レポート)を行う(90分)。]			
第15回	高齢期の栄養(5) ユニバーサルデザインフード、ソフト食等の試食 キーワード：高齢期、ユニバーサルデザインフード、ソフト食、酵素によるやわらか食 [ユニバーサルデザインフードや嚥下調整食学会分類について学び直しておく(60分)、また担当班は当日の事前準備(30分)。授業後に試食した食品についてのレポートを作成(60分)。]			
講義進行方法、課題へのフィードバック方法	<ul style="list-style-type: none"> ・内容は基本的にライフステージごとに(1)症例作成、栄養評価・計画作成、(2)献立作成、実習献立の決定・発注、(3)調理実習の流れで行う。その他、献立作成方法や栄養管理計画の記載方法などについても随時講義・演習を行う。 ・実習の順番は発注や実習室等の都合で変更する場合がある。 ・症例作成、献立の決定や調理実習などはグループで行う。レポートは指定のフォーマットに記載し、必ず提出すること。 ・疑問や分からないところがあれば随時質問をするようにしてください。 ・提出レポートは随時返却し、フィードバックする。 			
アクティブラーニング	プレゼンテーション/実習、フィールドワーク/グループワーク			
講義前・講義後の自主的学修活動への助言	<講義前>ライフステージ栄養学の講義を基礎として実習を行うので、実習日程を確認し、ライフステージ栄養学の単元を復習しておくことと実習がスムーズに行く。 <講義後>栄養ケアプラン作成レポートとそれに伴う調理実習後レポートがあるので、提出日を確認しておくこと。また、実習が終了したら記憶が鮮明な早い時期にレポート作成を行い、提出が遅れないようにすること。 テレビ(特にNHK)などで行われている料理番組や健康番組の内容なども献立作成や栄養管理の評価に対して参考になります。 また、実習の多くを班単位で実施するため、班同士の連絡を密にし、きちんと情報共有を行えるようにしておいてください。			
成績(達成度)評価方法・評価基準、割合	基本的にレポートでの評価とし、全て提出することを前提とする(100%)。レポートの内容は調理実習前の対象別食事摂取基準や栄養ケアプランの内容、作成献立および実習後の考察・反省など。			
教員の実務経験と授業科目との関連	(教員の实務経験と授業科目との関連) 病院における栄養管理業務の実務経験を有しており、その実務経験を本授業科目の栄養評価・栄養診断・栄養介入およびその対象者に合わせた献立作成について、卒後の栄養管理業務にも対応した実践的な教育を実施している。			
テキスト				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
『ライフステージ・ライフスタイル 栄養学実習書』	堀江祥允・片山直美・堀江和代 編著	光生館	978-4-332-02108-7	2020年
『日本人の食事摂取基準2020年版』	佐々木敏、佐々木敏 監修	第一出版	978-4-8041-1408-8	2020年
参考図書など				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
『応用栄養学 第3版』	江上いすず、多賀昌樹	朝倉書店	978-4-254-61659-0	2021年
『調理のためのベーシックデータ』	女子栄養大学	女子栄養大学出版部	974-4-7895-0317-4	2013年
『食品カロリー早わかりBOOK』	吉田美香	主婦の友社	978-4-07-233721-9	2013年
参考URL				
NO	表示名	URL	説明	
1.	適宜指示する。			
2.				

講義コード	120008502
講義名	フードサービス論 I
開講期	2024年度前期
単位数	2単位
授業形態	講義
担当教員	河木 智規
ナンバリングコード	19F2C3101

科目概要	わが国の食市場は70兆円と言われる。その中のフードサービス市場も新型コロナウイルス禍もあり、20兆円へ縮小したとされている。 この主要産業のひとつであるフードサービス産業の歴史や業態別の構造・特徴を解説するとともに、新型コロナウイルス禍を乗り越え、将来に向け生産性の高い持続可能な取り組みを加味した業態開発が喫緊の課題となっている。フードサービス産業の現状を正しく把握するとともに、将来の課題についても理解を深めることに重点を置いている。
達成目標	フードサービス産業の今後の業態開発の方向を食の安全・安心の担保や高齢化社会対応、健全な雇用の創出といった課題を持続可能な形で網羅したものが不可欠であるとの見識を身につける。
履修に必要な予備知識や技能（関連科目等）	基礎的な「損益計算書」の復習とプレゼンテーション資料を「パワーポイント」で作成できるように準備していただきたい。
学位授与方針との関連	1. フードビジネス業界で必要とされる食とビジネスの基本を体系的に理解し、フードビジネスの専門領域に関する知識、技術、および実践力を身につけている。 4. フードビジネスについて主体的に学修に取り組み、自ら考える姿勢を持ち、修得した知識や技術を活用して問題を解決し、発信する能力を身につけている。
授業計画、授業外学習の内容及び必要な時間	
第1回	ガイダンス（講義全体の流れ、授業のすすめ方、課題レポートの提出方法、評価方法の説明） フードサービス産業の歴史 「外食産業元年・1970年から50年間のフードサービスの産業化」の解説 （60分程度のレポート作成と復習をされたい）
第2回	フードサービス産業の形態 「個人経営・チェーンストア経営・フランチャイズ経営等」の解説 （60分程度のレポート作成と復習をされたい）
第3回	フードサービスの業態（1） 「ファスト・フード・サービス」と「ファスト・カジュアル」の解説 事例研究「マクドナルド」と「モスバーガー」の比較 （60分程度のレポート作成と復習をされたい）
第4回	フードサービスの業態（2） 「ファミリー・レストラン」の解説 事例研究「サイゼリヤ」と「和食処処サガミ」の戦略の違い （60分程度のレポート作成と復習をされたい）
第5回	フードサービスの業態（3） 「珈琲専門店」の解説 事例研究「スターバックスコーヒー」と「コマダ珈琲」のサードプレイス （60分程度のレポート作成と復習をされたい）
第6回	フードサービスの業態（4） 「回転寿司」の解説 事例研究「スシロー」の取り組みと低価格回転寿司の今後の課題 （60分程度のレポート作成と復習をされたい）
第7回	フードサービスの業態（5） 「パフェ・サブスクリプション・デリバリー」の解説 事例研究「焼肉きんぐ」や「ドミノ・ピザ」の特徴 （60分程度のレポート作成と復習をされたい）
第8回	フードサービス店舗の評価（1） QSCの理解とストアコンパリゾン・商品構成グラフの理解 （60分程度のレポート作成と復習をされたい）
第9回	フードサービス店舗の評価（2） 店舗の人気を左右する付加価値（ブランディング）の理解 「ホスピタリティの理解」「顧客をファンにさせるもの」「求められる新商品」 （60分程度のレポート作成と復習をされたい）

第10回	<p>フードサービス店舗の収益構造 売上と収益の構造・投資と投資回収の理解 《課題設定 「私のフードサービス店開業提案」パワーポイント作成》 (60分程度のレポート作成と復習をされたい)</p>			
第11回	<p>フードサービス業の人財育成とES向上の方向性 「人手不足」を打開し、魅力あるフードサービス業とするための理解 (60分程度のレポート作成と復習をされたい)</p>			
第12回	<p>これからのフードサービスに求められるもの 「持続可能な開発目標 (SDGs)」や「フードテック」の考え方の理解と具体的な事例紹介 (60分程度のレポート作成と復習をされたい)</p>			
第13回	<p>フードサービス店舗の魅力(1) 課題発表①「私のフードサービス店開業提案」 パワーポイントによるプレゼンターとコメンターを実践する (60分程度のレポート作成と復習をされたい)</p>			
第14回	<p>フードサービス店舗の魅力(2) 課題発表②「私のフードサービス店開業提案」 パワーポイントによるプレゼンターとコメンターを実践する (60分程度のレポート作成と復習をされたい)</p>			
第15回	<p>フードサービス店舗の魅力(3) 課題発表③「私のフードサービス店開業提案」 パワーポイントによるプレゼンターとコメンターを実践する フードサービス産業の今後の展望と課題 模擬試験 (90分程度のレポート作成と復習をされたい)</p>			
講義進行方法、課題へのフィードバック方法	<p>毎回資料をWebclassにアップし、パワーポイントによる説明と映像を参照しながら授業を進める。 毎回のレポートで授業の理解度を確認しつつ、次回の授業の冒頭でフィードバックをする。 プレゼンテーション課題は、全員がプレゼンテーションし、他の発表に対しコメンターの役割も実践してみる。</p>			
アクティブラーニング	<p>PBL【Project Based Learning】自ら問題を発見し解決する能力を養うことを目的とした課題解決型学習／プレゼンテーション／実習、フィールドワーク</p>			
講義前・講義後の自主的学修活動への助言	<p>履修とともに学ぶフードサービスの店舗で、実際に喫食を通じて、学んだことが現場でどのように反映されているのか、どういったところに問題点があるかなどを客の目線で判断する習慣を持ってもらいたい。 今後、フードサービス業界でどういった業態が求められるかを自身の視点から創造してみる。</p>			
成績(達成度)評価方法・評価基準、割合	<p>試験結果(40%)、毎回レポートの内容(40%)、プレゼンテーション課題の内容(20%)により総合的に評価する。</p>			
教員の実務経験と授業科目との関連	<p>(教員の实務経験と授業科目との関連) フードサービス企業で40年間、店舗の实務・スーパーバイジング経験から店舗開発の立地選定や投資収益管理、フランチャイズ提携の可否判断等幅広い経験をもとに、本授業科目の業界全体の理解から実務ツールを使った実践的なマネジメント教育を実施している。</p>			
テキスト				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
『なし』				
参考図書など				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
『適宜紹介する』				
参考URL				
NO	表示名	URL	説明	
1.				
2.				
3.				
4.				
5.				

講義コード	1200011201
講義名	チェーンストアシステム
開講期	2024年度後期
単位数	2単位
授業形態	講義
担当教員	河木 智規
ナンバリングコード	19F2C6201

科目概要	<p>大多数の人々の日常生活に欠くことのできなくなった、チェーンストアの本質と今後の可能性について解説する。チェーンストアを支える広範な分業システム、標準化の重要性、マス・マーチャンダイジング・システムによる独特の商品づくりを実際の企業をケーススタディとして取り上げ研究するとともに、新型コロナウイルス禍の経験や将来に向けた持続可能な取り組みを加味した、新たな業態開発の方向性を理解する。</p> <p>更に、独自性の高いプライベート・ブランド商品を開発、信頼性の高いブランディングで付加価値を高めながら、SDGsをはじめ社会的責任にも十分配慮しながら先導する企業へ転換しようとするプロセスを学ぶ。</p>
達成目標	<p>チェーンストアの特徴である標準化や単純化、分業システムとそのマネジメント、そのためのスペシャリストづくりなどの考え方が、一般の業界や職種の基本部分に大きく役立つことを理解すると共に、企業の社会的責任とその必要性を理解する。</p> <p>一方で、安価で豊富な労働力を基盤に発展してきたチェーンストアも、少子高齢化や労働人口の減少により、「人手不足」に四苦八苦している。この難関を乗り越えるためには、根本的なシステムの変更と体質の改善が必要となってきていることにも認識を持ってもらいたい。</p>
履修に必要な予備知識や技能（関連科目等）	<p>身近に接するチェーンストア（小売業・フードサービス業など）の店舗と個人店の違い、ナショナル・ブランド商品とプライベート・ブランド商品の違いを実経験の中で感じ、それを実現するための裏側にあるシステムを理解してもらいたい。</p>
学位授与方針との関連	<p>2. フードビジネスを通して社会に貢献するために必要な思考力と課題発見力を有し、問題を解決するためのコミュニケーション力と解決力を身につけている。</p> <p>3. 地域およびグローバルな社会に関心を持ち、フードビジネスを通して社会の発展に貢献するための倫理観と責任感、および他者と協働する能力を身につけている。</p>
授業計画、授業外学習の内容及び必要な時間	
第1回	<p>ガイダンス（講義全体の流れ、授業のすすめ方、レポートの提出方法、評価の仕方を説明する）</p> <p>チェーンストアの理解（1）</p> <p>「チェーンストアの定義」「チェーンストアの絶対原則」</p> <p>「チェーンストアと本支店経営の違い」</p> <p>（60分程度の復習と課題レポートの提出をされたい）</p>
第2回	<p>チェーンストアの理解（2）</p> <p>チェーンストアの歴史、種類とその経営の本質</p> <p>「チェーンストアとフランチャイズシステムの関係性を解説」</p> <p>（60分程度の復習と課題レポートの提出をされたい）</p>
第3回	<p>チェーンストアのマス・マーチャンダイジング（1）</p> <p>「フードサービスのパーティカル・マーチャンダイジング」</p> <p>事例研究「サイゼリヤ」</p> <p>（60分程度の復習と課題レポートの提出をされたい）</p>
第4回	<p>チェーンストアのマス・マーチャンダイジング（2）</p> <p>「ホーム・ファニチャーのクリエイティブ・マーチャンダイジング」</p> <p>事例研究「イケヤ・ニトリ」</p> <p>（60分程度の復習と課題レポートの提出をされたい）</p>
第5回	<p>チェーンストアのマス・マーチャンダイジング（3）</p> <p>「アパレルのユニット・マーチャンダイジング」</p> <p>事例研究「ユニクロ・GU」</p> <p>（60分程度の復習と課題レポートの提出をされたい）</p>
第6回	<p>チェーンストアのマス・マーチャンダイジング（4）</p> <p>「小売業のマス・ストアーズ・オペレーション」</p> <p>事例研究「無印良品」</p> <p>（60分程度の復習と課題レポートの提出をされたい）</p>
第7回	<p>チェーンストアのマス・マーチャンダイジング（5）</p> <p>「グローバル企業のフィジカル・ディストリビューションマネジメント」</p> <p>事例研究「しまむら・ニトリ」</p> <p>（60分程度の復習と課題レポートの提出をされたい）</p>
第8回	<p>「マーケティング」と「マーチャンダイジング」</p> <p>同様に求めるものと担う役割の違い</p> <p>事例研究「アサヒビール・イケヤ・USJ」</p> <p>（60分程度の復習と課題レポートの提出をされたい）</p>
第9回	<p>チェーンストアの商品の考え方</p> <p>「ナショナル・ブランド」と「プライベート・ブランド」の理解</p> <p>「NBとPBの商品づくりの考え方と収益構造の違いを解説」</p> <p>（60分程度の復習と課題レポートの提出をされたい）</p>
第10回	<p>チェーンストアの魅力を理解する</p> <p>「ディスプレイ・チェーン・ストア」になるために</p> <p>「ブランディングによる付加価値の増加と生産性の向上プロセスの理解」</p> <p>「ホスピタリティ・マネジメント重要性の理解」</p> <p>「有力なPBの必要性とコーディネートによる豊かさ体现の理解」</p> <p>（60分程度の復習と課題レポートの提出をされたい）</p> <p>《課題設定「個人店やローカルチェーンの優れたものPBを紹介する」パワーポイントにしてプレゼンテーションをする》</p>

第11回	チェーンストアの業種・業態とフォーマットの理解 「客の購買動機と業態やフォーマットの関係性について解説」 (60分程度の復習と課題レポートの提出をされたい)			
第12回	これからのチェーンストアの展望と課題 「チェーンストアの社会的な役割と変革の必要性を解説」 「持続可能な開発目標 (SDGs)」と「新たなテクノロジーの活用」の理解と事例紹介 「人手不足」課題への根本的なシステム変更と体質改善の必要性の理解 (60分程度の復習と課題レポートの提出をされたい)			
第13回	チェーンストアの商品の理解 (1) 課題発表「個人店やローカルチェーンの優れたものPBを紹介する」① 全員がパワーポイントによるプレゼンターとコメンターを実践する (60分程度の復習と課題レポートの提出をされたい)			
第14回	チェーンストアの商品の理解 (2) 課題発表「個人店やローカルチェーンの優れたものPBを紹介する」② 全員がパワーポイントによるプレゼンターとコメンターを実践する (60分程度の復習と課題レポートの提出をされたい)			
第15回	チェーンストアの商品の理解 (3) 課題発表「個人店やローカルチェーンの優れたものPBを紹介する」③ 全員がパワーポイントによるプレゼンターとコメンターを実践する 模擬試験実施 (60分程度の復習と課題レポートの提出をされたい)			
講義進行方法、課題へのフィードバック方法	毎回資料をWebClassにアップし、パワーポイントによる説明と映像を参照しながら授業を進める。 毎回のレポートで授業の理解度を確認しつつ、次回授業の冒頭でフィードバックをする。 全員がプレゼンテーション課題を通じて、プレゼンターとコメンターを実践する。			
アクティブラーニング	PBL【Project Based Learning】自ら問題を発見し解決する能力を養うことを目的とした課題解決型学習／プレゼンテーション／実習、フィールドワーク			
講義前・講義後の自主的学修活動への助言	講義で事例として取り上げる企業・店舗や商品のいくつかを実際に訪問したり使ってみたりすることで、理論と実際の両面から理解をする習慣を身につけてもらいたい。			
成績 (達成度) 評価方法・評価基準、割合	試験結果 (40%)・課題レポートの内容 (20%)・授業参画 (毎回レポート・出席・態度) 度合 (40%) により総合的に評価する。			
教員の実務経験と授業科目との関連	(教員の实務経験と授業科目との関連) チェーンストア志向企業で40年間、店舗の実務経験から40店舗を超す新店開発実績、チェーン化のための仕組みづくり等幅広い経験をもとに、本授業科目のチェーンストアの特徴や仕組み、生み出されたPB商品を手に取り、実践的に理解する教育を実施している。			
テキスト				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
『なし』				
参考図書など				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
『適宜紹介する』				
参考URL				
NO	表示名	URL	説明	
1.				
2.				
3.				
4.				
5.				

講義コード	120007201
講義名	デザイン基礎
開講期	2024年度前期
単位数	2単位
授業形態	講義
担当教員	木村 亮介
ナンバリングコード	19F2B2101

科目概要	Adobe Illustratorを使いデザイン制作の基礎を学習する。基礎的なコンピュータの操作方法からIllustratorの操作から応用技術までを実制作を通してトレーニングし、将来的に商品開発等の現場で活用できる基礎的知識と技術を習得する。
達成目標	デザインの制作プロセスを理解し、技術的ステージに合わせながらIllustratorを使って基本的なデザイン制作能力を身につける。テーマを踏まえながら自由な発想力で制作モチーフを考案し具現化できる力をつける。
履修に必要な予備知識や技能（関連科目等）	連続した講義であるため毎回必ず出席すること。また、わからないことは質問して都度理解するように心がけること。
学位授与方針との関連	2. フードビジネスを通して社会に貢献するために必要な思考力と課題発見力を有し、問題を解決するためのコミュニケーション力と解決力を身につけている。 3. 地域およびグローバルな社会に関心を持ち、フードビジネスを通して社会の発展に貢献するための倫理観と責任感、および他者と協働する能力を身につけている。 4. フードビジネスについて主体的に学修に取り組み、自ら考える姿勢を持ち、修得した知識や技術を活用して問題を解決し、発信する能力を身につけている。
授業計画、授業外学習の内容及び必要な時間	
第1回	イントロダクション：デザインとは何か PCの操作説明 キーワード：Mac 予習・復習として、「好きなデザイン」を探してみること（各60分）
第2回	Illustrator基本技術1 身の周りのデザインについて キーワード：Illustrator 予習・復習として、身のまわりのデザインを観察すること（各60分）
第3回	Illustrator基本技術2 企業とデザインについて キーワード：線、面 予習・復習として、身のまわりのデザインの制作方法をイメージしてみること（各60分）
第4回	Illustrator基本技術3 自然科学とデザイン キーワード：デフォルメ 予習・復習として、Illustratorの操作を練習すること（各60分）
第5回	Illustrator基本技術4 都市のデフォルメ キーワード：コマンド 予習・復習として、Illustratorの操作を練習すること（各60分）
第6回	Illustrator応用編1 文字で遊ぼうA キーワード：フォント 予習・復習として、Illustratorの操作を練習すること（各60分）
第7回	Illustrator応用編2 文字で遊ぼうB キーワード：タイポグラフィ 予習・復習として、身の周りのデザインタイポグラフィを見つけて観察してみること（各60分）
第8回	Illustrator応用編3 レイアウトに挑戦 キーワード：レイアウト 予習・復習として、Illustratorで写真のトリミングができるようにすること（各60分）
第9回	Illustrator応用編4 雑誌の表紙をつくってみよう キーワード：キャッチコピー 予習・復習として、Illustratorの操作を練習すること（各60分）

第10回	プロダクトをつくろう1 アクキーデザインに挑戦 キーワード：テーマ、モチーフ 予習・復習として、Illustratorの操作を練習すること（各60分）			
第11回	プロダクトをつくろう2 レーザーカッター用データの作成 キーワード：ベクターデータ 予習・復習として、Illustratorの操作を練習すること（各60分）			
第12回	プロダクトをつくろう3 商品の包装デコレーション キーワード：パッケージング 予習・復習として、Illustratorの操作を練習すること（各60分）			
第13回	カレンダー制作1 シリーズを考える キーワード：シリーズ 予習・復習として、Illustratorの操作を練習すること（各60分）			
第14回	カレンダー制作2 日付部分制作 キーワード：フォーマット 予習・復習として、Illustratorの操作を練習すること（各60分）			
第15回	カレンダー制作3 詳細部分制作 キーワード：アクセント 予習・復習としてこれまで制作したデータをまとめること（各60分）			
講義進行方法、課題へのフィードバック方法	本講義はデザインの基本について、コンピュータを使用しながら実践の制作を通して体験的に理解する授業である。コンピューターを使用する上でのアカウントを確認しておくこと。出席は評価に特に反映しないが欠席が規程回数を超えれば喪失となる。また、授業で各回のテーマに基づいて制作されたデザインデータが評価対象となるので、出席だけして課題を提出しなければ不可となるので注意すること。 成績フィードバック期間において成績・課題に関する質問やフィードバックを受け付ける。			
アクティブラーニング	PBL【Project Based Learning】自ら問題を発見し解決する能力を養うことを目的とした課題解決型学習／反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）／プレゼンテーション／実習、フィールドワーク			
講義前・講義後の自主的学修活動への助言	学習する教室は、授業外でも自由に使用できる実習室なので、MacおよびIllustratorの使用方法は授業外でも積極的に練習すること。学習した技術をもとに、学外や学内での活動に活かせることが望ましい。			
成績（達成度）評価方法・評価基準、割合	授業課題、メイン課題で制作したデザインデータを総合して評価する。授業課題40%、メイン課題60%。			
教員の実務経験と授業科目との関連	（教員の实務経験と授業科目との関連） PCによるデザイン制作（ポスター、カタログ、WEBなど）に関する実務経験を有しており、その実務経験を本授業科目でのAdobe Illustratorを使ったデザイン実制作では、初歩的な取り扱いから実務で活かすことのできる応用操作の教育を実施している。			
テキスト				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
『なし』				
参考図書など				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
『Illustrator しっかり入門 増補改訂 第2版』	高野雅弘	SBクリエイティブ	479739725X	2018
参考URL				
NO	表示名	URL	説明	
1.				
2.				
3.				
4.				
5.				

講義コード	120007801
講義名	デザイン応用
開講期	2024年度前期
単位数	2単位
授業形態	講義
担当教員	木村 亮介
ナンバリングコード	19F2B3201

科目概要	Adobe Illustrator / Photoshopの基本的な概念理解とグラフィックデザインの色や形、効果、また基本的なレイアウトおよびパッケージデザインの導入について学ぶ。食品に関するビジュアル表現やパッケージの試作など、実際の制作プロセスを通して応用的なデザイン表現力を身に付ける。
達成目標	テーマに合わせた制作のプロセス学習を通して、応用的なデザインの知識、表現力およびパッケージデザインの制作概要を身に付ける。また、柔軟な発想によるテーマの発見や企画作成ができること、そこからAdobe Illustrator/Photoshopを使いデザイン制作ができること。
履修に必要な予備知識や技能（関連科目等）	事前に「デザイン基礎」を履修しており、Adobe Illustratorについての基礎的な操作ができること。また、フード関係をはじめ、グラフィック、広告、企画、デザイン、パッケージ、ファッション、インテリア等の業界に興味があること、積極的にデザインについての学習に励む意欲があること。
学位授与方針との関連	2. フードビジネスを通して社会に貢献するために必要な思考力と課題発見力を有し、問題を解決するためのコミュニケーション力と解決力を身につけている。 3. 地域およびグローバルな社会に関心を持ち、フードビジネスを通して社会の発展に貢献するための倫理観と責任感、および他者と協働する能力を身につけている。 4. フードビジネスについて主体的に学修に取り組み、自ら考える姿勢を持ち、修得した知識や技術を活用して問題を解決し、発信する能力を身につけている。
授業計画、授業外学習の内容及び必要な時間	
第1回	イントロダクション：パッケージデザインとは パッケージを含めたデザインの基礎知識について キーワード：グラフィックデザイン、パッケージデザイン 予習・復習として身の周りのデザインリサーチ（各60分）
第2回	デザイン基礎演習1：IllustratorとPhotoshop IllustratorおよびPhotoshopの基本概念と操作（復習） キーワード：ベクター、ピクセル 予習・復習としてIllustrator、Photoshopの操作（各60分）
第3回	デザイン基礎演習2：トーンと配色 グラフィックデザインにおける配色について キーワード：色の3属性、トーン 予習・復習としてIllustratorの操作（各60分）
第4回	デザイン基礎演習3：オブジェクトとレイアウト グラフィックデザインにおけるレイアウトについて キーワード：オブジェクト、変形 予習・復習としてIllustratorの操作（各60分）
第5回	ロゴマークをつくってみよう テーマの企画作成～デザイン制作について キーワード：テーマ、モチーフ 予習・復習としてロゴマークのリサーチをまとめる（各60分）
第6回	パッケージデザイン制作演習1：良いデザインとは パッケージデザインのレイアウトを分析 キーワード：パッケージデザイン、レイアウト 予習・復習として食品のパッケージデザインについてリサーチをまとめる（各60分）
第7回	パッケージデザイン制作演習2：情報とレイアウト 必要情報、訴求情報のレイアウトについて キーワード：情報、レイアウト 予習・復習としてパッケージデザインの情報についてリサーチをまとめる（各60分）
第8回	パッケージデザイン制作演習3：視点とコンテンツ テーマの設定～商品の企画、デザインについて キーワード：ビジュアル、ターゲット 予習・復習として訴求力のあるパッケージデザインについてリサーチをまとめる（各60分）
第9回	パッケージデザイン制作演習4：アイデアとプロトタイプ 企画をもとにしたデザイン制作 キーワード：アイデア、デザイン 予習・復習としてIllustrator、Photoshopの操作（各60分）

第10回	パッケージデザイン制作演習5：制作～講評 企画をもとにしたパッケージのモック（試作模型）制作 キーワード：パッケージデザイン、モック 予習・復習として他の作品についての意見やアイデアをまとめる（各60分）			
第11回	デザインの現場 パッケージデザインのワークフローを学ぶ キーワード：パッケージ 予習・復習として既存の商品や店舗での展示状況を観察して意見をまとめる（各60分）			
第12回	ラベルデザイン制作演習1：色とブランディング 消費者視点についてデザインの視点から分析 キーワード：ターゲット、ブランディング 予習・復習としてIllustrator操作（各60分）			
第13回	ラベルデザイン制作演習2：ラベル制作 Illustratorによるラベル制作 キーワード：サイズ、レイアウト 予習・復習としてIllustrator、Photoshopの操作（各60分）			
第14回	ラベルデザイン制作演習3：モック制作 ペットボトル商品のモック制作 キーワード：プロトタイプ、モック 予習・復習としてIllustrator、Photoshopの操作（各60分）			
第15回	ラベルデザイン制作演習4：販促制作 制作したモックを使った販促ツール制作 キーワード：ポスター、写真 予習・復習としてこれまで授業で制作したデザインデータをまとめる（各60分）			
講義進行方法、課題へのフィードバック方法	本講義ではスクリーンに基づき各回の課題テーマに対する制作を通してデザイン及び色彩の理解を進める。講義中は講義を聞くと同時に、課題テーマに対する定義・考え方を適宜履修者自身のアイデアや企画についての考案が求められる。講義中のスクリーンや教員の講義内容はそれら現在の色彩デザインの具体例であったり実務からの知見であるので、指示がなくともこうした講義内容を適宜ノートなどに自身が事後的に確認できるように記入していくことは大切である。成績フィードバック期間において成績・課題に関する質問やフィードバックを受け付ける。			
アクティブラーニング	PBL【Project Based Learning】自ら問題を発見し解決する能力を養うことを目的とした課題解決型学習／反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）／ディスカッション、ディベート／プレゼンテーション／実習、フィールドワーク			
講義前・講義後の自主的学修活動への助言	毎回の講義前にそれまでに学習したAdobe IllustratorおよびPhotoshopの操作を確認しておくことによって、アプリケーションの操作が上達するとともに思い通りの表現ができるようになる。また、授業での課題について積極的にオリジナリティのあるアイデアを出すことができるように、自分の視点や興味を中心にできる限り多くのものを様々な視点から観察したり調査すること。			
成績（達成度）評価方法・評価基準、割合	前半の授業課題、中間からのメイン課題で制作したデザインデータを総合して評価する。授業課題40%、メイン課題60%。			
教員の実務経験と授業科目との関連	（教員の実務経験と授業科目との関連） 食品パッケージデザインおよびブランディング～ロゴデザインに関する実務経験を有しており、その実務経験を本授業科目では、デザイン制作における色彩計画～バリエーション展開及び企画制作など、実践的な教育に展開実施している。			
テキスト				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
『なし』				
参考図書など				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
『なるほどデザイン〈目で見て楽しむ新しいデザインの本。〉』	筒井 美希	エムディエヌコーポレーション	4844365177	2015
『パッケージデザインの入り口』	小玉 文	エムディエヌコーポレーション	429520210X	2021
参考URL				
NO	表示名	URL	説明	
1.				
2.				
3.				
4.				
5.				

講義コード	1200026101
講義名	食とデザイン I
開講期	2024年度後期
単位数	2単位
授業形態	演習
担当教員	木村 亮介
ナンバリングコード	19F2B4202

科目概要	現在の「食」に関する課題／問題発見、またこれからの可能性、新しい考え方について、デザインの観点から学習する。
達成目標	サービスや仕組み、ビジネスモデルなどの概念の提案におけるデザイン表現力、企画作成ができる。
履修に必要な予備知識や技能（関連科目等）	授業ではiPadおよびイヤホンを持参すること。 デザイン制作、また動画や音声の収録や編集ができるiPadアプリケーションについては自主的な学習を進め、問題なく操作できるようにしておくこと。 また、Adobe IllustratorやPhotoshopなどPCを使ったデザイン制作ツールについても自主的な学習を進めておくこと。
学位授与方針との関連	2. フードビジネスを通して社会に貢献するために必要な思考力と課題発見力を有し、問題を解決するためのコミュニケーション力と解決力を身につけている。 3. 地域およびグローバルな社会に関心を持ち、フードビジネスを通して社会の発展に貢献するための倫理観と責任感、および他者と協働する能力を身につけている。 4. フードビジネスについて主体的に学修に取り組み、自ら考える姿勢を持ち、修得した知識や技術を活用して問題を解決し、発信する能力を身につけている。
授業計画、授業外学習の内容及び必要な時間	
第1回	イントロダクション：「食」って何だろう 「食」について多視点からディスカッション キーワード：食、デザイン 予習・復習として「食」についての考察をまとめる（各60分）
第2回	イメージ演習1：みばえとデザイン 基礎的な写真撮影の演習 キーワード：アングル、コントラスト 予習・復習として写真撮影練習（各60分）
第3回	イメージ演習2：ことばとデザイン コピーや文章とデザインフォントについて演習 キーワード：キャッチコピー、POP 予習・復習としてフィールドリサーチで優れたPOPをまとめる（各60分）
第4回	イメージ演習3：かたちとデザイン パッケージにおける素材や形状について演習 キーワード：パッケージデザイン 予習・復習としてフィールドリサーチで優れたパッケージをまとめる（各60分）
第5回	パッケージ試作1：アイデアスケッチ テーマに対するアイデア考案～スケッチ キーワード：アイデアスケッチ 予習・復習として実際の店舗や商品の観察、リサーチ（各60分）
第6回	パッケージ試作2：設計と組み立て パッケージ展開図サンプルで試作 キーワード：展開図 予習・復習として既存の製品やポスターについて意見をまとめる（各60分）
第7回	パッケージ試作3：プロトタイピング パッケージの試作制作 キーワード：試作 予習・復習としてパッケージデザインについて意見をまとめる（各60分）
第8回	パッケージ試作4：デザイン パッケージのデザイン制作、撮影 キーワード：デザイン 予習・復習としてパッケージデザインについて意見をまとめる（各60分）
第9回	動画制作演習1：リサーチ Youtube動画の構成や印象、効果についてリサーチ キーワード：視点、構成 予習・復習として、様々なYoutube動画の構成についてまとめること（各60分）

第10回	<p>動画制作演習2：テーマとコンセプト 動画のアイデアを企画 キーワード：絵コンテ 予習・復習として、様々なYoutuberの撮影視点や効果についてまとめること（各60分）</p>			
第11回	<p>動画制作演習3：撮影 小道具準備～撮影の実施 キーワード：アングル、照明 予習・復習として、制作状況の進捗をみながら、必要に応じて授業外でも制作を進めること（各60分）</p>			
第12回	<p>動画制作演習4：編集 編集～音楽、効果音つけ、仕上げ キーワード：編集 予習・復習として、制作状況の進捗をみながら、必要に応じて授業外でも制作を進めること（各60分）</p>			
第13回	<p>動画制作演習5：共有 作品の講評とディスカッション キーワード：共有 予習・復習として、意欲的に様々な動画を検証すること（各60分）</p>			
第14回	<p>サービス設計演習1：問題発見と企画 オリジナルサービスのアイデアをブレスト キーワード：WEB、アプリ、ビジネスモデル 予習・復習として食に関するアプリをまとめる（各60分）</p>			
第15回	<p>サービス設計演習2：ビジネスモデル サービスの目標設定～コンセプトの立案 キーワード：コンセプト、ターゲット、UX 予習・復習として既存アプリの機能を1つまとめる（各60分）</p>			
講義進行方法、課題へのフィードバック方法	<p>特定の教科書は指定しないが、講義によるスクリーンに基づきテーマに合わせた課題制作によって理解をしながら進める。課題制作については、自らの意見を持った上でデザイン表現として取り組む。講義中は講義を聞くと同時に、自らのアイデアや制作について意欲的な取り組みが求められる。また、講義中のスクリーンや教員の講義内容はそれら現在までデザインの具体例であったり実務的な知見であるので、指示がなくとも、こうした講義内容に興味を持った事象については自身が事後的に調査できるようにしておくことは大切である。 成績フィードバック期間において成績・課題に関する質問やフィードバックを受け付ける。</p>			
アクティブラーニング	<p>PBL【Project Based Learning】自ら問題を発見し解決する能力を養うことを目的とした課題解決型学習／反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）／ディスカッション、ディベート／プレゼンテーション／実習、フィールドワーク／グループワーク</p>			
講義前・講義後の自主的学修活動への助言	<p>本講義の目的は「制作を通しながら、食とデザインについて知ること、考えること」であり、世の中で起こっている様々な事象について知ることが重要である。そのために自分の興味を広げた上で興味のある分野を見つけ、本講義を通して最低2冊の本を読むこと。（授業の中で適宜指示する）また評価は課題の制作物によって行うため、制作物のクオリティを向上させるために授業外での制作を推奨する。（授業内で制作が終了しなかった場合も同じ）</p>			
成績（達成度）評価方法・評価基準、割合	<p>前半の授業課題、中間からのメイン課題で制作したデザインデータを総合して評価する。授業課題40%、メイン課題60%。</p>			
教員の実務経験と授業科目との関連	<p>食品パッケージデザインおよびブランディング～ロゴデザイン、WEB、アプリやシステム、イベント企画運営までに関する実務経験を有しており、その実務経験と最新の知識をもとに本授業科目の設計や制作課題等を展開し、実務で活かすことのできる応用教育を実施する。</p>			
テキスト				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
『なし』				
参考図書など				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
『シズルのデザイン 食品パッケージに見るおいしさの言葉とヴィジュアル』	・B・M・FTことばラボ	誠文堂新光社	4416617461	2015
『グッドフード、グレートビジネス!』	スージー ワイシャク	クロニクルブックスジャパン	4198643342	2017
『世界5大陸のフードショップブランディング』		パイインターナショナル	4756248683	2017
参考URL				
NO	表示名	URL	説明	
1.				
2.				

講義コード	1200026501
講義名	食とデザインⅡ
開講期	2024年度前期
単位数	2単位
授業形態	講義
担当教員	木村 亮介
ナンバリングコード	19F2B5201

科目概要	これからの「食」に関する可能性をデザインの視点から考え、表現とコミュニケーションの観点から「メディアとしての食」について学習する。
達成目標	課題やテーマについて論理性を持って考え、共有するための手法としての映像や音声を含めたデザイン表現ができる。
履修に必要な予備知識や技能（関連科目等）	授業ではiPadおよびイヤホンを持参すること。iPadに連動するタッチペンの持参を推奨する。 デザイン制作、また動画や音声の収録や編集ができるiPadアプリケーションについては自主的な学習を進め、問題なく操作できるようにしておくこと。 また、Adobe IllustratorやPhotoshopなどPCを使ったデザイン制作ツールについても自主的な学習を進めておくこと。
学位授与方針との関連	2. フードビジネスを通して社会に貢献するために必要な思考力と課題発見力を有し、問題を解決するためのコミュニケーション力と解決力を身につけている。 3. 地域およびグローバルな社会に関心を持ち、フードビジネスを通して社会の発展に貢献するための倫理観と責任感、および他者と協働する能力を身につけている。 4. フードビジネスについて主体的に学修に取り組み、自ら考える姿勢を持ち、修得した知識や技術を活用して問題を解決し、発信する能力を身につけている。
授業計画、授業外学習の内容及び必要な時間	
第1回	イントロダクション：「食べもの屋」って何だろう 「食べもの屋」について多視点からディスカッション キーワード：食、飲食店、形態 予習・復習として「食べ物屋」についての考察をまとめる（各60分）
第2回	イメージ演習1：おいしいメディア メディアとしての食について キーワード：メディア、食 予習・復習として、これまでの印象的な食体験についてまとめる（各60分）
第3回	イメージ演習2：食とオンライン 食とオンラインの関連について キーワード：レビュー、SNS 予習・復習として、店舗や商品のレビューについてまとめる（各60分）
第4回	イメージ演習3：コミュニケーションとビジネス これからの食とビジネスについて キーワード：コミュニティ、場所 予習・復習として気に入っている店舗に赴いてリサーチをまとめる（各60分）
第5回	おいしいビジネス1：食の新しいサービス 食に関する様々な新しいサービスについて キーワード：サービス、商品 予習・復習として、食に関するオンラインサービスについてリサーチをまとめる（各60分）
第6回	おいしいビジネス2：課題発見とソリューション 食に関する課題分析とソリューションについて キーワード：ソリューション、ステークホルダー 予習・復習として、社会の中の食に関する課題についてリサーチをまとめる（各60分）
第7回	おいしいビジネス3：アイデアとビジネスモデル アイデア～ビジネスモデル立案について キーワード：社会起業家、コンセプト 予習・復習として、社会起業家についてリサーチをまとめる（各60分）
第8回	おいしいビジネス4：商品設計とデザイン サービスの業態とデザインについて キーワード：サービス、デザイン 予習・復習として、オンラインサービスのデザインについてリサーチをまとめる（各60分）
第9回	デザイン・ワークショップ iPadを使ったデザイン制作のワーク キーワード：iPad、デザイン 予習・復習として、授業内で終わらなかった作業を進める（各60分）

第10回	店舗創造1：リサーチと企画 飲食店のリサーチ～オリジナル企画について キーワード：記憶、体験 予習・復習として、様々な飲食店舗についてリサーチをまとめる（各60分）			
第11回	店舗創造2：コンセプトと世界観 架空店舗のコンセプトメイキング～イメージ作成 キーワード：内装、メニュー 予習・復習としてAIを使ったイメージ作成を進める（各60分）			
第12回	店舗創造3：デザインとブランディング 目標立案～ブランディングについて キーワード：モチーフ、ロゴ 予習・復習として、授業内で終わらなかった作業を進める（各60分）			
第13回	店舗創造4：オープンポスター 企画のビジュアルメイキング キーワード：キャッチ、レイアウト 予習・復習として、授業内で終わらなかった作業を進める（各60分）			
第14回	店舗創造5：地域とビジネスモデル 地域への影響～ビジネスモデルについて キーワード：コミュニティ、コミュニケーション 予習・復習として、店舗と地域の関連についてリサーチをまとめる（各60分）			
第15回	講評会 これまでの作品について振り返りと考察 キーワード：講評、考察 予習・復習として「これからの食」に関する本を見つけて読む（各60分）			
講義進行方法、課題へのフィードバック方法	特定の教科書は指定しないが、講義によるスクリーンに基づきテーマに合わせた課題制作によって理解をしながら進める。課題制作については、自らの意見を持った上でデザイン表現として取り組む。講義中は講義を聞くと同時に、自らのアイデアや制作について意欲的な取り組みが求められる。また、講義中のスクリーンや教員の講義内容はそれら現在までデザインの具体例であったり実務的な知見であるので、指示がなくとも、こうした講義内容に興味を持った事象については自身が事後的に調査できるようにしておくことは大切である。 成績フィードバック期間において成績・課題に関する質問やフィードバックを受け付ける。			
アクティブラーニング	PBL【Project Based Learning】自ら問題を発見し解決する能力を養うことを目的とした課題解決型学習／反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）／ディスカッション、ディベート／プレゼンテーション／実習、フィールドワーク／グループワーク			
講義前・講義後の自主的学修活動への助言	本講義の目的は「制作を通して、食とデザインについて知ること、考えること」であり、世の中で起こっている様々な事象について知ることが重要である。そのために自分の興味を広げた上で興味のある分野を見つけ、本講義を通して最低2冊の本を読むこと。（授業の中で適宜指示する）また評価は課題の制作物によって行うため、制作物のクオリティを向上させるために授業外での制作を推奨する。（授業内で制作が終了しなかった場合も同じ）			
成績（達成度）評価方法・評価基準、割合	前半の授業課題、中間からのメイン課題での制作データを総合して評価する。授業課題40%、メイン課題60%。			
教員の実務経験と授業科目との関連	食品パッケージデザインおよびブランディング～ロゴデザイン、WEB、アプリやシステム、撮影と動画制作、イベント企画運営までに関する実務経験を有しており、その実務経験と最新の知識をもとに本授業科目の設計や制作課題等を展開し、実務で活かすことのできる応用教育を実施する。			
テキスト				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
『なし』				
参考図書など				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
『フードテック革命 世界700兆円の新産業「食」の進化と再定義』	田中宏隆（著）、岡田亜希子（著）、瀬川明秀（著）、外村 仁（監修）	日経BP	4296106716	2020
参考URL				
NO	表示名	URL	説明	
1.				
2.				
3.				
4.				
5.				

講義コード	1100004001
講義名	芸術
開講期	2024年度後期
単位数	2単位
授業形態	講義
担当教員	木村 亮介
ナンバリングコード	19F1Z9202、22M1Z9202

科目概要	様々な表現や発見を通して芸術に親しむことで、豊かな発想や想像力を育む。自然や人間に対するまなざしから文化としての芸術を捉え、生活をより豊かにする芸術の歴史と心情、また最先端の表現方法まで幅広い視点から「みる力」と「表現する力」を学び、今日の芸術の理解につなげる。
達成目標	芸術表現を通して、豊かな発想や想像力で「つくる力」とともに、物事をよく見て観察する「みる力」を身に付ける。描画材によるトレーニングをはじめ、芸術的視点から自分のアイデアを表現できる。
履修に必要な予備知識や技能（関連科目等）	制作に必要な道具や材料を適宜購入してもらうことがある。
学位授与方針との関連	5. 専門科目の学習の基盤となる教養と基礎教育の能力を身につける。（情報メディア学科） 5. 社会人としての教養に関わる科目等（フードビジネス学科）
授業計画、授業外学習の内容及び必要な時間	
第1回	イントロダクション：芸術とは何か 芸術の基礎知識について説明 キーワード：芸術 予習・復習としてインターネットで「芸術」について調査（各60分）
第2回	鉛筆デッサン1：デッサン基礎～写真をモチーフにした陰影表現 モチーフデッサン キーワード：観察 予習・復習としてデッサン練習（各60分）
第3回	鉛筆デッサン2：パースによる立体感の表現 立体デッサン演習 キーワード：パース、遠近法 予習・復習として立体物のデッサン練習（各60分）
第4回	コラージュ作品制作1：要素とする素材収集 コラージュ素材集め キーワード：コラージュ 予習・復習として身の周りのコラージュ制作物を探してまとめる（各60分）
第5回	コラージュ作品制作2：要素とする素材収集 レイアウト、糊付け キーワード：レイアウト 予習・復習として不足素材を収集する（各60分）
第6回	コラージュ作品制作3：作品展示 作品の完成と鑑賞 キーワード：展示、鑑賞 予習・復習として外部の展示スペースに足を運ぶ（各60分）
第7回	美術と表現：表現とは何か 近代芸術におけるドキュメンタリー作品の鑑賞、意見交換 キーワード：コンセプト、メッセージ 予習・復習として芸術に関する映画やドキュメンタリーを鑑賞する（各60分）
第8回	美術館に行こう！：作品鑑賞力を鍛えてみよう 荻須記念美術館に行き作品鑑賞、模写 キーワード：鑑賞、模写 予習・復習として他の展示スペースに足を運ぶ（各60分）
第9回	紙を使った表現1：ステンシル切り絵1～導入 切り絵モチーフを作成する キーワード：ステンシル 予習・復習として切り絵の仕組みを練習して理解する（各60分）
第10回	紙を使った表現1：ステンシル切り絵2～モチーフの作成 準備した下絵の補正作業を進める キーワード：下絵制作 予習・復習として切り絵を練習する（各60分）
第11回	紙を使った表現1：ステンシル切り絵3～切り出し 下絵をもとに切り絵を制作する キーワード：デザインナイフ 予習・復習として切り絵を練習する（各60分）

第12回	紙を使った表現Ⅰ：ステンシル切り絵4～スプレーアート 完成した切り絵を版にスプレーで仕上げる キーワード：ステンシルアート 予習・復習としてスプレーを使った表現についてまとめる（各60分）			
第13回	紙を使った表現ⅠⅠ：ポップアップ1～制作練習 ポップアップ技術の基礎知識演習 キーワード：ポップアップ 予習・復習としてきちんと設計して切り出す練習をする（各60分）			
第14回	紙を使った表現ⅠⅠ：ポップアップ2～構成要素制作 テーマに合ったポップアップを制作 キーワード：仕組み、動き 予習・復習としてポップアップ本をよく検証する（各60分）			
第15回	紙を使った表現ⅠⅠ：ポップアップ3～仕上げ 制作したポップアップに装飾して仕上げる キーワード：世界観 予習・復習としてこれまで制作したものを写真に撮ってまとめる（各60分）			
講義進行方法、課題へのフィードバック方法	特定の教科書は指定しないが、講義によるスクリーンに基づき、制作することによって理解を深める。制作課題のテーマは、自然科学から社会問題までであるが、芸術により親しみ、自由な発想での作品制作を期待する。基礎としてのデッサンおよびドローイングなど技術的養成からコラージュなど感覚的養成までを取り組むが、制作では積極性、意欲を評価するので、講義を聞くと同時に自らのアイデアや制作について意欲的な取り組みが求められる。 成績フィードバック期間において成績・課題に関する質問やフィードバックを受け付ける。			
アクティブラーニング	PBL【Project Based Learning】自ら問題を発見し解決する能力を養うことを目的とした課題解決型学習／反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）／プレゼンテーション／実習、フィールドワーク			
講義前・講義後の自主的学修活動への助言	講義では課題制作が主になるが、自分の中で制作物を「完成」させるために、積極的に制作に取り組んでほしい。授業時間内に完成できなかった場合は、時間外にて補完して完成させること。また、日頃の興味を拡張し、美術館や展覧会に出かけることが望ましい。			
成績（達成度）評価方法・評価基準、割合	授業での課題で制作した作品を総合して評価する。			
教員の実務経験と授業科目との関連	（教員の实務経験と授業科目との関連） 企業における美術製作に関する実務経験を有しており、その実務経験を、本授業科目では「作品というものの多様性」また「作品制作のモチベーション」という観点から指導することで、作品制作における実践的な教育として実施している。			
テキスト				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
『なし』				
参考図書など				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
『バンクシー ビジュアルアーカイブ』	ザビエル・タピエス	グラフィック社	476613141X	2018
『きりのなかのサーカス』	ブルーノ・ムナーリ	フレーベル館	4577036975	2009
『実物で学ぶしかけ絵本の基礎知識ポップアップ』	デビッド・A・カーター他 著	大日本絵画	4499279100	2000
参考URL				
NO	表示名	URL	説明	
1.				
2.				
3.				
4.				
5.				

講義コード	1200010701
講義名	製菓実習
開講期	2024年度前期
単位数	1単位
授業形態	実習
担当教員	小川 博司
ナンバリングコード	19F2C5201

科目概要	洋菓子製造の基礎と衛生についてさまざまな材料と道具を用い基礎的な技法を身につけ、製菓機器の正しい取り扱い方も修得する。
達成目標	実習を通して、製菓理論を学び、フードビジネスとしての製菓技術を習得できる。
履修に必要な予備知識や技能（関連科目等）	1、2年次で受講した実習科目を通じて会得した技術・知識が必要となります。作成予定の献立について、製菓に関する知識が事前にあることが望ましい。
学位授与方針との関連	1. フードビジネス業界で必要とされる食とビジネスの基本を体系的に理解し、フードビジネスの専門領域に関する知識、技術、および実践力を身につけている。 4. フードビジネスについて主体的に学修に取り組み、自ら考える姿勢を持ち、修得した知識や技術を活用して問題を解決し、発信する能力を身につけている。
授業計画、授業外学習の内容及び必要な時間	
第1回	ガイダンス・授業の進め方の説明 パウンドケーキ ロールケーキ 班で分かれて実習をおこないます。実習後、来週までに作成した献立についてレポート作成（60分程度）
第2回	シュークリーム（カスタードの作り方） フルーツの切り方練習（商品として提供するカットの仕方を学ぶ） 班で分かれて実習をおこないます。実習後、来週までに作成した献立についてレポート作成（60分程度）
第3回	シャルロット・オ・フレーズ 班で分かれて実習をおこないます。実習後、来週までに作成した献立についてレポート作成（60分程度）
第4回	バナナマフィン（バターをボマード状にする技術を学ぶ） クリーム・ブリュレ（バニラ・チョコレート） 班で分かれて実習をおこないます。実習後、来週までに作成した献立についてレポート作成（60分程度）
第5回	ブラウニー（バターをボマード状にする技術を学ぶ） クロックムッシュ 班で分かれて実習をおこないます。実習後、来週までに作成した献立についてレポート作成（60分程度） 来週の生地のおこしもおこないます
第6回	チーズケーキ ジャム（食品の衛生について、ジャムの瓶の煮沸について） 班で分かれて実習をおこないます。実習後、来週までに作成した献立についてレポート作成（60分程度）
第7回	ガトーショコラ ババロア 班で分かれて実習をおこないます。実習後、来週までに作成した献立についてレポート作成（60分程度）
第8回	マドレーヌ プリン 班で分かれて実習をおこないます。実習後、来週までに作成した献立についてレポート作成（60分程度）
第9回	スコーン シフォンケーキ（メレンゲの立て方について学ぶ） 班で分かれて実習をおこないます。実習後、来週までに作成した献立についてレポート作成（60分程度）

第10回	マカロン（メレンゲの立て方について学ぶ） クレープ（飾りつけについて） 班で分かれて実習をおこないます。実習後、来週までに作成した献立についてレポート作成（60分程度） 来週の生地（仕込み）もおこないます			
第11回	キッシュ トウモロコシの冷製スープ 班で分かれて実習をおこないます。実習後、来週までに作成した献立についてレポート作成（60分程度） 来週の生地（仕込み）もおこないます			
第12回	いちじくの焼きタルト フィナンシェ 班で分かれて実習をおこないます。実習後、来週までに作成した献立についてレポート作成（60分程度）			
第13回	モンブラン 桃のコンポート 班で分かれて実習をおこないます。実習後、来週までに作成した献立についてレポート作成（60分程度） 来週の生地（仕込み）もおこないます			
第14回	タケワース フロランタン 班で分かれて実習をおこないます。実習後、来週までに作成した献立についてレポート作成（60分程度） 来週の生地（仕込み）もおこないます			
第15回	フルーツのタルト（様々なフルーツを用い、製菓実習を通して得た知識・技術をまとめる（60分程度））			
講義進行方法、課題へのフィードバック方法	遅刻・早退は厳禁。常に衛生、一番食べてもらいたいひとに創るということを念頭に置いて実習に取り組む。 デモンストレーションもあるが、種類によっては同時進行もあるので創り方を覚えてから実習にのぞむこと。 成績フィードバック期間において成績・課題に関する質問やフィードバックを受け付ける			
アクティブラーニング	実習、フィールドワーク			
講義前・講義後の自主的学修活動への助言	毎週2品作成するが、そのどちらかについてレシピの材料・作り方について、講義後レポート作成を実施する。			
成績（達成度）評価方法・評価基準、割合	実習態度、レポートにて評価する（100%）			
教員の実務経験と授業科目との関連	（教員の実務経験と授業科目との関連） 洋菓子店のオーナーシェフとしての実務経験を有している。実務経験をもとに本授業『製菓実習』における洋菓子製造の技法、知識、製菓機器取り扱い方について、実践的な教育をおこなっている。			
テキスト				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
『なし』				
参考図書など				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考URL				
NO	表示名	URL	説明	
1.				
2.				
3.				
4.				
5.				

講義コード	1200008903
講義名	マーケティング論
開講期	2024年度前期
単位数	2単位
授業形態	講義
担当教員	渡邊 正樹
ナンバリングコード	19F2A3201

科目概要	マーケティング論とは、企業や様々な組織が消費者や取引先といった「思うようにならない他者」と、いかにコミュニケーションをとるべきかを考える学問です。このことを理論と事例を通じて学んでいきます。
達成目標	授業で学んだマーケティング論の基礎的な概念・理論を使って、現実のマーケティング現象を理解することができる
履修に必要な予備知識や技能（関連科目等）	<ul style="list-style-type: none"> ・ マーケティングに関心があり、より深く学ぼうという意欲があること ・ 後期の「広告論」を履修予定の学生は、この「マーケティング論」を履修しておくことが望ましい
学位授与方針との関連	<ol style="list-style-type: none"> 1. フードビジネス業界で必要とされる食とビジネスの基本を体系的に理解し、フードビジネスの専門領域に関する知識、技術、および実践力を身につけている。 2. フードビジネスを通して社会に貢献するために必要な思考力と課題発見力を有し、問題を解決するためのコミュニケーション力と解決力を身につけている。 4. フードビジネスについて主体的に学修に取り組み、自ら考える姿勢を持ち、修得した知識や技術を活用して問題を解決し、発信する能力を身につけている。
授業計画、授業外学習の内容及び必要な時間	
第1回	授業のガイダンス-「マーケティング」とは何か？- キーワード：コミュニケーション 好きな商品がなぜ売れているのか考えてみる（60分）／授業内容を踏まえて身の回りの商品を分析する（60分）
第2回	マーケティングの基本概念 キーワード：顧客満足・STP・4P 好きな商品の品質以外の要素について考えてみる（60分）／授業内容を踏まえて身の回りの商品を分析する（60分）
第3回	製品のマネジメント キーワード：製品コンセプト 「コンセプト」とは何か考えてみる（60分）／授業内容を踏まえて身の回りの商品を分析する（60分）
第4回	価格のマネジメント キーワード：価格競争・需要の価格弾力性 「適切な価格」とは何か考えてみる（60分）／授業内容を踏まえて身の回りの商品を分析する（60分）
第5回	広告のマネジメント キーワード：プロモーションミックス 「広告」とは何か考えてみる（60分）／授業内容を踏まえて身の回りの商品を分析する（60分）
第6回	チャネルのマネジメント（1） キーワード：マーケティング・チャネル コンビニの売り場にどんな商品が並んでいるか確認してみる（60分）／授業内容を踏まえて身の回りの商品を分析する（60分）
第7回	チャネルのマネジメント（2） キーワード：チャネル別ブランド戦略・オムニ・チャネル 好きな商品がどこで売っているか、それはなぜなのか考えてみる（60分）／授業内容を踏まえて身の回りの商品を分析する（60分）
第8回	サプライチェーンのマネジメント キーワード：SCM・SPA 「サプライチェーン」とは何か考えてみる（60分）／授業内容を踏まえて身の回りの商品を分析する（60分）
第9回	営業のマネジメント キーワード：ルート営業・提案型営業 「営業担当者はなぜ必要か」考えてみる（60分）／授業内容を踏まえて身の回りの商品を分析する（60分）

第10回	顧客関係のマネジメント キーワード：CRM・関係性パラダイム 好きなブランドと自分との関係について考えてみる（60分）／授業内容を踏まえて身の回りの商品を分析する（60分）			
第11回	ビジネスモデルのマネジメント キーワード：ビジネスエコシステム 「ビジネスモデル」とは何を考えてみる（60分）／授業内容を踏まえて身の回りの商品を分析する（60分）			
第12回	顧客理解のマネジメント キーワード：マーケティング・リサーチ 「マーケティングリサーチ」とは何を考えてみる（60分）／授業内容を踏まえて身の回りの商品を分析する（60分）			
第13回	ブランドのマネジメント キーワード：ブランド・エクイティ・ブランド・アイデンティティ 「ブランド」とは何を考えてみる（60分）／授業内容を踏まえて身の回りの商品を分析する（60分）			
第14回	社会責任のマネジメント キーワード：CSR 企業と社会との関係について考えてみる（60分）／授業内容を踏まえて身の回りの商品を分析する（60分）			
第15回	マーケティング思考の可能性 キーワード：コミュニケーション これまでの講義資料の復習（60分）／授業内容を踏まえて身の回りの商品を分析する（60分）			
講義進行方法、課題へのフィードバック方法	毎回、スライドによる講義に加え、映像資料と小レポートを組み合わせ、学生が主体的に取り組むことのできる課題を課します。課題のフィードバックは、次の授業の冒頭で行います。			
アクティブラーニング				
講義前・講義後の自主的学修活動への助言	普段の生活の中で商品やサービスに接する場面では（インターネット・TVCM・店舗の商品など）、授業で学んだことを思い起こしながら、企業はどういう意図で、そのような商品やサービスを販売しているのか、あるいは、それを購入する消費者は、どのような特徴を持っている人達か等について、考えてみるようにしましょう。			
成績（達成度）評価方法・評価基準、割合	成績は、定期試験50%、平常点（授業中の課題・授業への貢献）50%で評価			
教員の実務経験と授業科目との関連	（教員の実務経験と授業科目との関連） 担当するのは食品メーカー在籍14年の経歴を持つ教員です。その経験から、マーケティングに関連する様々な課題についてより実践的な解説を行っていきます。			
テキスト				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
使用しない				
参考図書など				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
『1からのマーケティング（第4版）』	石井淳蔵・廣田章光・清水信年	碩学舎	978-4502327711	
参考URL				
NO	表示名	URL	説明	
1.	授業の中で紹介していきます			
2.				
3.				
4.				
5.				

講義コード	1200010302
講義名	リスクマネジメント
開講期	2024年度前期
単位数	2単位
授業形態	講義
担当教員	渡邊 正樹
ナンバリングコード	19F2Z5201、19M4D6202

科目概要	リスクとは目的に対して不確かさが与える影響のことを意味します。企業は何らかの目的をもって行動するので、目的達成のためにはリスクに上手く対処する必要があります。このリスクに上手く対処する方法を考え、いかに全社的な取り組みとしていくかを研究するのがリスクマネジメントです。このことを理論と事例を通じて学んでいきます。
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・企業にとってリスクとは何かを理解できる ・リスクマネジメントに関する考え方、対処方法を評価できる ・自身でリスクへの対処方法を立案する力を身につける
履修に必要な予備知識や技能（関連科目等）	リスクマネジメントに関心があり、より深く学ぼうという意欲があること
学位授与方針との関連	<p>2. フードビジネスを通して社会に貢献するために必要な思考力と課題発見力を有し、問題を解決するためのコミュニケーション力と解決力を身につけている。</p> <p>3. 地域およびグローバルな社会に関心を持ち、フードビジネスを通して社会の発展に貢献するための倫理観と責任感、および他者と協働する能力を身につけている。</p>
授業計画、授業外学習の内容及び必要な時間	
第1回	授業のガイダンス-「リスクマネジメント」とは何か？ キーワード：リスクマネジメント・純粹リスク・投機的リスク 企業の目的に影響を与える不確かさにはどんなものがあるか考える（60分）／リスクが企業に与える影響について考える（60分）
第2回	リスクの大きさ キーワード：影響度・発生頻度・リスクマップ リスクの大きさを評価する方法を考える（60分）／様々なリスクをリスクマップ上に位置づける（60分）
第3回	リスクの分類 キーワード：悲観的に準備し、楽観的に対処せよ 企業のリスクを5つ以上あげ、それを分類してみる（60分）／リスクの分類毎にリスクマネジメント上の課題を整理する（60分）
第4回	全社的リスクマネジメント（1） キーワード：山一証券・経営破綻 経営破綻した山一証券についてネットで検索して調べておく（60分）／授業内容を踏まえて、再度、山一証券について調べてみる（60分）
第5回	全社的リスクマネジメント（2） キーワード：組織の病理・ERM 企業全体でリスクに対処する際の課題を考える（60分）／授業内容を踏まえて再度企業全体でリスクに対処する際の課題を考える（60分）
第6回	製品事故のリスクマネジメント キーワード：消費者庁・雪印乳業食中毒事件 企業の製造事故の事例をネットで検索して調べておく（60分）／授業内容を踏まえて事前に調べた事例を分析する（60分）
第7回	不祥事のリスクマネジメント キーワード：神戸製鋼データ改ざん問題・下請企業 企業の不祥事の事例をネットで検索して調べておく（60分）／授業内容を踏まえて事前に調べた事例を分析する（60分）
第8回	労務問題のリスクマネジメント キーワード：働き方改革・ブラック企業・労働基準監督署 企業の労務問題の事例をネットで検索して調べておく（60分）／授業内容を踏まえて事前に調べた事例を分析する（60分）
第9回	個人情報漏えいのリスクマネジメント キーワード：個人情報保護法 企業の個人情報漏えいの事例をネットで検索して調べておく（60分）／授業内容を踏まえて事前に調べた事例を分析する（60分）

第10回	ハラスメントのリスクマネジメント キーワード：パワーハラスメント 企業のハラスメントの事例をネットで検索して調べておく（60分）／授業内容を踏まえて事前に調べた事例を分析する（60分）			
第11回	取引関係のリスクマネジメント キーワード：売掛金・与信管理 倒産した企業の事例をネットで検索して調べておく（60分）／授業内容を踏まえて事前に調べた事例を分析する（60分）			
第12回	SNSのリスクマネジメント キーワード：炎上・ジェンダー 企業のSNS炎上の事例をネットで検索して調べておく（60分）／授業内容を踏まえて事前に調べた事例を分析する（60分）			
第13回	自然災害のリスクマネジメント キーワード：ステークホルダー・BCP 自然災害時に企業がとった行動をネットで検索して調べておく（60分）／授業内容を踏まえて事前に調べた事例を分析する（60分）			
第14回	感染症のリスクマネジメント キーワード：新型コロナウイルス・サプライチェーン コロナ禍に企業がとった行動をネットで検索して調べておく（60分）／授業内容を踏まえて事前に調べた事例を分析する（60分）			
第15回	その他外部要因のリスクマネジメント キーワード：原材料費高騰・法制度 原材料費高騰や法制度の変更に対応して企業がとった行動をネットで検索して調べておく（60分）／授業内容を踏まえて事前に調べた事例を分析する（60分）			
講義進行方法、課題へのフィードバック方法	毎回、スライドによる講義に加え、映像資料と小レポートを組み合わせ、学生が主体的に取り組むことのできる課題を課します。課題のフィードバックは、次の授業の冒頭で行います。			
アクティブラーニング				
講義前・講義後の自主的学修活動への助言	普段の生活の中で、自分の身の回りにはどのようなリスクが存在し、自分が思うように物事を進めるためには、そのリスクにどう対処すればよいか考えてみてください。			
成績（達成度）評価方法・評価基準、割合	成績は、定期試験50%、平常点（授業中の課題・授業への貢献）50%で評価			
教員の実務経験と授業科目との関連	（教員の実務経験と授業科目との関連） 担当するのは食品メーカー在籍14年の経歴を持つ教員です。ビジネスの現場に存在する様々なリスクに対処してきた経験から、リスクマネジメントに関連する様々な課題についてより実践的な解説を行います。			
テキスト				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
使用しない				
参考図書など				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
『予測不可能な時代に先手を打つリスク大全』	深津嘉成 著・東京海上日動 リスクコンサルティング (株) 編	インプレス	978-4295011576	
参考URL				
NO	表示名	URL	説明	
1.	授業の中で紹介していきます			
2.				
3.				
4.				
5.				

講義コード	120009001
講義名	広告論
開講期	2024年度後期
単位数	2単位
授業形態	講義
担当教員	渡邊 正樹
ナンバリングコード	19F2Z4202、19M4D3302

科目概要	<p>広告論はマーケティング論の一分野です。マーケティング論とは、企業や様々な組織が、消費者をはじめとする「思うようにならない他者」と、いかにコミュニケーションをとるべきかを考える学問です。この「思うようにならない他者」に対し、いかにメッセージを伝えるか、それによって、どのようにブランドを構築・維持するかを研究するのが広告論です。このことを理論と事例を通じて学んでいきます。</p>
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・授業で学んだ広告論の基礎的な概念・理論を使って、現実の広告現象を理解することができる ・自身で広告計画を立案する力を身につける
履修に必要な予備知識や技能（関連科目等）	<ul style="list-style-type: none"> ・広告に関心があり、より深く学ぼうという意欲があること ・「マーケティング論」を履修しておくことが望ましい
学位授与方針との関連	<ol style="list-style-type: none"> 1. フードビジネス業界で必要とされる食とビジネスの基本を体系的に理解し、フードビジネスの専門領域に関する知識、技術、および実践力を身につけている。 2. フードビジネスを通して社会に貢献するために必要な思考力と課題発見力を有し、問題を解決するためのコミュニケーション力と解決力を身につけている。 4. フードビジネスについて主体的に学修に取り組み、自ら考える姿勢を持ち、修得した知識や技術を活用して問題を解決し、発信する能力を身につけている。
授業計画、授業外学習の内容及び必要な時間	
第1回	<p>「広告」とは何か？ キーワード：コミュニケーション 普段接する広告をよく観察する（60分）／授業内容を踏まえて再度広告を観察する（60分）</p>
第2回	<p>ブランドと広告 キーワード：ブランド・イメージ 好きなブランドと自分との関係に広告がどう関わっているか考えてみる（60分）／授業内容を踏まえて身の回りの広告を分析する（60分）</p>
第3回	<p>激変する広告の環境 キーワード：Windows95 「Windows95」をネットで検索して調べておく（60分）／電通のホームページ内「日本の広告費」の内容を確認する（60分）</p>
第4回	<p>マーケティングと広告（1）－ マーケティングの基本概念 － キーワード：STP・4P 「STP」「4P」をネットで検索して調べておく（60分）／授業内容を踏まえて身の回りの広告を分析する（60分）</p>
第5回	<p>マーケティングと広告（2）－ 顧客との関係 － キーワード：関係性マーケティング よく使う製品・サービスを思い浮かべ、自分がなぜ使い続けるのか考えてみる（60分）／授業内容を踏まえて身の回りの広告を分析する（60分）</p>
第6回	<p>消費者と広告 キーワード：関与 好きなブランドを思い浮かべ、なぜ好きなのかじっくり考えてみる（60分）／授業内容を踏まえて身の回りの広告を分析する（60分）</p>
第7回	<p>広告のしくみ キーワード：広告代理店 「広告代理店」をネットで検索して調べておく（60分）／広告代理店のホームページの内容を確認する（60分）</p>
第8回	<p>インターネットと広告 キーワード：動画共有サイト・SNS 動画共有サイトやSNS上の広告と、テレビCMの違いについて考えてみる（60分）／授業内容を踏まえて身の回りの広告を分析する（60分）</p>
第9回	<p>広告計画（1）－ 基本計画 － キーワード：マーケティング・コミュニケーション 広告制作で考慮すべき項目について考えてみる（60分）／授業内容を踏まえて身の回りの広告を分析する（60分）</p>

第10回	<p>広告計画（２）－ 広告目標の設定 － キーワード：コミュニケーション目標 広告の成否の判断基準について考えてみる（60分）／授業内容を踏まえて身の回りの広告を分析する（60分）</p>			
第11回	<p>広告計画（３）－ 表現計画 － キーワード：広告コンセプト・表現コンセプト 好きなブランドの広告に、どのようなメッセージが込められているか考えてみる（60分）／授業内容を踏まえて身の回りの広告を分析する（60分）</p>			
第12回	<p>広告計画（４）－ 媒体計画 － キーワード：媒体計画最適化 好きなブランドが、どのようなメディアに広告を出しているか調べておく（60分）／授業内容を踏まえて身の回りの広告を分析する（60分）</p>			
第13回	<p>広告計画（５）－ 広告効果の測定 － キーワード：費用対効果 広告の効果を測定する方法について考えてみる（60分）／授業内容を踏まえて身の回りの広告を分析する（60分）</p>			
第14回	<p>広告の公共性 キーワード：広告規制・景品表示法 広告に規制が存在する理由について考えてみる（60分）／授業内容を踏まえ身の回りの広告を分析する（60分）</p>			
第15回	<p>広告の未来 キーワード：変わるもの・変わらないもの 20年後の広告について考えてみる（60分）／授業内容を踏まえ身の回りの広告を分析する（60分）</p>			
講義進行方法、課題へのフィードバック方法	<p>毎回、スライドによる講義に加え、映像資料と小レポートを組み合わせ、学生が主体的に取り組むことのできる課題を課します。課題へのフィードバックは、次の授業の冒頭で行います。</p>			
アクティブラーニング				
講義前・講義後の自主的学修活動への助言	<p>普段の生活の中で広告に接する場面では（動画共有サイト・SNS・TV・新聞など）、授業で学んだことを思い起こしながら、企業はどういう意図で、そのような広告を制作しているのか、あるいは、それを見ている消費者は、どのような気持ちで接しているのか等について、考えてみるようにしてください。</p>			
成績（達成度）評価方法・評価基準、割合	<p>成績は、定期試験50%、平常点（授業中の課題・授業への貢献）50%で評価</p>			
教員の実務経験と授業科目との関連	<p>担当するのは食品メーカー在籍14年の経歴を持つ教員です。そのうち4年間はマーケティング・リサーチ部門に所属していました。その経験から、広告に関連する様々な課題についてより実践的な解説を行っていきます。</p>			
テキスト				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
使用しない				
参考図書など				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
授業の中で紹介していきます				
参考URL				
NO	表示名	URL	説明	
1.	電通「日本の広告費」	https://www.dentsu.co.jp/knowledge/ad_cost/		
2.				
3.				
4.				
5.				

講義コード	120013401
講義名	情報メディア論
開講期	2024年度前期
単位数	2単位
授業形態	講義
担当教員	長谷川 聡
ナンバリングコード	22M2Z1103

科目概要	「情報メディア」とは何か。「情報」と「メディア」の性質を、具体例を挙げて解説する。また、デジタルメディアのしくみと社会的な影響についても触れ、これからの情報メディアの発展についても考える。
達成目標	「情報メディア」の意味と性質を知り、デジタル情報メディアの仕組みと応用分野について理解できる。「情報メディア」にかかわる幅広い分野に興味を持って自ら学ぶ姿勢を身につける。学習によって、「情報メディア」に関する基本的知識が身につく、より専門的な各分野との関係が理解できる。
履修に必要な予備知識や技能（関連科目等）	高等学校「情報」の知識と、情報メディア学科4コースの学びとの橋渡しとなる。 情報メディア学科のすべての専門教育科目（専門基礎・専門科目）の基礎となる概論。 LMS (WebClass) を利用する。無償配布のiPadを活用する。 授業中だけでなく予習・復習にもiPadとインターネットを利用する。（無償配布または各自のiPadが必要）
学位授与方針との関連	1. 情報メディアに関して、基礎的な情報処理技術、ソフトウェアについての知識、また、資格試験の学修内容等、基礎的な知識・技能を身につけている
授業計画、授業外学習の内容及び必要な時間	
第1回	「情報メディア」とは何か 名古屋文理大学情報メディア学部情報メディア学科の学びと「情報メディア」 キーワード：メディア (media) 復習：授業内容の復習とノートの整備（ノートは紙でもデジタルデータでもよい）（90分）
第2回	「情報メディア」の分類（1）：「情報メディア」の具体例、「情報メディア」の機能 キーワード：表現メディア、伝達メディア、記録メディア 予習：前回の内容の確認（30分） 復習：授業内容の復習とノートの整備（ノートは紙でもデジタルデータでもよい）・課題レポート（90分）
第3回	「情報メディア」の分類（2）：〇〇メディア キーワード：マルチメディア、マスメディア、ソーシャルメディア 予習：前回の内容の確認（30分） 復習：授業内容の復習とノートの整備・LMS (WebClass) で確認問題に解答（90分）
第4回	「デジタルとアナログ」 キーワード：デジタルメディア、アナログメディア 予習：前回の内容の確認（30分） 復習：授業内容の復習とノートの整備・LMS (WebClass) で確認問題に解答（90分）電子ポートフォリオ作成
第5回	「情報デザインとビクトグラム」：情報メディア技術の発展と社会、コミュニケーション キーワード：ビクトグラム、コミュニケーション、情報デザイン、ユニバーサルデザイン 予習：前回の内容の確認（30分） 復習：授業内容の復習とノートの整備・LMS (WebClass) で確認問題に解答（90分）
第6回	「デジタルメディアが拓く未来」：情報メディアのデジタル化と発展 キーワード：インタラクティブ、リアルタイム、VR/AR/MR、メタメディア、メディアミックス戦略 予習：前回の内容の確認・高校教科「情報」の復習（30分） 復習：授業内容の復習とノートの整備・LMS (WebClass) で確認問題に解答（90分）
第7回	「アプリと開発」：情報メディア技術を支えるシステム開発とモバイル技術 キーワード：モバイルアプリ、情報システム、システム開発、インテグレーション 予習：前回の内容の確認（30分） 復習：授業内容の復習とノートの整備・LMS (WebClass) で確認問題に解答・課題作成（90分）
第8回	「コンピュータはメディア」：メディアの発展とコンピュータ キーワード：コンピュータ、電子計算機、コンピュータネットワーク、WWW、SNS 予習：前回の内容の確認・高校教科「情報」の復習（30分） 復習：授業内容の復習とノートの整備・LMS (WebClass) で確認問題に解答（90分）
第9回	「新しい情報メディア技術」：情報メディアの発展 キーワード：VR・AR、ドローン、Society5.0、超スマート社会、AI（人工知能） 予習：前回の内容の確認（30分） 復習：授業内容の復習とノートの整備・LMS (WebClass) で確認問題に解答・課題作成（90分）

第10回	<p>「画像と映像」(iPadアプリ:ガレージバンド、ラジオ、コマ撮りアニメなど) <映像メディアの活用>映像の表現(映像編集) キーワード:画像の標準化・量子化、サンプリングレート、周波数、ビデオレート、映像メディア 予習:前回の内容の確認・高校教科「情報」の復習(30分) 復習:授業内容の復習とノートの整備・LMS(WebClass)で確認問題に解答(90分)</p>			
第11回	<p>「色のしくみとデジタル化」:色のデジタル化、デジタル化の意味と課題 キーワード:データサイズ、色のしくみ、色のユニバーサルデザイン 予習:前回の内容の確認・高校教科「情報」の復習(30分) 復習:授業内容の復習とノートの整備・LMS(WebClass)で確認問題に解答(90分)</p>			
第12回	<p>「音と映像」:音声メディア、テレビと情報メディア キーワード:デジタルサウンド、音声、メディアの特性 予習:前回の内容の確認・高校教科「情報」の復習(30分) 復習:授業内容の復習とノートの整備・LMS(WebClass)で確認問題に解答(90分)</p>			
第13回	<p>「漫画とAIとメディア論」:漫画を通してメディアの性質を学ぶ キーワード:絵記号、メディアの歴史、デジタル化、AI、メディア論 予習:前回の内容の確認・高校教科「情報」の復習(30分) 復習:授業内容の復習とノートの整備・LMS(WebClass)で確認問題に解答(90分)</p>			
第14回	<p>「人間と情報メディア」:ヒューマンインタフェース、人間工学、AI(人工知能)と情報メディア キーワード:HI、HCI、UI、HCD、AI、情報メディアの発展 予習:前回の内容の確認・高校教科「情報」の復習(30分) 復習:授業内容の復習とノートの整備・LMS(WebClass)で確認問題に解答・課題作成と提出(90分)</p>			
第15回	<p>「メディアリテラシー」:メディアの性質とメディアリテラシー キーワード:メディアリテラシー、情報モラル 予習:前回の内容の確認・高校教科「情報」の復習(30分) 復習:授業内容の復習とノートの整備・LMS(WebClass)で確認問題に解答(90分)</p>			
講義進行方法、課題へのフィードバック方法	<p>授業は、授業中の講義、LMS上の資料、インターネット上の情報などを活用して行う。各自でノート(紙媒体でもデジタルデータでもよい)を作成して情報・知識をまとめること。LMS(WebClass)の確認問題は、正解が示されるので各自で復習すること。作品制作課題は、受講生間で情報を共有して、お互いに鑑賞・批評する。共有した作品や提出されたレポートの内容について授業中にコメント(またはフィードバック期間にLMSに掲載)する。</p>			
アクティブラーニング				
講義前・講義後の自主的学修活動への助言	<p>授業に参加するだけでなく、高校までの学習内容や、前週までの内容を復習しておく必要がある。 復習した内容の理解度は、LMS(WebClass)で確認問題に解答することで各自でチェックできる。 作品制作やレポート課題は、企画・情報収集・制作/レポート作成・自己評価を十分な時間を各自で確保して実施すること。</p>			
成績(達成度)評価方法・評価基準、割合	<p>LMS(WebClass)の確認問題の得点(50%)、提出課題・提出作品・提出レポート(50%)。 試験期間の期末試験は実施しないが、上記の評価で不合格となった場合は、情報メディア学科の学生は必修であり、受験資格があれば、各自で再試験手続きを行って追再試験期間に再試験を受けること。</p>			
教員の実務経験と授業科目との関連	<p>(教員の实務経験と授業科目との関連) 情報システム、人工知能システムの開発に関する実務経験と、情報システム部門としてコンピュータネットワークによる社内コミュニケーションの普及活動および実務利用の経験を有し、情報メディアのしくみと業務での利用の教育に活かしている。</p>			
テキスト				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
『なし』				
参考図書など				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考URL				
NO	表示名	URL	説明	
1.				
2.				
3.				
4.				
5.				

講義コード	1200024501
講義名	Webマーケティング
開講期	2024年度前期
単位数	2単位
授業形態	講義
担当教員	栗林 芳彦
ナンバリングコード	19M4D3301

科目概要	インターネットの普及した現代において、これをどうマーケティングに生かしていくかは、企業規模の大小を問わず重要な課題である。本講座ではWebマーケティングの考え方から様々なプロモーション手法、さらにはマスメディアとの連動まで基礎的な知識を習得することを目指す。 受講に当たっては、「マーケティング概論」を受講していること。
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> Webマーケティングの基礎的な知識を身につける。 Webマーケティングの具体的手法について知識を身につける Webマーケティングの初歩的なプランニングができるようになる
履修に必要な予備知識や技能（関連科目等）	「マーケティング概論」を履修していること。 併せて「Web解析」を履修することが望ましい。
学位授与方針との関連	2. 専修コースにおいて、情報理論、映像史、音響、色彩など、必要な知識・教養を身につけている。
授業計画、授業外学習の内容及び必要な時間	
第1回	Webマーケティングとはなにか <ul style="list-style-type: none"> マーケティングとはなにか マーケティングのタイプ 【事前学習】マーケティングとはなにか、その概要を復習しておくこと（2時間）
第2回	インターネットの普及とWebマーケティング <ul style="list-style-type: none"> インターネット利用者の推移 インターネットサービスの歴史 インターネットの社会的影響 【事後学習】インターネットの普及がマーケティングにどのような影響を与えたか、簡単にまとめておくこと。また、授業で言及されたサイト（Amazon、Wikipedia、FaceBookなどをチェックすること。（2時間）
第3回	Webマーケティング普及の理由 <ul style="list-style-type: none"> Webマーケティングの基本構造 AIDMAとAISAS ダイレクトマーケティング 【事後学習】Webマーケティングが一般化した理由を簡単にまとめておくこと。ダイレクトマーケティングとマスマーケティングの違いについて簡単にまとめておくこと。（2時間）
第4回	Webの構造と機能 <ul style="list-style-type: none"> インフォメーション・アーキテクチャ ユーザーインサイトとベルソナ 行動シナリオ 【事後学習】以下の企業からひとつを選び、その会社のウェブサイトにはどのような情報が掲載されているか調べる。さらに、ウェブサイトが各企業のマーケティングにおいてどのような機能をはたしているか、考察すること。（2時間） トヨタ、ソニー、資生堂、ユニクロ、日本マクドナルド
第5回	行動シナリオと効果指標 <ul style="list-style-type: none"> 集客の手法 Web解析とサイトの改善 【事前学習】「Web解析」で学んだおもな評価指標について復習しておくこと（1時間）。 【事後学習】検索エンジンなどから広告をクリックし、そのランディングページを観察して、どのような工夫がされているか考察すること。（2時間）
第6回	インターネット広告とその評価 <ul style="list-style-type: none"> SEM、SEOとMEO リスティング広告の効果指標 ディスプレイ広告とアドネットワーク 【事後学習】インターネット上の広告にはどのようなタイプがあるか、実際にWeb上で確認すること。スマートフォンとPCでは広告の形態にどのような違いがあるか、まとめること。（2時間）
第7回	ディスプレイ広告 <ul style="list-style-type: none"> 配信の仕組み リターゲティング ターゲティングの問題点 【事後学習】自分のスマートフォンに提示されるディスプレイ広告について、それがどのようなターゲティングの手法の結果として現れているのか考察しなさい。また、ターゲティングを精緻にすることによる問題点はどんなことか、簡単にまとめたなさい。（2時間）
第8回	動画広告 <ul style="list-style-type: none"> 動画広告の種類 静止画広告との比較 【事後学習】Yahoo!JapanやYouTubeを見て、実際にどのような動画広告が展開されているか、確認しなさい。また、動画広告のメリットについて簡単にまとめたなさい。（2時間）
第9回	スマートフォンにおけるWebマーケティング <ul style="list-style-type: none"> スマートフォンの普及率 マーケティングデバイスとしてのスマートフォンの特性 スマートフォンのO2Oに対する適性 【事後学習】スマートフォンの普及がマーケティングに与えたインパクトについて考察しなさい。ネット上でO2Oの具体例を探し、簡単にまとめたなさい。（2時間）

第10回	SNSとWebマーケティング ・SNSの歴史 ・主なSNSの特徴 ・SNSマーケティングにもなるリスク 【事前学習】Facebookに会員登録し、企業のFacebookページをいくつか確認すること。企業がそこでどんな情報を発信しているか確認すること。(2時間) 【事後学習】SNSを使ったマーケティングのメリット・デメリットを簡単にまとめておくこと。(1時間)			
第11回	ネットPR ・PRとはなにか ・SNSを活用したPR ・ネットPRにおける危機管理 【事前学習】PR(パブリシティ)とはなにか調べておくこと(1時間)。 【事後学習】PRという手法が本当にネット上で効果があるのか、自分自身の経験を踏まえて考察すること。(2時間)			
第12回	メールマーケティング ・メールマーケティングの特徴 ・メールマーケティングの有用性 ・メールマーケティングに関連する法規制 【事後学習】自分が開読しているメールマガジンを分析し、どのようなマーケティング意図を持って実施されているか考察しなさい。(2時間)			
第13回	コンテンツ・マーケティング ・コンテンツマーケティングとはなにか ・コンテンツマーケティングの有用性 ・コンテンツの種類と特徴 【事後学習】ネットを検索し、コンテンツマーケティングの実例をいくつか見つけて、その戦略について考察しなさい。(2時間)			
第14回	カスタマージャーニー ・ペルソナとカスタマージャーニー ・カスタマージャーニーマップの作成 ・クロスチャネルマーケティング 【事後学習】最近購入した物品について、自分自身がどのようなカスタマージャーニーを体験したのかを考察し、簡単にまとめなさい。(2時間)			
第15回	ケーススタディ「LINEの戦略」 ・マーケティングツールとしてのLINE ・LINEが提供する様々なサービス ・LINE BOTについて 【事後学習】LINEユーザーとして、LINEにどのようなマーケティング上のメリットがあるか考察しなさい。(2時間)			
講義進行方法、課題へのフィードバック方法	授業はパワーポイントを用いて実施する。毎回、授業の最初に前回の復習を行う。課題に対するフィードバックは口頭、またはwebclassを通じて行う。			
アクティブラーニング				
講義前・講義後の自主的学修活動への助言	日ごろからWeb上の広告やマーケティング活動に興味を持ち、観察すること。			
成績(達成度)評価方法・評価基準、割合	期末試験で評価する(100%)。			
教員の実務経験と授業科目との関連	(教員の実務経験と授業科目との関連) 広告会社に勤務した際にWebマーケティングに従事しており、その際に得た知見を本授業科目においてWeb上でのマーケティングのプランニング、評価という面に生かして実践的な教育を施している。			
テキスト				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
『使用しない』				
参考図書など				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
『適宜、指示します。』				
参考URL				
NO	表示名	URL	説明	
1.				
2.				
3.				
4.				
5.				

講義コード	1200024301
講義名	Web解析
開講期	2024年度後期
単位数	2単位
授業形態	講義
担当教員	栗林 芳彦
ナンバリングコード	19M4D5201

科目概要	マーケティングにおけるインターネットの重要性はますます高まっているが、より効果的なマーケティングを実践するうえで、自社サイトを中心としたウェブ上でのトランザクションを正確に把握し、分析することは必須の要件となっている。当科目ではウェブ解析の基礎を学ぶとともに、ウェブマーケティングの効果検証をプランニングに関する実践的知識を修得する。
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ウェブ解析に関する基礎的な知識を身につける。 インターネット上のマーケティングの手法と評価方法に関する知識を身につける。 ウェブ上でのプロモーション手法に関する知識を身につける。
履修に必要な予備知識や技能（関連科目等）	「マーケティング概論」および「Webマーケティング」を合わせて履修することが望ましい。
学位授与方針との関連	2. 専修コースにおいて、情報理論、映像史、音響、色彩など、必要な知識・教養を身につけている。
授業計画、授業外学習の内容及び必要な時間	
第1回	<p>オリエンテーション</p> <ul style="list-style-type: none"> インターネットの普及のマーケティングの変化 インターネットは消費者の購買行動をどう変えたか <p>【事後学習】インターネットの歴史とそれに伴いどんなサービスやビジネスが登場してきたか、まとめておこう。（2時間）</p>
第2回	<p>ウェブ解析とは何か</p> <ul style="list-style-type: none"> なぜウェブ解析が必要か ウェブ解析士について <p>【事後学習】Web解析士の資格についてネットで調べてみよう（2時間）</p>
第3回	<p>オンラインマーケティングの仕組み</p> <ul style="list-style-type: none"> オンラインショッピング 広告、プロモーション <p>【事後学習】「Webマーケティング」で学んだオンラインマーケティングの仕組みについて復習しておこう。（2時間）</p>
第4回	<p>ウェブ解析の用語定義（1）</p> <ul style="list-style-type: none"> 基礎編 <p>【事後学習】授業に出てきた用語の意味を確認しておこう（2時間）</p>
第5回	<p>ウェブ解析の用語定義（2）</p> <ul style="list-style-type: none"> 広告効果測定関連用語 <p>【事後学習】授業に出てきた用語の意味を確認しておこう（2時間）</p>
第6回	<p>ウェブ解析のデータ取得方法</p> <ul style="list-style-type: none"> データ取得の様々な方法を学ぶ <p>【事後学習】授業で学んだデータ取得方法についてまとめておこう。（2時間）</p>
第7回	<p>ウェブ解析の分析方法</p> <ul style="list-style-type: none"> 実際に使われる様々な分析方法について学ぶ <p>【事後学習】授業で学んだ分析方法についてまとめておこう。（2時間）</p>
第8回	<p>汎用ツールの特徴と利用方法（1）</p> <ul style="list-style-type: none"> Google analyticsの使い方を学ぶ <p>【事後学習】実際にGoogle Analyticsを使ってデモサイトのデータを見てみよう。（2時間）</p>
第9回	<p>汎用ツールの特徴と利用方法（2）</p> <ul style="list-style-type: none"> その他のツールの使い方を学ぶ <p>【事後学習】実際にツールを使ってデモサイトのデータを見てみよう。（2時間）</p>

第10回	ウェブ解析の表現方法 ・解析結果をどのようにプレゼンテーションするか。 【事後学習】 ネットで解析結果のプレゼンテーションを探し、評価しよう。(2時間)			
第11回	ウェブ解析の提案方法 ・解析の手法に関してどのようにその重要性を理解してもらうか 【事後学習】 ネットで解析提案のプレゼンテーションを探し、評価しよう。(2時間)			
第12回	モバイルの解析 ・スマートフォン向けサイトの解析方法と問題点 【事後学習】 モバイルの解析に関してどんな問題点があるか、整理しておこう。(2時間)			
第13回	ソーシャルメディアの現状と解析 ・ソーシャルメディアがオンラインマーケティングにどのように影響を与えているか 【事後学習】 よく使われているSNSにどんな特徴があるか、まとめておこう。(2時間)			
第14回	インターネット視聴率の問題点 ・様々な企業がインターネット視聴率のデータを提供しているが、その有用性は？ 【事後学習】 それぞれの企業がどのような手法でデータを取得しているか、まとめておこう。(2時間)			
第15回	ウェブマーケティングに関する関連法規と倫理的課題 ・個人情報保護、フィッシング詐欺などWebマーケティングをとりまく様々な問題について知る 【事後学習】 ウェブマーケターが知っておくべき関連法規についてまとめておこう。(2時間)			
講義進行方法、課題へのフィードバック方法	授業はパワーポイントを使って行う。 毎回、確認のための小テストを行い、次週に復習を行う。 課題へのフィードバックはWebClassを使って行う。			
アクティブラーニング				
講義前・講義後の自主的学修活動への助言	実際に自分でオンラインショップを利用してなにか買ってみることをお勧めします。			
成績(達成度)評価方法・評価基準、割合	定期試験で評価します(100%)。持ち込みはありません。			
教員の実務経験と授業科目との関連	広告会社に勤務した際に、Webの開発やプロモーションの作業に従事していた。その経験をもとに実践的な授業を展開したい。			
テキスト				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考図書など				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考URL				
NO	表示名	URL	説明	
1.				
2.				
3.				
4.				
5.				

講義コード	1200014301
講義名	ブランド論
開講期	2024年度後期
単位数	2単位
授業形態	講義
担当教員	栗林 芳彦
ナンバリングコード	19M4D5301

科目概要	ブランドに関する知識は、マーケティングおよびマーケティングコミュニケーションを実施するうえで必要不可欠である。本講義では、ブランドについての基礎的な知識の取得を目指す。ブランドとはなにか、ブランドの価値とはどんなものか、ブランドを構築するにはなにが必要か、またブランドを確立するためのコミュニケーションとはどんなものかを学ぶ。
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ブランドに関する基礎的な知識を理解できる。 ・自分の身の回りのブランドについて、その価値と戦略を読む能力を身につける。 ・ブランド確立のための手法について理解できる。
履修に必要な予備知識や技能（関連科目等）	受講者は「マーケティング概論」を履修していること。
学位授与方針との関連	<p>2. 専修コースにおいて、情報理論、映像史、音響、色彩など、必要な知識・教養を身につけている。</p> <p>5. 専門科目の学習の基盤となる教養と基礎教育の能力を身につける。</p>
授業計画、授業外学習の内容及び必要な時間	
第1回	<p>ブランドとはなにか</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ブランドの定義、ブランドはなぜ重要か 【事前学習】マーケティングについて復習しておくこと。（2時間） 【事後学習】ブランドの定義について簡単にまとめておくこと。（30分）
第2回	<p>ブランドはどうやって生まれるのか</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ブランドが確立するメカニズム、ブランドポイントによる説明 【事後学習】ブランドはどのようにして生まれるのか、簡単にまとめておくこと。また、自分の好きなブランドについて、どのようなブランド体験を経てきたかを考察すること。（2時間）
第3回	<p>ブランド要素</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ネーミング、ロゴ、ブランドのタイプ 【事後学習】自分が関心を持っているブランドを5つ選び、それぞれどんなブランド要素をもっているかを表にまとめること。（2時間）
第4回	<p>ブランドの特徴（1）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ブランド・エクイティ（1） ブランド認知、ブランド・ロイヤルティ、ブランド連想 【事前学習】以下のブランドについて、何を知っているか、どんなことを連想するか書き出してみる。1時間） アップル、ディズニー、トヨタ、マクドナルド 【事後学習】ブランド認知のレベルについてまとめておくこと。（1時間）
第5回	<p>ブランドの特徴（2）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ブランド・エクイティ（2） 知覚品質、心理的報酬、ブランドプロミス 【事前学習】アップルのスマホとサムスンのスマホのどちらが品質的に優れているか自分の意見を理由を含めてまとめなさい。（1時間） 【事後学習】自分自身が感じる「心理的報酬」についてまとめなさい。（1時間）
第6回	<p>企業経営とブランド価値</p> <ul style="list-style-type: none"> ・経営戦略とブランド House of BrandとBranded House 【事前学習】P&Gのウェブサイトを見直し、彼らがどんなブランドを扱っているか確認しなさい。（30分） 【事後学習】パナソニックとネスレのブランド戦略の違いについてまとめなさい。（2時間）
第7回	<p>ブランドを評価する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ブランドの価値を測定する 企業のブランドポートフォリオ戦略 【事前学習】InterBrandのウェブサイト (https://www.interbrand.com) を見直し、Global Top 100および日本のTop100にどのようなブランドがリストアップされているか、確認しておくこと。（2時間）
第8回	<p>ブランドを作る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ブランド体験をデザインする スターバックスのケース 【事前学習】スターバックスに行ったことがない人は行っておくこと。その際、お店、商品、サービス（接客）、お客などを観察し、どこに特徴があるかをまとめておくこと。（2時間）
第9回	<p>ブランドとの接点を管理する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ブランド構築のためのIMC ダイレクトマーケティングの可能性 【事後学習】自分の好きなブランドの一つを選び、そのブランドと自分がどのような接点を持っているかを考察しなさい。（2時間）

第10回	<p>ブランド・ポートフォリオ ・ラインエクステンションとブランドエクステンション ビジネスドメインとブランドプロミス 【事後学習】ブランド・エクステンションの事例を一つ選び、その成功または失敗の理由を考察しなさい。(2時間)</p>			
第11回	<p>ブランド戦略 ・ブランド戦略の構成要素 ブランド・ステートメント 【事後学習】自分の好きなブランドを一つ選び、そのブランドステートメントを書きなさい。(2時間)</p>			
第12回	<p>ブランドマネジメント ・ブランドにはメンテナンスが必要 マーケットの状況変化によるポジショニングの変更 【事後学習】ユニクロと海外のファストファッション (H&M、Zaraなど) との戦略の違いについて考察し、ユニクロが今のままの戦略でよいのかどうか考えをまとめなさい。(2時間)</p>			
第13回	<p>ブランディング・コミュニケーション ・ブランドを作るためのコミュニケーションとは 広告の持つ役割 【事後学習】自分の知っているブランドのCMをYouTubeで探し、そのCMがブランドのイメージをどのように表現しているか考察しなさい。(2時間)</p>			
第14回	<p>インターナル(社内)ブランディング ・インターナルブランディングはなぜ必要か インターナルブランディングの手法 【事後学習】インナーブランディングの重要性についてまとめておくこと。(2時間)</p>			
第15回	<p>全体の確認と復習 【事後学習】企業にとってなぜブランドが重要なのか、また、マーケティングにおいてブランドが重要なテーマなのか、今まで学んだことをベースに自分の考えをまとめなさい。(2時間)</p>			
講義進行方法、課題へのフィードバック方法	<p>授業は基本的に講義を中心に進めていく。課題の提出およびフィードバックはWebClassを使用する。また口頭でもフィードバックを行う。</p>			
アクティブラーニング				
講義前・講義後の自主的学修活動への助言	<p>ブランドについて関心を持ち、自分や周りの人の購買行動を分析的に観察する習慣をつけること。</p>			
成績(達成度)評価方法・評価基準、割合	<p>レポートを提出してもらいます(100%)。</p>			
教員の実務経験と授業科目との関連	<p>(教員の实務経験と授業科目との関連) 広告会社に勤務していた際に、ブランド開発作業の実務経験を有している。その実務経験を本授業科目のブランドの開発、育成、分析、評価の内容に生かした実践的な教育を施している。</p>			
テキスト				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
『使用しない』				
参考図書など				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
『適宜、指示します。』				
参考URL				
NO	表示名	URL	説明	
1.				
2.				
3.				
4.				
5.				

講義コード	1200022401
講義名	CM制作
開講期	2024年度後期
単位数	2単位
授業形態	講義
担当教員	栗林 芳彦
ナンバリングコード	19M4B6201、19M4D6201

科目概要	テレビコマーシャルは長きにわたって日本の広告産業の根幹をなしてきた。近年のインターネット広告の隆盛により、存在感に陰りが見えるのは事実であるが、製品認知やブランドイメージの確立などにおいては依然として強い影響力を持っている。本講座では、テレビコマーシャルについて学ぶと同時に実際にCMを作ってみることで、広告主の意図を理解し、「賢い消費者」となる術を身に付けることを主眼とする。
達成目標	できるだけ多種多様なCMを鑑賞/分析し、制作意図を読み解くための批評眼を身につける。 それを通じて感知、或いは習得したCM制作のヒント/ノウハウを基にして、特定のテーマでCM制作を完成させる。
履修に必要な予備知識や技能（関連科目等）	広告に関しての一定レベルの知識は必要（「マーケティング概論」を受講済みであることが望ましい）。
学位授与方針との関連	2. 専修コースにおいて、情報理論、映像史、音響、色彩など、必要な知識・教養を身につけている。
授業計画、授業外学習の内容及び必要な時間	
第1回	「CMと世相①」 JAC編集の「昭和のCM100」を題材として現代日本におけるCMの足跡をたどり、CMが日本社会に及ぼした影響について多角的に考える。 1950年代 昭和の歴史を振り返る（2時間）
第2回	「CMと世相②」 1960年代 昭和の歴史を振り返る（2時間）
第3回	「CMと世相③」 1970年代 昭和の歴史を振り返る（2時間）
第4回	「CMと世相③」 1980年代 昭和の歴史を振り返る（2時間）
第5回	「CMとマーケティング」 CMがマーケティングの手段としてどのように使われているか。 マーケティングの4Pについて（2時間）
第6回	CM制作演習 CMとは何か/発想力の付け方 課題：アイデアについて考える（2時間）
第7回	CM制作演習 キャッチコピーの考え方 課題：商品コピー作成（2時間）
第8回	CM制作演習 CMコピーの作り方 課題：CMコピー制作（2時間）
第9回	CM制作演習 サムネイルの書き方 課題：サムネイル制作（2時間）

第10回	CM制作演習 字コンテの書き方 課題：字コンテ制作（2時間）			
第11回	CM制作演習 絵コンテの書き方 課題：絵コンテ制作（2時間）			
第12回	CM制作演習 絵コンテ最終案企画/制作（2時間）			
第13回	CM制作演習 絵コンテによるCM企画プレゼンテーション① プレゼン準備（2時間）			
第14回	CM制作演習 絵コンテによるCM企画プレゼンテーション② プレゼン準備（2時間）			
第15回	CM制作演習 講評 フィードバックによる企画修正（2時間）			
講義進行方法、課題へのフィードバック方法	CMについての講義を5回受講後に、実際にCMづくりを体験する。 提出後の課題に関しては、全体をまとめたのちフィードバックとして次回授業にて講評をおこなう。			
アクティブラーニング	プレゼンテーション/実習、フィールドワーク			
講義前・講義後の自主的学修活動への助言	CMをたくさん見ることは言うまでもない。YouTubeで検索すればおよそのCMは発見できる。できればテレビでの一連の流れの中でCMを見ることをお勧めする。その方が広告としての本質に迫れるからである。			
成績（達成度）評価方法・評価基準、割合	課題とプレゼンテーションで評価する。プレゼンテーションではプレゼンターはもとより、リスナーの採点における態度も評価対象となる。課題50%、プレゼンテーション50%			
教員の実務経験と授業科目との関連	（教員の实務経験と授業科目との関連） 25年間広告代理店で広告の業務に従事した。			
テキスト				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
『特になし』				
参考図書など				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
『特になし』				
参考URL				
NO	表示名	URL	説明	
1.				
2.				
3.				
4.				
5.				

講義コード	1200022601
講義名	映像メディア表現
開講期	2024年度前期
単位数	2単位
授業形態	講義
担当教員	青山 太郎
ナンバリングコード	19M4B7201

科目概要	1970年代から2010年代までの長編映画数本を分析・批評し、そうした表現がどのようなプロセスによって支えられており、その制作によってどのような視角が切り開かれ、新しい知識が紡がれてきたかを具体的に検討し理解できるようにする。
達成目標	同時代の社会に暮らす人物、使用されているモノ、それらが展開される場などに対して、それぞれの作家がどのようにアプローチし、それによっていかなる世界理解を獲得したかを、作品分析およびプロセスの検討を行うことで理解できるようにする。さらに、そうした理解をさまざまな映像メディア表現へと展開していくための知識と技術を獲得する。
履修に必要な予備知識や技能（関連科目等）	「映像史とアーカイブ」を履修していることが望ましい。
学位授与方針との関連	2. 専修コースにおいて、情報理論、映像史、音響、色彩など、必要な知識・教養を身につけている。 3. 専修コースにおいて、プログラミング、映像制作、PA、グラフィックデザインなど、必要な技術・技能を身につけている。 4. 専修コースにおいて、アプリ企画、映像作品制作、コンサート、展示会など、実務的な企画・提案・実践を協働して行うことができる。
授業計画、授業外学習の内容及び必要な時間	
第1回	イントロダクション 古典的映画と現代的映画の違いを検討しながら、なぜ今日の社会・文化において後者が重要視されているかを理解する。 【キーワード】ドキュメンタリー、フィクション、アーティスティック・リサーチ、中動態 【授業外学習】ワークシートにしたがって事後学習を60分
第2回	作品分析演習1-(1) 指定された作品を鑑賞し、ワークシートに沿ってその作品の特徴を自ら分析する。 【キーワード】映画批評、映画分析 【授業外学習】ワークシートにしたがって事後学習を60分、事前学習を60分
第3回	作品分析演習1-(2) 指定された作品を鑑賞し、ワークシートに沿ってその作品の特徴を自ら分析する。 【キーワード】映画批評、映画分析 【授業外学習】ワークシートにしたがって事後学習を60分、事前学習を60分
第4回	作品分析演習1-(3) 教員による当該作品の解説を受けながら、各自のワークシートを点検し、その作品の特徴についてあらためてディスカッション。 【キーワード】映画批評、映画分析、グループディスカッション 【授業外学習】ワークシートにしたがって事後学習を60分、事前学習を60分
第5回	作品分析演習2-(1) 指定された作品を鑑賞し、ワークシートに沿ってその作品の特徴を自ら分析する。 【キーワード】映画批評、映画分析 【授業外学習】ワークシートにしたがって事後学習を60分、事前学習を60分
第6回	作品分析演習2-(2) 指定された作品を鑑賞し、ワークシートに沿ってその作品の特徴を自ら分析する。 【キーワード】映画批評、映画分析 【授業外学習】ワークシートにしたがって事後学習を60分、事前学習を60分
第7回	作品分析演習2-(3) 教員による当該作品の解説を受けながら、各自のワークシートを点検し、その作品の特徴についてあらためてディスカッション。 【キーワード】映画批評、映画分析、グループディスカッション 【授業外学習】ワークシートにしたがって事後学習を60分、事前学習を60分
第8回	作品分析演習3-(1) 指定された作品を鑑賞し、ワークシートに沿ってその作品の特徴を自ら分析する。 【キーワード】映画批評、映画分析 【授業外学習】ワークシートにしたがって事後学習を60分、事前学習を60分
第9回	作品分析演習3-(2) 指定された作品を鑑賞し、ワークシートに沿ってその作品の特徴を自ら分析する。 【キーワード】映画批評、映画分析 【授業外学習】ワークシートにしたがって事後学習を60分、事前学習を60分

第10回	作品分析演習2-(3) 教員による当該作品の解説を受けながら、各自のワークシートを点検し、その作品の特徴についてあらためてディスカッション。 【キーワード】映画批評、映画分析、グループディスカッション 【授業外学習】ワークシートにしたがって事後学習を60分、事前学習を60分			
第11回	作品分析演習4-(1) 指定された作品を鑑賞し、ワークシートに沿ってその作品の特徴を自ら分析する。 【キーワード】映画批評、映画分析 【授業外学習】ワークシートにしたがって事後学習を60分、事前学習を60分			
第12回	作品分析演習4-(2) 指定された作品を鑑賞し、ワークシートに沿ってその作品の特徴を自ら分析する。 【キーワード】映画批評、映画分析 【授業外学習】ワークシートにしたがって事後学習を60分、事前学習を60分			
第13回	作品分析演習4-(3) 指定された作品を鑑賞し、ワークシートに沿ってその作品の特徴を自ら分析する。 【キーワード】映画批評、映画分析 【授業外学習】ワークシートにしたがって事後学習を60分、事前学習を60分			
第14回	作品分析演習4-(4) 教員による当該作品の解説を受けながら、各自のワークシートを点検し、その作品の特徴についてあらためてディスカッション。 【キーワード】映画批評、映画分析、グループディスカッション 【授業外学習】ワークシートにしたがって事後学習を60分、事前学習を60分			
第15回	作品分析演習4-(4) 教員による当該作品の解説を受けながら、各自のワークシートを点検し、その作品の特徴についてあらためてディスカッション。 【キーワード】映画批評、映画分析、グループディスカッション 【授業外学習】ワークシートにしたがって事後学習を60分、事前学習を60分			
講義進行方法、課題へのフィードバック方法	講義中に受講生の見解や意見を適宜聞きながら授業を進めていく。また適宜分析レポート課題を実施する。これらについてのフィードバックは授業時間内に行う。最終レポート課題の採点結果のフィードバックは受講者の希望に応じて行う。			
アクティブラーニング	ディスカッション、ディベート/グループワーク			
講義前・講義後の自主的学修活動への助言	各授業の終わりに、内容を振り返りつつ、課題に取り組むというサイクルを作れるとよい。また、自分の興味のある範囲で構わないので、なるべく意識的にテレビや映画など映像作品を鑑賞し、また文学作品などを読む機会を増やすと良い。			
成績（達成度）評価方法・評価基準、割合	授業への取り組み姿勢（40%）、最終レポート課題（60%）で評価する。			
教員の実務経験と授業科目との関連				
テキスト				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考図書など				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
『ドキュメンタリー映画史』	エリック・バーナウ	筑摩書房	978-4480873781	
『ドキュメンタリー・ストーリーテリング』	シーラ・カーラン・バーナード	フィルムアート社	978-4845914401	
『歩く、見る、待つ：ペドロ・コスタ映画論講義』	ペドロ・コスタ	ソリレス書店	978-4908435003	
『芸術の中動態』	森田亜紀	萌書房	978-4860650735	
『中動態の映像学』	青山太郎	堀之内出版	978-4909237637	
参考URL				
NO	表示名	URL	説明	
1.				
2.				
3.				
4.				
5.				

講義コード	1200022001
講義名	ドキュメンタリー・シナリオ
開講期	2024年度前期
単位数	2単位
授業形態	講義
担当教員	青山 太郎
ナンバリングコード	19M4D4201

科目概要	ドキュメンタリー映像を制作するにあたってのシナリオ作成について知識と技術を講義と実習を通じて学ぶ。一般に「ノンフィクション」で「事実を伝える」とされるドキュメンタリーも構造や工夫がある創作物であることを、作品分析、アイデアプレゼンテーションを通して理解する。その上で、情報収集から情報発信に至る一連のワークフローを情報デザインという観点から学ぶ。
達成目標	ドキュメンタリー映像を制作するにあたっての基礎知識と基礎技術を実践を通じて習得する。特に、アイデア立案やリサーチのためのスケジューリングを重点的に学び、映像表現をもって社会に働きかけていくために必要なスキルを身につける。またドキュメンタリーに必要な人間観察能力をあわせて養う。
履修に必要な予備知識や技能（関連科目等）	特になし
学位授与方針との関連	2. 専修コースにおいて、情報理論、映像史、音響、色彩など、必要な知識・教養を身につけている。
授業計画、授業外学習の内容及び必要な時間	
第1回	イントロダクション 講義と簡単なワークショップを通じてドキュメンタリー映像もまた「創作物」であることを理解する。 【キーワード】ドキュメンタリー、フィクション 【授業外学習】事後学習としてワークシートにしたがって復習課題を60分
第2回	講義 講義を通じて、ドキュメンタリー映画にみられる様々な手法やジャンル、基本カテゴリーを理解する。 【キーワード】ドキュメンタリー、分析的思考、批評、カテゴリー、ジャンル 【授業外学習】事前学習として配布資料の確認を60分、事後学習としてワークシートによる課題を60分
第3回	インタビュー・ワークショップ (1) グループワークを通じて、インタビュー、文字起こし、編集をおこない、オーディオ・ドキュメンタリーを制作する。 【キーワード】ドキュメンタリー、音声編集、インタビュー、文字起こし 【授業外学習】事前学習として配布資料の確認を60分、事後学習としてワークシートによる課題を60分
第4回	インタビュー・ワークショップ (2) グループワークを通じて、インタビュー、文字起こし、編集をおこない、オーディオ・ドキュメンタリーを制作する。 【キーワード】ドキュメンタリー、音声編集、インタビュー、文字起こし 【授業外学習】事前学習として配布資料の確認を60分、事後学習としてワークシートによる課題を60分
第5回	インタビュー・ワークショップ (3) グループワークを通じて、インタビュー、文字起こし、編集をおこない、オーディオ・ドキュメンタリーを制作する。 【キーワード】ドキュメンタリー、音声編集、インタビュー、文字起こし 【授業外学習】事前学習として配布資料の確認を60分、事後学習としてワークシートによる課題を60分
第6回	インタビュー・ワークショップ (4) グループワークを通じて、インタビュー、文字起こし、編集をおこない、オーディオ・ドキュメンタリーを制作する。 【キーワード】ドキュメンタリー、音声編集、インタビュー、文字起こし 【授業外学習】事前学習として配布資料の確認を60分、事後学習としてワークシートによる課題を60分
第7回	インタビュー・ワークショップ・講評 (1) グループワークを通じて制作したオーディオ・ドキュメンタリーの講評をおこなう。 【キーワード】ドキュメンタリー、音声編集、インタビュー、文字起こし、講評 【授業外学習】事前学習として配布資料の確認を60分、事後学習としてワークシートによる課題を60分
第8回	インタビュー・ワークショップ・講評 (2) グループワークを通じて制作したオーディオ・ドキュメンタリーの講評をおこなう。 【キーワード】ドキュメンタリー、音声編集、インタビュー、文字起こし、講評 【授業外学習】事前学習として配布資料の確認を60分、事後学習としてワークシートによる課題を60分
第9回	作品分析 (1)-1 「解説型」に分類されるドキュメンタリー作品を鑑賞し、その構造を分析的に理解することを旨とする。 【キーワード】ドキュメンタリー、分析的思考、批評 【授業外学習】事前学習として配布資料の確認を60分、事後学習としてワークシートによる課題を60分

第10回	作品分析(1)-2 「解説型」に分類されるドキュメンタリー作品を鑑賞し、その構造を分析的に理解することを目指す。 【キーワード】ドキュメンタリー、分析的思考、批評 【授業外学習】事前学習として配布資料の確認を60分、事後学習としてワークシートによる課題を60分			
第11回	作品分析(2)-1 「観察型」に分類されるドキュメンタリー作品を鑑賞し、その構造を分析的に理解することを目指す。 【キーワード】ドキュメンタリー、分析的思考、批評 【授業外学習】事前学習として配布資料の確認を60分、事後学習としてワークシートによる課題を60分			
第12回	作品分析(2)-2 「観察型」に分類されるドキュメンタリー作品を鑑賞し、その構造を分析的に理解することを目指す。 【キーワード】ドキュメンタリー、分析的思考、批評 【授業外学習】事前学習として配布資料の確認を60分、事後学習としてワークシートによる課題を60分			
第13回	作品分析(3)-1 「再帰型」に分類されるテレビドキュメンタリー作品を鑑賞し、その構造を分析的に理解することを目指す。 【キーワード】ドキュメンタリー、分析的思考、批評 【授業外学習】事前学習として配布資料の確認を60分、事後学習としてワークシートによる課題を60分			
第14回	作品分析(3)-2 「再帰型」に分類されるテレビドキュメンタリー作品を鑑賞し、その構造を分析的に理解することを目指す。 【キーワード】ドキュメンタリー、分析的思考、批評 【授業外学習】事前学習として配布資料の確認を60分、事後学習としてワークシートによる課題を60分			
第15回	作品分析(4) 「参与型」に分類されるテレビドキュメンタリー作品を鑑賞し、その構造を分析的に理解することを目指す。 【キーワード】ドキュメンタリー、分析的思考、批評 【授業外学習】事前学習として配布資料の確認を60分、事後学習としてワークシートによる課題を60分			
講義進行方法、課題へのフィードバック方法	本授業では、ドキュメンタリー作品を鑑賞する、自ら分析を試みる、解説を聞くというサイクルで進んでいく。分析ノートの作成などの課題は授業時間外の作業が必要になるため、あらかじめその点に留意すること。課題に対しては基本的に授業時間内で個別に、また講習会の中で全体的にフィードバックを行う。さらに希望者には授業時間外に個別に指導する。			
アクティブラーニング	ディスカッション、ディベート/プレゼンテーション/グループワーク			
講義前・講義後の自主的学修活動への助言	各授業の終わりに、翌週までの課題を提示する。授業内容を振り返りつつ、課題に取り組むというサイクルを作れるとよい。また、自分の興味のある範囲で構わないので、なるべく意識的にテレビや映画など映像作品を鑑賞し、またノンフィクション文学などを読む機会を増やすと良い。			
成績（達成度）評価方法・評価基準、割合	インタビューワークショップの取り組み（20%）、オーディオドキュメンタリー作品の完成度（20%）、分析ノート課題（10%）×3回と、最終レポート（30%）で評価する。			
教員の実務経験と授業科目との関連	（教員の实務経験と授業科目との関連） ドキュメンタリー映像の制作に関する実務経験を有しており、その実務経験を本授業科目の内容に活かした実践的な教育を実施している。			
テキスト				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
『なし』				
参考図書など				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
『Introduction to Documentary』	Bill Nichols	Indiana University Press	978-0253026347	2017
『ドキュメンタリー映画史』	エリック・バーナウ	筑摩書房	978-4480873781	2015
『ドキュメンタリー・ストーリーテリング』	シーラ・カーラン・バーナード	フィルムアート社	978-4845914401	2014
『ソーシャル・ドキュメンタリー』	萩野亮ほか	フィルムアート社	978-4845912940	2012
『なぜ僕はドキュメンタリーを撮るのか』	想田和弘	講談社現代新書	978-4062881135	2011
参考URL				
NO	表示名	URL	説明	
1.				

講義コード	120014101
講義名	C A D
開講期	2024年度前期
単位数	2単位
授業形態	講義
担当教員	大矢 信吾
ナンバリングコード	22M2F4201

科目概要	CAD (Computer Aided Design) は情報技術の発達に伴い非常に普及しています。この科目は、実習を中心とした内容で、CADにおける様々な図面作成の基礎を学びます。具体的には、CADにおける図法、基本的な描画操作、現実的な図形の描画と寸法の入れ方、3次元立体図形の描き方などを修得します。また、情報システムコースの科目に該当しますが、得られた知識や技術が他の分野でも役立てられるような素養が身につきます。
達成目標	製図の基本とソフトウェアの操作法を修得しながら、図面作成の基本技術を身につけます。 情報メディア分野（例えば、3次元CGや3Dプリンターによる立体物の作成）へ発展するための素養を身につけます。 図面から立体図形を、立体物から図面を描くことができるようになります。
履修に必要な予備知識や技能（関連科目等）	空間や立体物を把握するのに基本的な知識が必要です（例えば、ある立体物を平面に展開したとき、その表面はどのような図形になるのかなど）。また、PCのGUIやファイルの管理の知識の他に、三角関数をはじめ幾何学の知識が必要です。
学位授与方針との関連	1. 情報メディアに関して、基礎的な情報処理技術、ソフトウェアについての知識、また、資格試験の学修内容等、基礎的な知識・技能を身につけている 5. 専門科目の学習の基盤となる教養と基礎教育の能力を身につける。
授業計画、授業外学習の内容及び必要な時間	
第1回	ガイダンス： 授業の目標や進め方、課題の取り組み方、遠隔授業の位置付け、成績評価に関する注意事項等について CADソフトの紹介、アカウント登録 60分の復習と課題制作時間が必要
第2回	スケッチの基礎 基本図形の描画 60分の復習と課題制作時間が必要
第3回	スケッチ 平面図形 60分の復習と課題制作時間が必要
第4回	スケッチの応用 3次元図形、三角法と立体物 60分の復習と課題制作時間が必要
第5回	スケッチ 反復コピーを用いた図面作成（基本図形の描画） 60分の復習と課題制作時間が必要
第6回	スケッチの応用 フォームによる3次元立体物の作画と編集 第三角法の修得 60分の復習と課題制作時間が必要
第7回	前半総合課題： 初回から前回までの範囲で小テストの実施 テスト内容の解説 次回からの準備 60分の復習と課題制作時間が必要
第8回	アセンブリ 様々な基本図形（パーツ）の作成 60分の復習と課題制作時間が必要
第9回	アセンブリの応用 パーツを組み合わせた複雑な図形の描画 60分の復習と課題制作時間が必要

第10回	データインポート 描画した図面のデータ変換と利用 60分の復習と課題制作時間が必要			
第11回	CADアプリのシミュレーション機能の基礎 60分の復習と課題制作時間が必要			
第12回	第2回総合課題： 小テストの実施 テスト内容の問題解説 次回からの準備 60分の復習と課題制作時間が必要			
第13回	CADアプリのシミュレーション（応力） 製図した結果を用いた応力のシミュレーションを実施 60分の復習と課題制作時間が必要			
第14回	CADアプリのシミュレーション（振動） 製図した結果を用いた振動のシミュレーションを実施 60分の復習と課題制作時間が必要			
第15回	前半総合課題： 第3回目的小テストの実施 テスト内容の解説 今後の展望を概観 60分の復習と課題制作時間が必要			
講義進行方法、課題へのフィードバック方法	タブレット端末を使い演習と課題作成を行います（PCでも演習課題作成は可能）。 授業は15回実施が、前半と後半に分かれています。また、Zoom会議やオンデマンド形式をオープン実習も活用し学修します。 前半部で、基本的な操作を簡単な図形描画の基礎を学びます。後半は、実装することを主眼に置いた製図の内容で、オンデマンド形式も活用します。 教科書は特に指定せず資料をpdfで配信します。授業の順番や内容を状況により変更することがあります。 なお、授業では毎回iPadを使用します（スマホは不可）。 成績フィードバック期間において成績・課題に関する質問やフィードバックを受け付ける			
アクティブラーニング	PBL【Project Based Learning】自ら問題を発見し解決する能力を養うことを目的とした課題解決型学習／反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）／実習、フィールドワーク			
講義前・講義後の自主的学修活動への助言	アプリケーションの機能が多彩であり、CADは作画技術などの積み重ねです。したがって、特に復習が大変重要です。復習を怠れば授業が進むにつれ課題が難しく感じられるようになるでしょう。この授業では毎回教授する内容を進めなければなりません。前回の技術的操作や内容は次の回では基本的に詳しく解説できないので、資料などを併用しながらオープン実習を活用して十分に習熟したのち次の回に臨んで下さい。また、講義は、やむを得ない事情を除き遅刻や欠席はしてはいけません（解説→実習の順に進める）。万が一欠席した場合、授業の課題作成やフォローは、次回授業前日まで完了しておいて下さい。			
成績（達成度）評価方法・評価基準、割合	毎回の課題提出、2回の小テスト課題の結果を総合的に集計し評価します。比率は、2：4：4になります。その他、課題提出数と欠席数により受験資格喪失措置を判断します。			
教員の実務経験と授業科目との関連	（教員の実務経験と授業科目との関連） VLSIの製品開発におけるデジタル回路のマスク設計等においてCAD実務経験を有する。培った技術や知見、データ管理法などを基に幅広い領域でのCAD教育に活かしている。			
テキスト				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
『なし』				
参考図書など				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
『授業中に紹介』				
参考URL				
NO	表示名	URL	説明	
1.	授業の中でその都度紹介			
2.				
3.				
4.				
5.				

講義コード	1200022801
講義名	MIDI制作演習 I
開講期	2024年度後期
単位数	2単位
授業形態	講義
担当教員	柴山 一幸
ナンバリングコード	22M2G2301

科目概要	音楽制作ソフトGarageBandを使って、楽譜をもとにMIDIの打ち込みを行います。楽器ができなくても、マウスで入力するだけでフルオーケストラの曲の制作も可能です。本科目では、コンピュータミュージックの入門・初歩として、主にピアノロールウィンドウでの作業を行います。
達成目標	1. 音楽制作ソフトの扱いに慣れる。 2. MIDIの基礎知識を習得する（MIDI検定推奨） 3. 楽譜をもとに音楽データを制作できるようになる。
履修に必要な予備知識や技能（関連科目等）	1. 譜面を読むため基礎知識の学習（音符、休符、五線譜等の知識） 2. 各楽器の特性を理解しておく（Wikipediaなどでピアノ、アコースティックギター、エレキギター、ベース、ドラム、バイオリン、ビオラ、チェロを検索） 3. ジャンル問わず幅広く音楽を聴いておく
学位授与方針との関連	2. 専修コースにおいて、情報理論、映像史、音響、色彩など、必要な知識・教養を身につけている。 3. 専修コースにおいて、プログラミング、映像制作、PA、グラフィックデザインなど、必要な技術・技能を身につけている。
授業計画、授業外学習の内容及び必要な時間	
第1回	コンピュータミュージック入門：ガイダンス、著作権の注意、授業に準備するもの。 授業の復習に120分程度
第2回	打ち込みの基礎知識：音符の長さ、ソフトの紹介、ファイルの設定、基本的な音符の打ち込み方、裏拍、タイで繋がった音符、シャープやフラットの音符。 授業の復習に120分程度
第3回	練習曲(1)：「piece of my love」ドラムの打ち込みver.1(基本パターンの打ち込み) 授業の復習と練習に120分程度
第4回	練習曲(2)：「piece of my love」ドラムの打ち込みver.2(ゴーストノートの打ち込み) 授業の復習と練習に120分程度
第5回	練習曲(3)：「piece of my love」ボーカル、コーラスパートの打ち込み 授業の復習と練習に120分程度
第6回	練習曲(4)：「piece of my love」ベースの打ち込み 授業の復習と練習に120分程度
第7回	練習曲(5)：「piece of my love」ピアノの打ち込み 授業の復習と練習に120分程度
第8回	練習曲(3)：「piece of my love」アコースティックギターの打ち込み 授業の復習と練習に120分程度
第9回	練習曲(6)：「piece of my love」エレキギターの打ち込み(ピッチベンドの活用含む) 授業の復習と練習に120分程度

第10回	練習曲(7)：「piece of my love」ストリングス(バイオリン、チェロ)の打ち込み 授業の復習と練習に120分程度			
第11回	期末課題の制作(1)：「piece of my love」の別の部分の譜面を渡します。それを参考に各自打ち込みを行う 授業の復習と課題制作に120分程度			
第12回	期末課題の制作(2)：前回に引き続き、楽譜の打ち込みを行います。 授業の復習と課題制作に120分程度			
第13回	期末課題の制作(3)：前回に引き続き、楽譜の打ち込みを行います。 授業の復習と課題制作に120分程度			
第14回	期末課題の制作(4)：前回に引き続き、楽譜の打ち込みを行います。 授業の復習と課題制作に120分程度			
第15回	期末課題の制作(5)：期末課題提出。 授業の復習に120分程度			
講義進行方法、課題へのフィードバック方法	<p>※ 実習は連続しているため、毎回の出席が必要です。欠席した分は自己責任で補うことになります。</p> <p>※ 授業へは、必ず各自でヘッドフォンまたはイヤホン（ステレオ）を持参すること。</p> <p>※ 受講希望者が定員を超えた場合は抽選等で選抜を行います。掲示・メールに注意してください。</p> <p>成績フィードバック期間において成績・課題に関する質問やフィードバックを受け付ける</p>			
アクティブラーニング	実習、フィールドワーク			
講義前・講義後の自主的学修活動への助言	<p>1. ただ音楽を聴いて楽しむだけでなく、どの楽器がどのように演奏されているか興味を持つ</p> <p>2. 各楽器の特性を理解しておく(Wikipediaなどでピアノ、アコースティックギター、エレキギター、ベース、ドラム、バイオリン、ビオラ、チェロを検索)</p> <p>3. 小学校、中学校で学んだ音楽の教科書をもう一度読み直そう</p>			
成績（達成度）評価方法・評価基準、割合	授業への参加状況20%、平常課題40%、期末課題40%で評価します。 授業への欠席が6回以上、期末課題の提出がない場合は欠席の扱いとなります。			
教員の實務経験と授業科目との関連	<p>(教員の實務経験と授業科目との関連)</p> <p>アーティスト、声優などへの楽曲提供(作曲、編曲)をしており、その實務経験を本授業科目のMIDI制作演習の内容に活かした実践的な教育を実施している。</p>			
テキスト				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
『特になし。譜面はこちらで用意します。』				
参考図書など				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考URL				
NO	表示名	URL	説明	
1.				
2.				
3.				
4.				
5.				

講義コード	120023101
講義名	MIDI制作演習Ⅱ
開講期	2024年度前期
単位数	2単位
授業形態	講義
担当教員	柴山 一幸
ナンバリングコード	22M2C3302

科目概要	音楽制作ソフトGrageBandを使って、MIDIの打ち込みによるオリジナル楽曲の制作を行います。はじめにコード（和音）、次にリズム、メロディと学んでいきます。真剣に習得すること、地道な作業に忍耐強く取り組むことが要求されます。MIDI制作演習Ⅰの内容を踏まえ講義を進めます。
達成目標	1. コードの仕組み、曲作りの骨格を理解できる。 2. 簡単なオリジナル曲を制作できるようになる。 3. 標準的なポップスのアレンジを理解できる。
履修に必要な予備知識や技能（関連科目等）	MIDI制作演習Ⅰで習得した音楽制作ソフトGrageBandの基本操作
学位授与方針との関連	2. 専修コースにおいて、情報理論、映像史、音響、色彩など、必要な知識・教養を身につけている。 3. 専修コースにおいて、プログラミング、映像制作、PA、グラフィックデザインなど、必要な技術・技能を身につけている。 4. 専修コースにおいて、アプリ企画、映像作品制作、コンサート、展示会など、実務的な企画・提案・実践を協働して行うことができる。
授業計画、授業外学習の内容及び必要な時間	
第1回	ガイダンス：授業の概要、ソフトの紹介、評価方法。 事後学習として復習120分程度
第2回	音名とコード：英語音名とキーボード配列（ピアノ鍵盤）の関係。コードとは何か、基本的なコード。コードの仕組みとピアノロールビューでの段数の関係。コードの打ち込み練習。 事後学習として復習120分程度
第3回	コード進行：基本的なパターン。ダイアトニックコード。循環コードなど。 事後学習として復習120分程度
第4回	リズムセクション(1)：ドラムセットの扱い。基本的なドラムパターン(8ビート)。ピアノロールビューでの打ち込み。グループを出してみよう。 事後学習として復習120分程度
第5回	リズムセクション(2)：ドラムトラック制作の2回目。フィルインを知る。オリジナルなパターンの制作。基本パターンとフィルインを用いた8小節のドラムを打ち込む。 事後学習として復習120分程度
第6回	ベースライン：ベースラインを入れる。コードとベースの関係。ルート音のベース。コード構成音を使ったベース。メロディを奏でるベース。 事後学習として復習120分程度
第7回	メロディ、ソロを入れよう：メロディパートの制作。楽器の選定、リード音の活用。 事後学習として復習120分程度
第8回	ギターの打ち込みをしよう。アコースティックギターとエレキギターの違い。それぞれの表現方法を学ぶ。ポインティング（TAB譜）、コードの打ち込み。 事後学習として復習120分程度
第9回	ストリングスを学び打ち込みをする。楽器の種類と音域（ヴァイオリン・ヴィオラ・チェロ・コントラバスなどの弦楽器）。音色の特徴。様々な表現方法。 事後学習として復習120分程度

第10回	楽曲の構成。定番の要素、構成の例を学んで期末課題に応用します。 事後学習として復習120分程度			
第11回	期末課題の制作(1)：オリジナル作品の制作。詳細は講義で指示します。 事後学習として課題制作120分程度			
第12回	期末課題の制作(2)：オリジナル作品の制作。詳細は講義で指示します。 事後学習として課題制作120分程度			
第13回	期末課題の制作(3)：オリジナル作品の制作。詳細は講義で指示します。 事後学習として課題制作120分程度			
第14回	期末課題の制作(4)：オリジナル作品の制作。詳細は講義で指示します。 事後学習として課題制作120分程度			
第15回	オリジナル作品の発表会：提出された作品の中から優秀なものを選んで鑑賞。特に優秀な作品は、Webで発表、CD化など。 事後学習として課題の振り返り等120分程度			
講義進行方法、課題へのフィードバック方法	<p>※ 授業へは、必ず各自でヘッドフォンまたはイヤフォン（ステレオ）を持参すること。</p> <p>※ 3年次音楽系ゼミを希望する学生は必ず履修すること。</p> <p>※ MIDI制作演習Iの内容を踏まえ講義を進めます。</p> <p>成績フィードバック期間において成績・課題に関する質問やフィードバックを受け付ける</p>			
アクティブラーニング	実習、フィールドワーク			
講義前・講義後の自主的学修活動への助言	MIDI制作演習Iで習得した音楽制作ソフトGrageBandの基本操作を復習 コード楽器(ピアノ、ギター)に触れる機会を作りましょう			
成績（達成度）評価方法・評価基準、割合	授業への参加状況20%、平常課題40%、期末課題40%で評価します。 授業への欠席が6回以上、期末課題の提出がない場合は欠席の扱いとなります。			
教員の実務経験と授業科目との関連	<p>(教員の实務経験と授業科目との関連)</p> <p>アーティスト、声優などへの楽曲提供(作曲、編曲)をしており、その実務経験を本授業科目のMIDI制作演習の内容に活かした実践的な教育を実施している。</p>			
テキスト				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
『特になし。』				
参考図書など				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考URL				
NO	表示名	URL	説明	
1.				
2.				
3.				
4.				
5.				

講義コード	1200016301
講義名	サウンドクリエーション
開講期	2024年度後期
単位数	2単位
授業形態	講義
担当教員	柴山 一幸
ナンバリングコード	22M2C4303

科目概要	実際の音楽制作現場で行われていることをミニマムな形で再現します。音楽制作ソフトを使用し、コンピュータによる音作りから、編集ミックスまで解説します。原音に対して効果的なエフェクト処理やそれぞれのエフェクト解説を行います。ソフトシンセで作成したオーディオデータ、実際の音を録音したオーディオデータの編集を行います。譜面が読めなくても一向に構いません。
達成目標	音楽制作ソフトの意義、方法を理解し実践できるようにする。1年生で音楽ソフト、Midiの基本を学んだ人は更にステップアップした作品を制作する。オリジナル作品作成のきっかけとなる知識を身につける。特に重点的にエフェクターを学び音響技術も同時に身に付ける。
履修に必要な予備知識や技能（関連科目等）	MIDI制作演習Ⅰ、Ⅱで習得した音楽制作ソフトGrageBandの基本操作
学位授与方針との関連	2. 専修コースにおいて、情報理論、映像史、音響、色彩など、必要な知識・教養を身につけている。 3. 専修コースにおいて、プログラミング、映像制作、PA、グラフィックデザインなど、必要な技術・技能を身につけている。 4. 専修コースにおいて、アプリ企画、映像作品制作、コンサート、展示会など、実務的な企画・提案・実践を協働して行うことができる。
授業計画、授業外学習の内容及び必要な時間	
第1回	イントロダクション：サウンド制作とはどのようなものなのか？ 授業の復習に120分程度
第2回	波形編集 授業の復習に120分程度
第3回	エフェクト処理(1)「インサートエフェクト、センドエフェクト、空間系、ダイナミクス系の解説」 EQ(イコライザー)解説 授業の復習に120分程度
第4回	エフェクト処理(2)リバーブ 授業の復習に120分程度
第5回	エフェクト処理(3)ディレイ 授業の復習に120分程度
第6回	エフェクト処理(4)「コンプレッサー、リミッター、ディストーション」 授業の復習に120分程度
第7回	Pan&Volume調整。autoミックスの方法。 授業の復習に120分程度
第8回	ラジオジングル制作(1)実際の音を録音してみよう！オーディオインターフェース利用。 授業の復習に120分程度
第9回	ラジオジングル制作(2) 波形編集、エフェクト、Pan&Volume調整で大学のラジオジングルを制作。 授業の復習に120分程度

第10回	マスタリング 授業の復習に120分程度			
第11回	期末課題の制作(1)：オリジナル作品の制作。詳細は講義で指示します。 授業の復習と課題の制作120分程度			
第12回	期末課題の制作(2)：オリジナル作品の制作。詳細は講義で指示します。 授業の復習と課題の制作120分程度			
第13回	期末課題の制作(3)：オリジナル作品の制作。詳細は講義で指示します。 授業の復習と課題の制作120分程度			
第14回	期末課題の制作(4)：オリジナル作品の制作。詳細は講義で指示します。 授業の復習と課題の制作120分程度			
第15回	オリジナル作品の発表会：提出された作品の中から優秀なものを選んで鑑賞。特に優秀な作品は、Web で発表、CD化など。 授業の復習と全体の振り返りに120分程度			
講義進行方法、課題へのフィードバック 方法	※ 授業へは、必ず各自でヘッドフォンまたはイヤフォン（ステレオ）を持参すること。 ※ MIDI制作演習2の内容を踏まえ講義を進めます。 成績フィードバック期間において成績に関する質問やフィードバックを受け付ける。			
アクティブラーニング	実習、フィールドワーク			
講義前・講義後の自主的学修活動への助 言	MIDI制作演習Iで習得した音楽制作ソフトGrageBandの基本操作を復習			
成績（達成度）評価方法・評価基準、割 合	授業への参加状況20%、平常課題40%、期末課題40%で評価します。 授業への欠席が6回以上、期末課題の提出がない場合は欠席の扱いとなります。			
教員の実務経験と授業科目との関連	（教員の実務経験と授業科目との関連） アーティスト、声優などへの楽曲提供（作曲、編曲）をしており、その実務経験を本授業科目のサウンド クリエーションの内容に活かした実践的な教育を実施している。			
テキスト				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
『使用しない』				
参考図書など				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考URL				
NO	表示名	URL	説明	
1.				
2.				
3.				
4.				
5.				

講義コード	1200023901
講義名	舞台制作
開講期	2024年度後期
単位数	2単位
授業形態	講義
担当教員	大内 啓之
ナンバリングコード	19M4C6203

科目概要	舞台催事について、企画、制作、実施までのプロセスを理解できる。 舞台催事に関わる業務の遂行に必要な基礎知識を実践できる。
達成目標	制作業務の内容の把握と、舞台制作に必要な基礎知識の習得、及び制作過程で必要な書類の作成、手続き、申請等の業務の遂行と各種調整業務、催事の実施および運営を実践できる。
履修に必要な予備知識や技能（関連科目等）	舞台芸術全般に関する理解。 舞台用語、劇場のシステムの理解。 音響、照明、舞台進行に関する基礎知識。
学位授与方針との関連	2. 専修コースにおいて、情報理論、映像史、音響、色彩など、必要な知識・教養を身につけている。 3. 専修コースにおいて、プログラミング、映像制作、PA、グラフィックデザインなど、必要な技術・技能を身につけている。 4. 専修コースにおいて、アプリ企画、映像作品制作、コンサート、展示会など、実務的な企画・提案・実践を協働して行うことができる。
授業計画、授業外学習の内容及び必要な時間	
第1回	オリエンテーション・講義の進め方 舞台制作に関わる人々と業務内容 舞台制作の手順（制作プロセス）について ・企画、制作、実施、運営 （事後学習：授業内容の復習120分程度）
第2回	制作業務1（実施計画全体について） ・情報の整理（様々な「すべきこと」を「誰が」「いつまでに」「どのようにするか」を決めて文書化します。） ・実施計画書の内容（実施概要、制作スケジュール、当日スケジュール、実施運営組織図、スタッフなど） ・実施計画書の内容（会場図面、広告宣伝、サイン計画など、予算計画） （事後学習：授業内容の復習120分程度）
第3回	劇場（舞台）に関する基礎知識 ・各種図面の読み方書き方（ステージ平面図、立面図等） ・舞台設備に関する実習（体育館で実施予定） 舞台制作に関わるスタッフの業務内容1 ・舞台美術スタッフの役割 （事後学習：授業内容の復習120分程度）
第4回	制作業務2（運営組織とスタッフ編成について） ・主催、共催、後援、協賛、協力等、事業主体の組織編成 ・スタッフの選定と発注 （事後学習：授業内容の復習120分程度）
第5回	制作業務3（会場との調整、出演者との調整について） ・会場の選定、会場の確保（貸館業務の実際） ・会場との打合せ内容（どういう相手と何を確認するのか） ・出演者の選定～出演交渉 ・出演条件の交渉と契約 （事後学習：授業内容の復習120分程度）
第6回	制作業務4（予算管理と票券管理、営業、広告宣伝について） ・費用の算定と入出金管理 ・チケット営業と広告宣伝 （事後学習：授業内容の復習120分程度）
第7回	制作業務5 ・記録、報告書の作成 ・会計処理 （事後学習：授業内容の復習120分程度）
第8回	制作業務6 ・リスクマネジメント（実際に運営するためになりに細かい部分まで想定し対応を決めておきます。） ・保険などについて （事後学習：授業内容の復習120分程度）
第9回	舞台制作に関わるスタッフの業務内容2 ・音響スタッフの役割 ・拡声、音だし等の実例を、簡易PAシステムを使用し解説 （事後学習：授業内容の復習120分程度）

第10回	舞台制作に関わるスタッフの業務内容3 ・照明スタッフの役割 ・プランニングについて（実演内容の把握～打合せ～仕込図作成） ・現場での動きの実例を、簡易LED照明システムを使用し解説 ・舞台美術との関係について （事後学習：授業内容の復習120分程度）			
第11回	舞台の構成演出 ・演出家の仕事について ・演出家の意図を具体化する各プランナーについて ・舞台演出の実例 （舞台装置によるもの、音響効果によるもの、照明効果によるもの、映像を使った効果、特殊効果、その他の効果の紹介） （事後学習：授業内容の復習120分程度）			
第12回	舞台進行の実際1（イベント当日のスケジュールと業務内容） ・実施当日のスケジュールと具体的な舞台業務 ・舞台監督について ・テクニカルスタッフ（音響、照明、舞台等）との調整について （事後学習：授業内容の復習120分程度）			
第13回	舞台進行の実際2（イベント当日のスケジュールと業務内容） ・進行表、進行台本 ・当日タイムスケジュール、舞台図面について （事後学習：授業内容の復習120分程度）			
第14回	実施運営に関する業務 ・運営マニュアルについて ・運営（来場者対応等）のシミュレーションを実習体験 （事後学習：授業内容の復習120分程度）			
第15回	舞台進行の実際3 ・舞台業務の実例VTRを参考に解説 ・劇場設備、舞台機構について復習 ・専門用語と舞台用語のテスト実施 （事後学習：授業内容の復習120分程度）			
講義進行方法、課題へのフィードバック方法	舞台制作現場での実例を織り交ぜ、各回の内容をレクチャーしたのち、関連する課題を示し授業内で資料収集や書類作成を行いません。また、舞台関連の専門用語を理解するため、随時、専門用語・舞台用語の理解度を小テストの形式で確認します。成績フィードバック期間において成績・課題に関する質問やフィードバックを受け付ける			
アクティブラーニング	実習、フィールドワーク			
講義前・講義後の自主的学修活動への助言	制作はあらゆる分野との調整業務が発生します。自分自身の意見を出来るだけ正確に相手に伝える能力が必要です。どんな良いアイデアも、相手(受け手)に伝わらないのでは実現しません。日常生活から得られるすべての知識や経験を活かして、どうすれば伝わるのかを考える事を心がけて下さい。			
成績（達成度）評価方法・評価基準、割合	受講姿勢10%、課題レポート40%、授業内で作成する書類の提出状況30%、小テスト20%（締め切り厳守）を総合的に判断			
教員の実務経験と授業科目との関連	実務として、舞台・催事の音響に多く関わっており、本科目「舞台制作」へ、経験を活かした実践的な教育を実施している。			
テキスト				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
『なし』				
参考図書など				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
『舞台技術の共通基礎』	劇場等演出空間運用基準協議会		978-4-904894-18-7	2014年
『舞台監督の仕事』	加藤正信	レクラム社	978-4-947575-31-9	1999年
参考URL				
NO	表示名	URL	説明	
1.				
2.				
3.				
4.				
5.				

講義コード	1200017601
講義名	システム開発論
開講期	2024年度前期
単位数	2単位
授業形態	講義
担当教員	村山 聡江
ナンバリングコード	19M4A5301

科目概要	<p>本講義は、システム開発の全体像を理解し、その過程で必要とされる知識とスキルを習得することを目的とする。初めに、システム開発の流れや手法に関する基本的な理解を深める。その後、システム開発プロセスの各段階について詳細に学ぶ。</p> <p>前半部では、システム開発に必要な理論を解説する。この内容は、基本情報技術者試験における「システム開発技術」および「システム関連の各種マネジメント」の分野に相当する。後半部では、実際のビジネスケースを基にした演習を通じて、理論の理解を実践的な形で深める。</p>
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・システム開発の流れ、開発手法、業務のモデル化、ユーザーインターフェース設計、テスト手法、開発コストの見積もり、スケジュール管理、ITサービスマネジメント、システム監査などの理論を理解する。 ・総合演習を通じて、実際のプロジェクトで応用可能な文書作成や管理スキルを身につける。 ・グループワークを通じて、チームでのプロジェクト運用能力とコミュニケーションスキルを強化する。
履修に必要な予備知識や技能（関連科目等）	<p>関連科目に「コンピュータネットワーク」「ファイル管理」「データベース」「セキュリティ」「プログラミング」がある。また、Word、Excel、PowerPointの基本操作ができることが望ましい。</p>
学位授与方針との関連	<ol style="list-style-type: none"> 1. 情報メディアに関して、基礎的な情報処理技術、ソフトウェアについての知識、また、資格試験の学修内容等、基礎的な知識・技能を身につけている 2. 専修コースにおいて、情報理論、映像史、音響、色彩など、必要な知識・教養を身につけている。
授業計画、授業外学習の内容及び必要な時間	
第1回	<p>システム開発（全体）：システム開発プロセスの全体像 基本的な情報システム概念や、システム開発プロセスの全体像について解説する。また、講義の進め方や成績評価方法等も説明する。 インターネットで「システム開発」「企業」などのキーワードで検索し、実際にシステム開発を行う企業や業務内容について調査する（予習・復習にそれぞれ60分）。</p>
第2回	<p>システム開発技術（1）：システム開発の流れ システムを開発する流れについて、「調達」「基本計画（要件定義）」「システム設計」「プログラミング」「テスト」の項目について概説する。その中の「調達」及び「基本計画」についてその手順や必要なドキュメントについて解説する。 システム開発に登場するプレイヤー及び必要な項目を確認しながら、授業内容をノートにまとめる（予習・復習にそれぞれ60分）</p>
第3回	<p>システム開発技術（2）：システム開発手法 システム開発の手法のうち、ウォーターフォールモデル、プロトタイプモデル、スパイラルモデル、アジャイルモデルについて解説した後、開発コストを抑えるための手法であるRAD、リバースエンジニアリング、マッシュアップについても解説を行う。また各開発工程の完了時に行うレビューについても解説を行う。 各開発手法の違いを確認しながら、授業内容をノートにまとめる（予習・復習にそれぞれ60分）。</p>
第4回	<p>システム開発技術（3）：要件定義と業務のモデル化 システム開発の初期段階で重要となる要件定義と業務のモデル化について解説する。業務のモデル化の中でも代表的なDEF図について解説したのち、演習を通して実際に図を作成する事で理解を深める。 業務のモデル化の方法について確認しながら、授業内容をノートにまとめる（予習・復習にそれぞれ60分）。</p>
第5回	<p>システム開発技術（4）：UIとUX システム設計のうちの外部設計段階で重要な、UIとUXについて解説を行う。特にUIでは、CUIとGUIについて解説した後、ユーザビリティを考慮したUIの設計について実例を見ながら解説を行う。またコード設計、入力のチェック方法についても解説を行う。 UIとUXの違いを確認しながら、授業内容をノートにまとめる（予習・復習にそれぞれ60分）。</p>
第6回	<p>システム開発技術（5）：モジュールの分割とテスト システム設計のうちの内部設計で行うモジュールの分割方法について概説する。モジュールの分割についてモジュールに分ける利点と留意点、モジュールの分割技法及びモジュールの独立性を測る尺度について解説する。またテスト工程について概説する。「ブラックボックステスト」「ホワイトボックステスト」「トップダウンテスト」「ボトムアップテスト」「リグレッションテスト」等の各テストの手法及び、バグ管理図について解説を行う。 モジュールの分割技法及びモジュール強度、結合度、テストの各手法について確認しながら、授業内容をノートにまとめる（予習・復習にそれぞれ60分）。</p>
第7回	<p>システム周りの各種マネジメント（1）：プロジェクトマネジメントとスケジュール管理 プロジェクトマネジメントの技法を体系的にまとめたPMBOKについて概説する。スケジュール管理に用いる「ガントチャート」「アローダイアグラム」「プレシデンスダイアグラム」について解説した後、演習を通して実際に図を作成することで理解を深める。 プロジェクトマネジメントの技法及びスケジュール管理の手法について確認しながら、授業内容をノートにまとめる（予習・復習にそれぞれ60分）。</p>
第8回	<p>システム周りの各種マネジメント（2）：ITサービスマネジメントとシステム監査 顧客の要求を満たすITサービスを効果的に提供できるようなマネジメント手法であるITサービスマネジメントについて、「サービスサポート」「サービスデリバリー」「ファシリティマネジメント」について解説する。また、システム監査人に求められる要素やシステム監査の手順、監査報告について解説を行う。 ITサービスマネジメントの各手法とシステム監査で気を付けることを確認しながら、授業内容をノートにまとめる（予習・復習にそれぞれ60分）。</p>
第9回	<p>総合演習（1）：WBS 発注元の立場で開発スタートとなるWBSの作成を行う。発注元側のPM（プロジェクトマネージャー）の立場でプロジェクト完済までに必要なタスクをグループで検討し、図にまとめる。 WBSについて配布資料やインターネットを使い、ノートにまとめる（予習・復習にそれぞれ60分）。</p>
第10回	<p>総合演習（2）：見積 開発案件の受注の際に重要となる見積について、代表的な手法について解説を行った後、グループ演習にて実際に見積もりを行う。 演習では主にアジャイル開発の中で用いられるプランニングポーカーを用いた見積もりを行い、それを元に個人で見積書の作成を行う。 見積の手法について配布資料やインターネットを使い、ノートにまとめる（予習・復習にそれぞれ60分）。</p>

第11回	総合演習（3）：要件定義 小規模事業者から依頼を受けたと仮定する開発案件を題材に、顧客との打ち合わせ資料から要件定義書を作成する演習を行う。システムエンジニアに求められるコミュニケーションスキルについても解説を行い、実際に「背景」「目的」「実現すべき機能」について、要件定義書に記載していく。 要件定義書について配布資料やインターネットを使い、ノートにまとめる（予習・復習にそれぞれ60分）。			
第12回	総合演習（4）：マネジメント 小規模事業者から依頼を受けたと仮定する開発案件を題材に、マネジメントの一環としてスケジュール管理の演習を行う。実際に開発計画表を元にガントチャートとアローダイアグラムを作成する。 開発計画およびシステム開発におけるスケジュール管理について配布資料やインターネットを使い、ノートにまとめる（予習・復習にそれぞれ60分）。			
第13回	総合演習（5）：画面設計（UIデザイン） 小規模事業者から依頼を受けたと仮定する開発案件を題材に、これまでの演習内容を元に画面設計の演習を行う。ユーザビリティについて概説した後、UIデザイン及びその後工程であるワイヤフレームについて解説を行う。先の演習で作成した要件定義書を元に必要なGUIの部品を選択しながら、UI設計をグループで検討し、それを元に個人でUIデザインを作成する。 ユーザビリティ及び画面設計について配布資料やインターネットを使い、ノートにまとめる（予習・復習にそれぞれ60分）。			
第14回	総合演習（6）：画面設計（ワイヤフレーム） 小規模事業者から依頼を受けたと仮定する開発案件を題材に、これまでの演習内容を元に画面設計の演習を行う。ワイヤフレームについて概説し、その後工程である画面デザインとの違いやそのメリットを学ぶ。先の演習で作成したUIデザインを元にワイヤフレーム作成を行う。 ワイヤフレームと画面デザインについて配布資料やインターネットを使い、ノートにまとめる（予習・復習にそれぞれ60分）。			
第15回	システム開発（全体） これまでの演習の振り返りを行い、システム開発の各フェーズや全体像についておさらいする。 また、前半の講義内容も振り返りながら重要語句や開発手法について再度説明を行うことで、実際のビジネスケースとの関連について理解を深める。 （予習として、今までの演習課題の振り返り60分・全配布資料の復習60分）			
講義進行方法、課題へのフィードバック方法	講義スライドを使って講義を行う。講義資料は一部WebClassにもアップする。講義内容の理解を深めるため、確認テスト及びミニ演習課題を適宜実施する。第9回～第14回は小規模事業者から依頼を受けたと仮定する開発案件を題材に、より実際の開発案件（主に上流工程）の流れを踏襲した総合演習を行う。確認テストは授業中に解説し、提出された課題についてはWebClassからフィードバックを行い、次回の講義の最初に解説を行う。			
アクティブラーニング	実習、フィールドワーク/グループワーク			
講義前・講義後の自主的学修活動への助言	実際の開発現場では、インターネット（生成AIを含む）の活用が不可欠である。講義前には、シラバスに記載されているキーワードについてインターネットを利用して事前に調査するなど、インターネットの活用能力を高めることを意識して欲しい。この活動は、情報収集スキルの向上にも役立つ。 講義後は、身の回りのソフトウェアやWebページを観察し、講義で学んだ技術がどのように社会で製品化されているかを意識して欲しい。この実践は、学んだ知識を実世界の事例と関連付け、理解を深めるのに役立つ。			
成績（達成度）評価方法・評価基準、割合	定期試験（60%）、授業時の確認テスト及びミニ課題（10%）、総合演習の提出・達成状況（30%）により評価する。また、講義及び確認テスト、総合演習時の取組状況及び積極的な質問等も評価する。			
教員の実務経験と授業科目との関連	大手モバイル通信事業会社にて、システム開発やアプリ開発をした実務経験を有する。また、プロジェクトマネージャーとして、プロジェクトを牽引した経験を有する。本講義では、企業における基本情報技術者試験合格レベルの知識の必要性を交えながら講義し、実際のシステム開発部門で発生しがちな事案や求められる人物像についても教授している。			
テキスト				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考図書など				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
ずっと受けなかったソフトウェアエンジニアリングの新人研修 第3版 エンジニアになったら押さえておきたい基礎知識	飯村 結香子（著）、大森 久美子（著）、西原 琢夫（著）、川添 雄彦（監修）	翔泳社	978-4798157566	
キタミ式イラストIT塾 基本情報技術者 令和06年（情報処理技術者試験）	きたみりゅうじ	技術評論社	978-4297138073	
参考URL				
NO	表示名	URL	説明	
1.				
2.				
3.				
4.				
5.				

講義コード	110000503
講義名	日本語力 I (情報メディア)
開講期	2024年度前期
単位数	1単位
授業形態	講義
担当教員	落合 洋文、黒瀬 聡、栗林 芳彦、井上 朋彦
ナンバリングコード	22M1Z3103

科目概要	データサイエンスの基礎として、情報メディア学科の日本語力 I・II では、AI に関する基本的な知識と、自然言語処理の基礎を具体例に即して (たとえば特化型 AI の企画書を作成するという形で) 実践的に学ぶ。
達成目標	日本語力 II で特化型 AI の企画書やプレゼンを作成するので、日本語力 I ではそのことを念頭に置いて、AI にできること、AI の仕組み、AI と人間のちがひ、機械学習やディープラーニングなどについて理解できることを目標にする。また日本語の構造を理解し、意味が一義的に確定する論理的な説明文の書き方を身につける。
履修に必要な予備知識や技能 (関連科目等)	特別な予備知識は必要ないが、さまざまなニュースソースを通じて AI についての幅広い知識を持っておくことが日本語力 II で行う AI 企画書の作成には必要である。
学位授与方針との関連	1. 情報メディアに関して、基礎的な情報処理技術、ソフトウェアについての知識、また、資格試験の学修内容等、基礎的な知識・技能を身につけている 5. 専門科目の学習の基盤となる教養と基礎教育の能力を身につける。
授業計画、授業外学習の内容及び必要な時間	
第1回	日本語力 I (第1回から第8回) では主に AI の基礎知識を学ぶ。各回とも授業後に友人と授業内容について30分程度の振り返りを行うとよい。 第1回は「AI とは何か」を関連書籍から記事を集めて紹介し、それについて自由な討議を行う。 事後学習 60分程度
第2回	「AI はわたしたちの生活をどう変えるのか」をさまざまなニュース記事を通して考える。 事前事後学習 60分程度
第3回	「AI と人間のちがひ」について関連の文献をもとにして考えてみる。自動運転車などの実例から、AI は基本的に膨大なデータを統計的に処理することで予測や判断を行っていることを理解する。 事前事後学習 60分程度
第4回	「AI と人間のちがひ」について哲学的な観点も交えてさらに深く考えてみる。特にこの回では人間が人間らしい思考をする基盤とは何かという問題について考えてみる。カントの『純粋理性批判』やドレイフェスの『コンピュータには何ができないか』を参考にする。 事前事後学習 60分程度
第5回	人間はどのようにものを考えているか。このことを日本語という自然言語に即して考えてみる。特にこの回ではわかりやすい説明文の書き方という問題を通じて人間の言語処理のあり方を理解する。 事前事後学習 60分程度
第6回	接続詞と論理構造の関係に注目し、日本語という自然言語の特徴を理解する。この問題を通じて人間の言語処理の特徴を確認する。この回の内容は練習問題に答えることで理解が深まるので、授業後1時間から2時間の復習が必要である。 事前事後学習 60分程度
第7回	第6回と第7回に学んだ日本語という自然言語の特徴を踏まえ、さまざまな文の構造上の問題 (なぜ悪文と呼ばれるものが存在するのか) を理解し、文の構造の分析方法を学ぶ。 事前事後学習 60分程度
第8回	第7回の内容を復習し、チェックテストを行って各回で学んだ知識の程度を評価する。 事前事後学習 60分程度
第9回	日本語力 II (第9回から第15回) では特化型 AI の企画書を作成する。企画書の作成は原則としてグループ単位で行うので、資料収集や文書の作成のために、各回ともグループとして1から2時間の準備が必要となる。 欲しい AI、社会から必要とされる AI とはどのようなものか。ブレインストーミングを行って、特化型 AI の企画書の構想を練る。 事前事後学習 60分程度

第10回	第9回で考えた特化型AIで何が実現できるか、それが現状をどう変えるのかを具体的に整理し、報告書にまとめる。 事前事後学習60分程度			
第11回	自分たちが企画するAIを実現するためにはどんな知識や情報が必要なのか、何が障害になりうるのかをリストアップし、報告書にまとめる。 事前事後学習60分程度			
第12回	第11回までの議論をもとにして、AIの企画書をまとめる。 事前事後学習60分程度			
第13回	企画書にまとめたAIの構想を実現するために必要な人、モノ、カネを洗い出し、実現の方策を考える。 事前事後学習60分程度			
第14回	I 企画を実現するためにはスポンサーを募る必要がある。今回はそのための広報戦略を立てる。 事前事後学習60分程度			
第15回	最終報告書を作成し提出する。 事前学習60分程度			
講義進行方法、課題へのフィードバック方法	日本語力I（第1回から第8回）では主にAIやデータサイエンスの基礎知識を学ぶ。日本語力II（第9回から第15回）では特化型AIの企画書・プレゼンを作成する。毎回の授業は教員からの資料提示と話題提供の後、学生による自由討議を行い、報告書を提出する。教員は講師の3名で担当する。成績フィードバック期間において成績に関する質問やフィードバックを受け付ける。			
アクティブラーニング	PBL【Project Based Learning】自ら問題を発見し解決する能力を養うことを目的とした課題解決型学習／ディスカッション、ディベート／プレゼンテーション／グループワーク			
講義前・講義後の自主的学修活動への助言	講義後に友人と振り返りの議論を行うと企画書・プレゼンの作成に役立つ。			
成績（達成度）評価方法・評価基準、割合	第1回から第8回までの学修内容は第8回に行うチェックテストの成績を100%として評価する。第9回から第15回までの学修内容は最終提出物を100%として評価する。			
教員の實務経験と授業科目との関連	大手外資系製薬会社研究所において新薬開発に従事した経験および数多くの著書の執筆としての活動歴は企画書の作成実習に不可欠である。			
テキスト				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
必要の応じて資料を配布				
参考図書など				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
AIにできること、できないこと	藤本浩司・柴原一友	日本評論社	9784535788770	
AIにはなにができないか	M. Broussard	作品社	9784861827617	
コンピュータには何ができないか	H. L. Dreyfus	産業図書	47828006900104429	
参考URL				
NO	表示名	URL	説明	
1.				
2.				

講義コード	110000601
講義名	日本語力Ⅱ（情報メディア）
開講期	2024年度前期
単位数	1単位
授業形態	講義
担当教員	落合 洋文、黒瀬 聡、栗林 芳彦、井上 朋彦
ナンバリングコード	22M1Z3103

科目概要	データサイエンスの基礎として、情報メディア学科の日本語力Ⅰ・Ⅱでは、AIに関する基本的な知識と、自然言語処理の基礎を具体例に即して（たとえば特化型AIの企画書を作成するという形で）実践的に学ぶ。
達成目標	日本語力Ⅱで特化型AIの企画書やプレゼンを作成するので、日本語力Ⅰではそのことを念頭に置いて、AIにできること、AIの仕組み、AIと人間のちがひ、機械学習やディープラーニングなどについて理解できることを目標にする。また日本語の構造を理解し、意味が一義的に確定する論理的な説明文の書き方を身につける。
履修に必要な予備知識や技能（関連科目等）	特別な予備知識は必要ないが、さまざまなニュースソースを通じてAIについての幅広い知識を持っておくことが日本語力Ⅱで行うAI企画書の作成には必要である。
学位授与方針との関連	1. 情報メディアに関して、基礎的な情報処理技術、ソフトウェアについての知識、また、資格試験の学修内容等、基礎的な知識・技能を身につけている 5. 専門科目の学習の基盤となる教養と基礎教育の能力を身につける。
授業計画、授業外学習の内容及び必要な時間	
第1回	日本語力Ⅰ（第1回から第8回）では主にAIの基礎知識を学ぶ。各回とも授業後に友人と授業内容について30分程度の振り返りを行うとよい。 第1回は「AIとは何か」を関連書籍から記事を集めて紹介し、それについて自由な討議を行う。 事後学習60分程度
第2回	「AIはわたしたちの生活をどう変えるのか」をさまざまなニュース記事を通して考える。 事前事後学習60分程度
第3回	「AIと人間のちがひ」について関連の文献をもとにして考えてみる。自動運転車などの事例から、AIは基本的に膨大なデータを統計的に処理することで予測や判断を行っていることを理解する。 事前事後学習60分程度
第4回	「AIと人間のちがひ」について哲学的な観点も交えてさらに深く考えてみる。特にこの回では人間が人間らしい思考をする基盤とは何かという問題について考えてみる。カントの『純粹理性批判』やドレイフェスの『コンピュータには何ができないか』を参考にする。 事前事後学習60分程度
第5回	人間はどのようにものを考えているか。このことを日本語という自然言語に即して考えてみる。特にこの回ではわかりやすい説明文の書き方という問題を通じて人間の言語処理のあり方を理解する。 事前事後学習60分程度
第6回	接続詞と論理構造の關係に注目し、日本語という自然言語の特徴を理解する。この問題を通じて人間の言語処理の特徴を確認する。この回の内容は練習問題に答えることで理解が深まるので、授業後1時間から2時間の復習が必要である。
第7回	第6回と第7回に学んだ日本語という自然言語の特徴を踏まえ、さまざまな文の構造上の問題（なぜ悪文と呼ばれるものが存在するのか）を理解し、文の構造の分析方法を学ぶ。 事前事後学習60分程度
第8回	第7回の内容を復習し、チェックテストを行って各回で学んだ知識の程度を評価する。 事前事後学習60分程度
第9回	日本語力Ⅱ（第9回から第15回）では特化型AIの企画書を作成する。企画書の作成は原則としてグループ単位で行うので、資料収集や文書の作成のために、各回ともグループとして1から2時間の準備が必要となる。 欲しいAI、社会から必要とされるAIとはどのようなものか。ブレインストーミングを行って、特化型AIの企画書の構想を練る。 事前事後学習60分程度

第10回	第9回で考えた特化型AIで何が実現できるか、それが現状をどう変えるのかを具体的に整理し、報告書にまとめる。 事前事後学習60分程度			
第11回	自分たちが企画するAIを実現するためにはどんな知識や情報が必要なのか、何が障害になりうるのかをリストアップし、報告書にまとめる。 事前事後学習60分程度			
第12回	第11回までの議論をもとにして、AIの企画書をまとめる。 事前事後学習60分程度			
第13回	企画書にまとめたAIの構想を実現するために必要な人、モノ、カネを洗い出し、実現の方策を考える。 事前事後学習60分程度			
第14回	I 企画を実現するためにはスポンサーを募る必要がある。今回はそのための広報戦略を立てる。 事前事後学習60分程度			
第15回	最終報告書を作成し提出する。 事前学習60分程度			
講義進行方法、課題へのフィードバック方法	日本語力I（第1回から第8回）では主にAIやデータサイエンスの基礎知識を学ぶ。日本語力II（第9回から第15回）では特化型AIの企画書・プレゼンを作成する。毎回の授業は教員からの資料提示と話題提供の後、学生による自由討議を行い、報告書を提出する。教員は講師の3名で担当する。成績フィードバック期間において成績に関する質問やフィードバックを受け付ける。			
アクティブラーニング	PBL【Project Based Learning】自ら問題を発見し解決する能力を養うことを目的とした課題解決型学習／ディスカッション、ディベート／プレゼンテーション			
講義前・講義後の自主的学修活動への助言	講義後に友人と振り返りの議論を行うと企画書・プレゼンの作成に役立つ。			
成績（達成度）評価方法・評価基準、割合	第1回から第8回までの学修内容は第8回に行うチェックテストの成績を100%として評価する。第9回から第15回までの学修内容は最終提出物を100%として評価する。			
教員の実務経験と授業科目との関連	大手外資系製薬会社研究所において新薬開発に従事した経験および数多くの著書の執筆者としての活動歴は企画書の作成実習に不可欠である。			
テキスト				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
必要に応じて資料を配布				
参考図書など				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
AIにできること、できないこと	藤本浩司・柴原一友	日本評論社	9784535788770	
AIにはなにができないか	M. Broussard	作品社	9784861827617	
コンピュータには何ができないか	H. L. Dreyfus	産業図書	47828006900104429	
参考URL				
NO	表示名	URL	説明	
1.				
2.				
3.				

講義コード	1100004001
講義名	芸術
開講期	2024年度後期
単位数	2単位
授業形態	講義
担当教員	木村 亮介
ナンバリングコード	19F1Z9202、22M1Z9202

科目概要	様々な表現や発見を通して芸術に親しむことで、豊かな発想や想像力を育む。自然や人間に対するまなざしから文化としての芸術を捉え、生活をより豊かにする芸術の歴史と心情、また最先端の表現方法まで幅広い視点から「みる力」と「表現する力」を学び、今日の芸術の理解につなげる。
達成目標	芸術表現を通して、豊かな発想や想像力で「つくる力」とともに、物事をよく観て観察する「みる力」を身に付ける。描画材によるトレーニングをはじめ、芸術的視点から自分のアイデアを表現できる。
履修に必要な予備知識や技能（関連科目等）	制作に必要な道具や材料を適宜購入してもらうことがある。
学位授与方針との関連	5. 専門科目の学習の基盤となる教養と基礎教育の能力を身につける。（情報メディア学科） 5. 社会人としての教養に関わる科目等（フードビジネス学科）
授業計画、授業外学習の内容及び必要な時間	
第1回	イントロダクション：芸術とは何か 芸術の基礎知識について説明 キーワード：芸術 予習・復習としてインターネットで「芸術」について調査（各60分）
第2回	鉛筆デッサン1：デッサン基礎～写真をモチーフにした陰影表現 モチーフデッサン キーワード：観察 予習・復習としてデッサン練習（各60分）
第3回	鉛筆デッサン2：パースによる立体感の表現 立体デッサン演習 キーワード：パース、遠近法 予習・復習として立体物のデッサン練習（各60分）
第4回	コラージュ作品制作1：要素とする素材収集 コラージュ素材集め キーワード：コラージュ 予習・復習として身の周りのコラージュ制作物を探してまとめる（各60分）
第5回	コラージュ作品制作2：要素とする素材収集 レイアウト、糊付け キーワード：レイアウト 予習・復習として不足素材を収集する（各60分）
第6回	コラージュ作品制作3：作品展示 作品の完成と鑑賞 キーワード：展示、鑑賞 予習・復習として外部の展示スペースに足を運ぶ（各60分）
第7回	美術と表現：表現とは何か 近代芸術におけるドキュメンタリー作品の鑑賞、意見交換 キーワード：コンセプト、メッセージ 予習・復習として芸術に関する映画やドキュメンタリーを鑑賞する（各60分）
第8回	美術館に行こう！：作品鑑賞力を鍛えてみよう 荻須記念美術館に行き作品鑑賞、模写 キーワード：鑑賞、模写 予習・復習として他の展示スペースに足を運ぶ（各60分）
第9回	紙を使った表現I：ステンシル切り絵1～導入 切り絵モチーフを作成する キーワード：ステンシル 予習・復習として切り絵の仕組みを練習して理解する（各60分）

第10回	紙を使った表現Ⅰ：ステンシル切り絵2～モチーフの作成 準備した下絵の補正作業を進める キーワード：下絵制作 予習・復習として切り絵を練習する（各60分）			
第11回	紙を使った表現Ⅰ：ステンシル切り絵3～切り出し 下絵をもとに切り絵を制作する キーワード：デザインナイフ 予習・復習として切り絵を練習する（各60分）			
第12回	紙を使った表現Ⅰ：ステンシル切り絵4～スプレーアート 完成した切り絵を版にスプレーで仕上げる キーワード：ステンシルアート 予習・復習としてスプレーを使った表現についてまとめる（各60分）			
第13回	紙を使った表現ⅠⅠ：ポップアップ1～制作練習 ポップアップ技術の基礎知識演習 キーワード：ポップアップ 予習・復習としてきちんと設計して切り出す練習をする（各60分）			
第14回	紙を使った表現ⅠⅠ：ポップアップ2～構成要素制作 テーマに合ったポップアップを制作 キーワード：仕組み、動き 予習・復習としてポップアップ本をよく検証する（各60分）			
第15回	紙を使った表現ⅠⅠ：ポップアップ3～仕上げ 制作したポップアップに装飾して仕上げる キーワード：世界観 予習・復習としてこれまで制作したものを写真に撮ってまとめる（各60分）			
講義進行方法、課題へのフィードバック方法	特定の教科書は指定しないが、講義によるスクリーンに基づき、制作することによって理解を深める。制作課題のテーマは、自然科学から社会問題までであるが、芸術により親しみ、自由な発想での作品制作を期待する。基礎としてのデッサンおよびドローイングなど技術的養成からコラージュなど感覚的養成までを取り組むが、制作では積極性、意欲を評価するので、講義を聞くと同時に自らのアイデアや制作について意欲的な取り組みが求められる。 成績フィードバック期間において成績・課題に関する質問やフィードバックを受け付ける。			
アクティブラーニング	PBL【Project Based Learning】自ら問題を発見し解決する能力を養うことを目的とした課題解決型学習／反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）／プレゼンテーション／実習、フィールドワーク			
講義前・講義後の自主的学修活動への助言	講義では課題制作が主になるが、自分の中で制作物を「完成」させるために、積極的に制作に取り組んでほしい。授業時間内に完成できなかった場合は、時間外にて補完して完成させること。また、日頃の興味を拡張し、美術館や展覧会に出かけることが望ましい。			
成績（達成度）評価方法・評価基準、割合	授業での課題で制作した作品を総合して評価する。			
教員の実務経験と授業科目との関連	（教員の実務経験と授業科目との関連） 企業における美術製作に関する実務経験を有しており、その実務経験を、本授業科目では「作品というものの多様性」また「作品制作のモチベーション」という観点から指導することで、作品制作における実践的な教育として実施している。			
テキスト				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
『なし』				
参考図書など				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
『バンクシー ビジュアルアーカイブ』	ザビエル・タピエス	グラフィック社	476613141X	2018
『きりのなかのサーカス』	ブルーノ・ムナーリ	フレーベル館	4577036975	2009
『実物で学ぶしかけ絵本の基礎知識ポップアップ』	デビッド・A・カーター他著	大日本絵画	4499279100	2000
参考URL				
NO	表示名	URL	説明	
1.				
2.				